Canon

EOS Kiss Digital X

Canon
EOS Kiss Digital X

キヤノン製品のお買い上げありがとうございます。

　EOS Kiss Digital Xは、約1010万画素の撮像素子を備えた高性能デジタル一眼レフカメラです。本機は、写真表現の楽しみを広げるピクチャースタイル、動いているものにも素早くピントを合わせるオートフォーカス、全自動撮影から高度な撮影まで対応する豊富な機能、ダイレクトプリント機能など、さまざまな特長を備えています。
　また、撮像素子に付着したゴミを取り除くセルフ クリーニング センサーユニットも搭載しています。

撮影しながら操作に慣れましょう

　この使用説明書は、簡単な写真の撮り方を始めとして、さらにステップアップした写真の撮り方まで、さまざまなシーンを例にして説明しています。デジタルカメラは、撮影した結果をその場ですぐに見ることができます。本書を読みながら実際に撮影し、その結果を確認しながら操作に慣れてください。そうすることで、このカメラを使った写真ライフが、よりいっそう楽しいものになることでしょう。
　なお、撮影の失敗や事故を未然に防ぐため、別紙の『安全上のご注意』、および『取り扱い上のご注意』（10、11ページ）をお読みください。

試し撮りと撮影内容の補償について

　撮影後は画像を再生して、画像が正常に記録されていることを確認してください。万一、カメラ（本機）やCFカードなどの不具合により、画像の記録やパソコンへの読み込みがされなかった場合の記録内容の補償については、ご容赦ください。

著作権について

　あなたがカメラ（本機）で記録した権利者のいる被写体の画像は、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興行、展示会などのうちには、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。

写真を楽しむためのホームページをご用意しています

　http://cweb.canon.jp/enjoyphoto/index.html

カメラと付属品の確認

ご使用になる前に、以下のものがすべてそろっているか確認してください。万一、足りないものがあるときは、お買い求めの販売店にご連絡ください。付属のアクセサリーは、システムマップ（p.162）でも確認できます。

- □ **カメラ：EOS Kiss Digital X**
  （アイカップ、ボディキャップ付き、日付/時計機能用電池内蔵）
- □ **レンズ：EF-S18-55mm F3.5-5.6 II USM**
  （レンズキャップ、ダストキャップ付き）*レンズ付きキットをお買い求めの場合
- □ **電池：バッテリーパックNB-2LH**（保護カバー付き）
- □ **充電器：バッテリーチャージャー CB-2LW**
- □ **ケーブル2本**
  - □ **インターフェースケーブル IFC-400PCU**
  - □ **ビデオケーブル VC-100**
- □ **ストラップ：EW-100DBII**（アイピースカバー付き）

- □ **CD-ROM2枚**
  - □ **EOS DIGITAL Solution Disk**（イオス デジタル ソリューション ディスク）（付属ソフトウェア）
  - □ **ソフトウェア使用説明書**（PDF形式の使用説明書）

- □ **ポケットガイド**
  すぐに撮影したい方は、このポケットガイドをご覧ください。
- □ **EOS Kiss Digital X使用説明書**（本書）
- □ **ソフトウェアガイド**
  付属ソフトウェアの概要とインストール方法を説明しています。

- □ **お客様ご相談窓口、修理受付窓口一覧／安全上のご注意**
- □ **カメラ保証書**
- □ **レンズ保証書**　＊レンズ付きキットをお買い求めの場合

※ 付属品は、なくさないようご注意ください。

※ 画像を記録する**CFカードは付属していません**。別途ご購入ください。

本使用説明書上のおことわり

本文中の絵文字について

- 〈◎〉は、電子ダイヤルを示しています。
- 〈▲▼〉や〈◀▶〉は、十字キーのボタンを示しています。
- 〈SET〉は、設定ボタンを示しています。
- ⏱4／⏱6／⏱16は、操作ボタンから指を離したあとに、ボタンを押した状態がそれぞれ4秒／6秒／16秒間保持されることを示しています。
- そのほか、本文中の操作ボタンや設定位置の説明には、ボタンや液晶モニターの表示など、カメラに使われている絵文字を使用しています。

本文中のマークについて

- MENU は、〈MENU〉ボタンを押して設定変更する機能であることを示しています。
- ページタイトル右上の応用は、応用撮影ゾーン（p.18）限定で使用できる機能であることを示しています。

（p.＊＊）の＊＊について

- 参照ページを示しています。

💡 ? ⚠ 📝 について

💡：上手に使うためのヒントや撮影のポイントが書かれています。

?：困ったときの手助けになる事項が書かれています。

⚠：撮影に不都合が生じるおそれのある注意事項が書かれています。

📝：補足説明や補足事項が書かれています。

操作説明の前提について

＊電源スイッチが〈ON〉になっていることを前提に説明しています。

＊メニュー機能やカスタム機能が初期状態になっていることを前提に説明しています。

＊EF-S18-55mm F3.5-5.6 II USMレンズを取り付けた状態で説明しています。

目　次

1
2
3
4
5
6
7
8

4　さらに進んだ思いどおりの撮影　63

5　知っていると便利な機能　91

やりたいこと目次

撮影

画質

ピント合わせ

再生

印刷

取り扱い上のご注意

カメラについて

- カメラは精密機器です。落としたり衝撃を与えたりしないでください。
- このカメラは防水構造になっていませんので、水中では使用できません。万一水に濡れてしまったときは、早めに最寄りの修理受付窓口にご相談ください。また、水滴がついたときは乾いたきれいな布で、潮風にあたったときは固くしぼったきれいな布でよくふきとってください。
- カメラを磁石やモーターなどの強力な磁気が発生する装置の近くに、絶対に置かないでください。また、電波塔などの強い電波が発生しているところで使用したり、放置したりしないでください。電磁波により、カメラが誤動作したり、記録した画像データが破壊されることがあります。
- 直射日光下の車の中などは予想以上に高温になります。カメラの故障の原因となることがありますので、このような場所にカメラを放置しないでください。
- カメラには精密な回路が内蔵されていますので、絶対に自分で分解しないでください。
- レンズ、ファインダー、ミラー、フォーカシングスクリーンなどにゴミがついているときは、市販のブロアーで吹き飛ばすだけにしてください。カメラボディおよびレンズは有機溶剤を含むクリーナーなどでふかないでください。特に汚れがひどいときは、最寄りの修理受付窓口にご相談ください。
- カメラの電気接点は手で触らないでください。腐食の原因となることがあります。腐食が生じるとカメラが作動不良を起こすことがあります。
- カメラを寒いところから、急に暑いところに移すと、カメラの外部や内部に結露（水滴）が発生することがあります。カメラを寒いところから、急に暑いところに移すときは結露の発生をふせぐために、カメラをビニール袋に入れて袋の口を閉じ、周囲の温度になじませてから、袋から取り出してください。
- 結露が発生したときは、故障の原因となりますので、カメラをお使いにならないでください。レンズ、CFカード、電池をカメラから取り外し、水滴が消えるまで待ってから、カメラをお使いください。
- カメラを長期間使用しないときは、カメラから電池を取り出し、風通しがよく、涼しい乾燥した場所に保管してください。保管期間中でも、ときどきシャッターを切るようにして作動することを確認してください。
- カメラの保管場所として実験室などのような薬品を扱う場所は、さび・腐食などの原因になるため避けてください。
- 長期間使用しなかったカメラは、各部を点検してから使用してください。長期間使用しなかったあとや海外旅行など大切な撮影の前には、各部の作動を最寄りの修理受付窓口、またはご自身でチェックしてからご使用ください。

液晶モニターについて

- 液晶モニターは、非常に精密度の高い技術で作られており 99.99% 以上の有効画素がありますが、0.01%以下の画素欠けや、黒や赤の点が現れたままになることがあります。これは故障ではありません。また、記録されている画像には影響ありません。
- 液晶モニターを長時間点灯したままにすると、表示していた内容の残像が残ることがあります。この残像は一時的なもので、カメラを数日間使用しないでおくと自然に消えます。

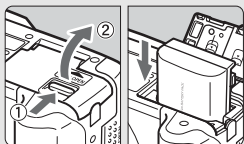
CFカードについて

- CFカードは精密にできています。落としたり振動を与えたりしないでください。CFカードに記録されている画像が壊れる原因となります。
- テレビやスピーカー、磁石などの磁気を帯びたものや静電気の発生しやすい所で保管、使用しないでください。CFカードに記録されている画像データが消えてしまうことがあります。
- 直射日光のあたる場所や、暖房器具の近くに放置しないでください。CF カードが変形して使用できなくなります。
- CFカードに液体をこぼさないでください。
- 大切な画像データを守るため、CF カードは必ずケースなどに入れて保管してください。
- 曲げたり、強い力や衝撃を与えたりしないでください。
- 温度の高い所、ほこりや湿気の多い所に保管しないでください。

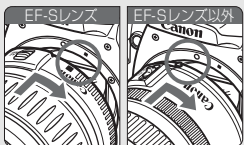
レンズの接点について

　レンズを取り外したときは、接点やレンズ面を傷つけないように、取り付け面を上にして置き、ダストキャップを取り付けてください。

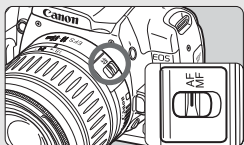
すぐ撮影するには

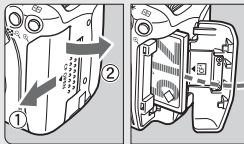
1

電池（バッテリー）を入れる（p.24）

電池の充電方法については22ページを参照してください。

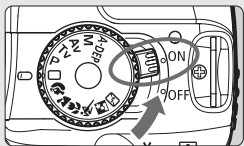
2

レンズを取り付ける（p.28）

EF-Sレンズは白い指標、EF-Sレンズ以外は赤い指標に合わせて取り付けます。

3

レンズのフォーカスモードスイッチを〈AF〉にする（p.28）

4

CFスロットカバーを開け、CFカードを入れる（p.26）

CFカードの表を手前にして、小さい穴が並んでいる方を奥にして差し込みます。

5

電源スイッチを〈ON〉にする（p.29）

➡液晶モニターにカメラの設定情報が表示されます。

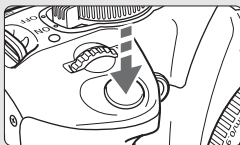
モードダイヤルを〈□〉（全自動）にする（p.38）

撮影に必要な設定がすべて自動設定されます。

7

ピントを合わせる（p.31）

ファインダーをのぞき、写したいものを画面中央に配置します。シャッターボタンを軽く押すと、ピントが合います。

8

撮影する（p.31）

さらにシャッターボタンを押して撮影します。

9

撮影した画像を確認する（p.92）

撮影した画像が液晶モニターに約2秒間表示されます。

- 液晶モニターのカメラ設定情報は、ファインダーに目を近づけると消灯します。
- 今までに撮影した画像を確認したいときは、『画像を再生する』（p.48）を参照してください。
- 撮影した画像を消去したいときは、『消去する』（p.121）を参照してください。

各部の名称

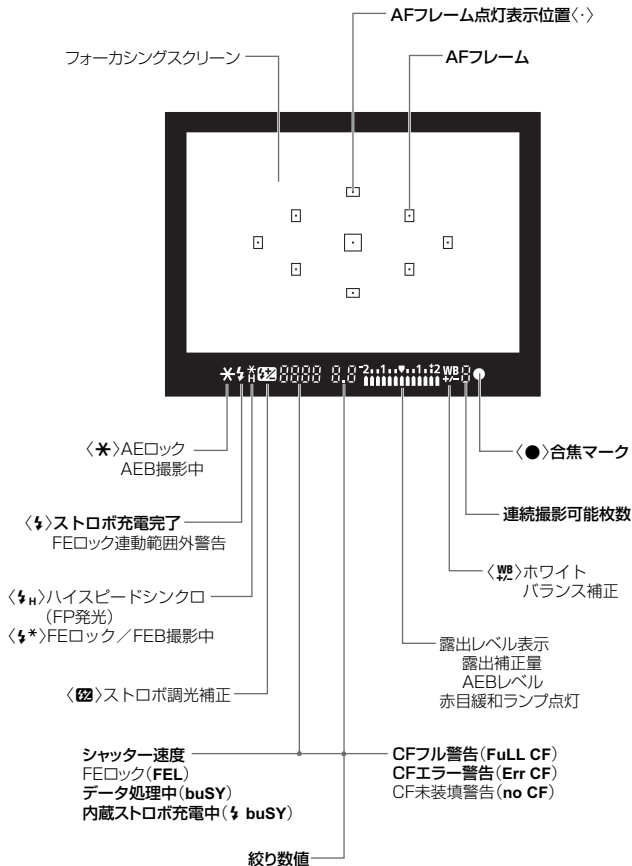
太字は、『かんたん撮影と画像確認』までに使用する各部の名称です。

EF-S18-55mm F3.5-5.6 II USMレンズ

アイカップ(p.151)
ファインダー接眼部
ディスプレイオフセンサー(p.99)
〈⎙〉イージーダイレクトボタン(p.106／141)
〈DISP.〉カメラの設定状態表示の入/切／撮影情報表示／トリミング枠縦横切り換えボタン(p.32、97／48、122／140)
〈MENU〉メニューボタン(p.33)
〈JUMP〉ジャンプボタン(p.115)
〈▶〉再生ボタン(p.48)
〈🗑〉消去ボタン(p.121)
液晶モニター(p.32)
〈□/👁〉ドライブモード選択ボタン(p.47、57)
三脚ねじ穴
アクセスランプ(p.27)
十字キー(p.33)
〈▲ISO〉 ISO感度設定ボタン(p.51)
〈▼WB〉 ホワイトバランス選択ボタン(p.84)
〈◀ ◉〉 測光モード選択ボタン(p.71)
〈▶ AF〉 AFモード選択ボタン(p.54)
視度調整つまみ(p.29)
〈Av☒〉絞り数値／露出補正設定ボタン(p.69／72)
〈✱／⊞・⊖〉AEロック/FEロックボタン／インデックス/縮小ボタン(p.82/83／114/116、140)
〈⊞／⊕〉AFフレーム選択／拡大ボタン(p.55／116、140)
CFカードスロットカバー(p.26)
DCコード通し部(p.152)
電池室ふた開放レバー(p.24)
電池室ふた(p.24)
〈SET〉設定ボタン／〈☷〉ピクチャースタイル選択ボタン(p.33／61)
CFカードスロット(p.26)
CFカード取り出しボタン(p.26)
ISO
AF
WB
SET
Canon
CF OPEN

カメラの設定状態表示

表示は、状況に応じた部分のみ表示されます。

ファインダー内表示

表示は、状況に応じた部分のみ表示されます。

モードダイヤル

モードダイヤルは、「かんたん撮影」と「応用撮影」の機能ゾーンに分けられています。

応用撮影ゾーン

思いどおりのさまざまな撮影ができます。

P　：プログラムAE（p.50）
Tv　：シャッター優先AE（p.64）
Av　：絞り優先AE（p.66）
M　：マニュアル露出（p.69）
A-DEP：自動深度優先AE（p.70）

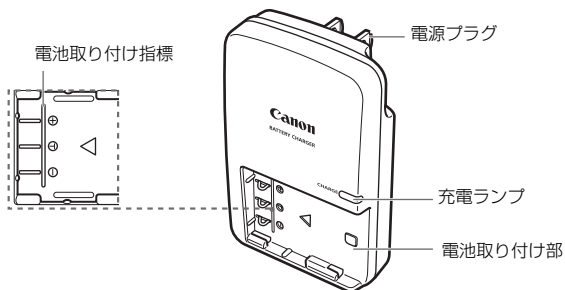
かんたん撮影ゾーン

基本操作はシャッターボタンを押すだけです。被写体に応じてカメラまかせの全自動撮影ができます。

□：**全自動**（p.38）

イメージゾーン

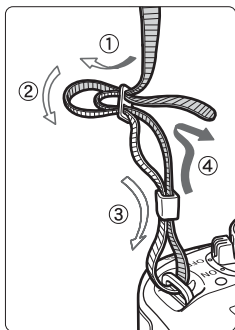
：ポートレート（p.41）
：風景（p.42）
：クローズアップ（p.43）
：スポーツ（p.44）
：夜景ポートレート（p.45）
：ストロボ発光禁止（p.46）

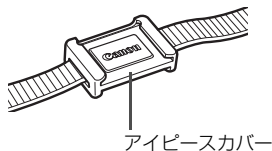
バッテリーチャージャー CB-2LW

- この製品には、リチウムイオン電池を使用しています。
- この電池はリサイクル可能な貴重な資源です。
- この電池の回収、リサイクルについては、下記のキヤノンホームページ上で確認できます。
- 交換後不要になった電池は、ショートによる発煙、発火の恐れがありますので、端子を絶縁するためにテープを貼るか、個別にポリ袋に入れてリサイクル協力店にある充電式電池回収BOXに入れてください。
- リサイクル協力店についてのお問い合わせは、以下へお願いします。
  - ・製品、リチウムイオン電池をご購入いただいた販売店
  - ・有限責任中間法人 JBRC
    ホームページ：http://www.jbrc.net/hp/contents/index.html
  - ・「キヤノン／キヤノンマーケティングジャパン」
    ホームページ：http://cweb.canon.jp/ecology/recycle5.html

リサイクル時のご注意：電池を分解しないでください。

妨害電波自主規制について

この装置（カメラ）は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。使用説明書（本書）に従って正しい取り扱いをしてください。

ストラップ（吊りひも）の取り付け方

ストラップの先をストラップ取り付け部の下から通し、さらにストラップに付いている止め具の内側を通します。止め具の部分のたるみを取り、引っぱっても止め具の部分がゆるまないことを確認してください。

● ストラップにはアイピースカバーが付いています。（p.151）

アイピースカバー

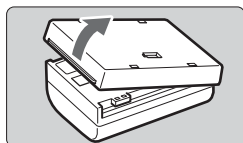
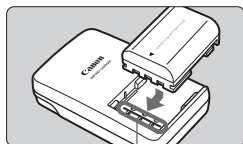
● Adobeは、Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の商標です。
● CompactFlash（コンパクトフラッシュ）は、SanDisk Corporationの商標です。
● Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国および他の国における商標、または登録商標です。
● Macintoshは、米国および他の国で登録された、米国アップルコンピュータ社の商標です。
● DCF*は、（社）電子情報技術産業協会の団体商標で、日本国内における登録商標です。DCFロゴマークは、（社）電子情報技術産業協会の「Design rule for Camera File System」の規格を表す団体商標です。
● その他、本書中の社名や商品名は、各社の登録商標または商標です。

＊ DCF は、主としてデジタルカメラの画像を関連機器間で簡便に利用しあうことを目的として制定された（社）電子情報技術産業協会（JEITA）の規格の「Design rule for Camera File System」の略称です。
＊ このデジタルカメラは、DCF 2.0とExif 2.21（愛称「Exif Print」）に対応しています。Exif Printは、デジタルカメラとプリンターの連携を強化した規格です。Exif Print対応のプリンターと連携することで、撮影時のカメラ情報を活かし、それを最適化して、よりきれいな印刷出力結果を得ることができます。

1

撮影前の準備と操作の基本

この章では、撮影に入る前にあらかじめ準備しておくことと、操作の基本について説明します。

電池を充電する

1 保護カバーを外す

取り付け指標

2 電池を取り付ける

- 充電器の線（取り付け指標）に電池の先端を合わせ、押し付けながら、スライドさせて取り付けます。
- 取り外しは逆の手順で行います。

3 電源プラグを起こす

- 充電器のプラグを矢印の方向に起こします。

充電ランプ

4 充電する

- プラグをコンセントに差し込みます。
- ➡ 自動的に充電が始まり、充電ランプがオレンジ色に点灯します。
- ➡ 充電が完了すると緑色に点灯します。
- **使い切った電池の充電に要する時間は、約90分です。**

電池と充電器の上手な使い方

● **充電は、使用する当日か前日にする**

充電して保管していても、少しずつ電池の容量が少なくなっていきます。なお、充電時間は、周囲の温度や電池の充電状態によって異なります。

● **24時間以上連続して充電しない**（性能低下を防ぎます）

● **充電が終わったら、電池を取り外し、プラグをコンセントから抜く**

● **保護カバーを取り付ける向きで、充電済みか、使用済みかがわかるようにする**

充電済みの電池に保護カバーを取り付けるときは、電池の青いシールに保護カバーの窓〈 〉が重なるようにします。使用済みの電池のときは、180度回して取り付けます。

● **0℃～40℃の範囲で使用する**

性能を十分に発揮させるためには、10℃～30℃の範囲で使用することをおすすめします。スキー場などの低温下では電池の性能が一時的に低下し、使用できる時間が短くなることがあります。

● **カメラを使わないときは、電池を取り出しておく**

電池を長期間カメラに入れたままにしておくと、微少の電流が流れて過放電になり、電池寿命短縮の原因となります。保護カバーを取り付けて保管してください。なお、フル充電して保管すると、性能低下の原因になることがあります。

● **充電器は海外でも使うことができる**

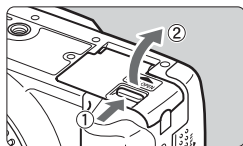
充電器は、家庭用電源のAC100～240V 50/60Hzに対応しています。お使いになる地域に対応した、市販のコンセント変換プラグをお買い求めください。なお、海外旅行用の電子変圧器などに接続しないでください。充電器が故障するおそれがあります。

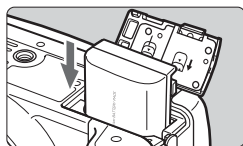
● **フル充電したのにすぐ使えなくなるときは、電池の寿命**

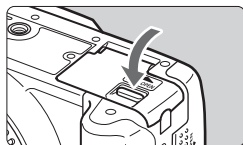
新しい電池をお買い求めください。

- バッテリーパックNB-2LH以外は充電しないでください。
- バッテリーパック NB-2LH は、キヤノン製品専用です。指定外の充電器、および製品と組み合わせて使用した場合の故障、事故に関しては一切保証できません。

電池を入れる／取り出す

入れ方

1 ふたを開ける

- レバーを矢印の方向にスライドさせて、ふたを開けます。

2 電池を入れる

- 電池接点の方から入れます。
- ロック位置までしっかりと入れてください。

3 ふたを閉める

- 「カチッ」と音がするまで、ふたを押します。

電池チェックについて

電池の残量は、電源スイッチを〈ON〉(p.29)にしたときに表示されます。

：電池の容量は十分です。

：少し減っていますが、まだ使用できます。

：まもなく電池切れになります。

：電池を充電してください。

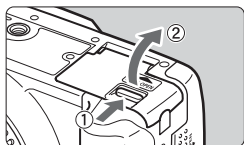
撮影可能枚数の目安

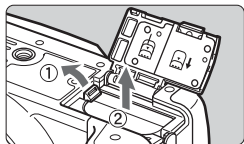
［約・枚］

温度	撮影条件	
	ストロボ撮影なし	50%ストロボ撮影
常温（+23℃）	500	360
低温（0℃）	370	280

- 撮影可能枚数は、フル充電のNB-2LH使用、CIPA（カメラ映像機器工業会）の試験基準によります。

- 実際の撮影条件との違いにより、撮影可能枚数が表記数値よりも少なくなることがあります。
- シャッターボタン半押し状態を長く続けたり、AF（オートフォーカス）のみ行って撮影しない操作を頻繁に行うと、撮影可能枚数が少なくなります。
- レンズの動作にはカメラ本体の電源を使用します。使用するレンズの種類によっては、撮影可能枚数が少なくなります。

取り出し方

1 ふたを開ける

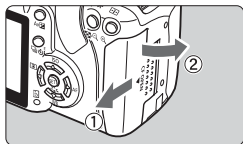
- レバーを矢印の方向にスライドさせて、ふたを開けます。

2 電池を取り出す

- 電池ロックレバーを矢印方向に押してロックを外し、電池を取り出します。
- ショート防止のため、必ず電池に保護カバーを取り付けてください。

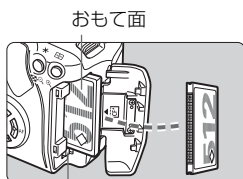
CF カードを入れる／取り出す

撮影した画像は、CFカード（別売）に記録されます。

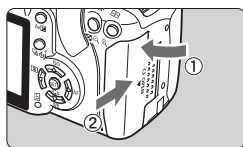
CFカードには、厚さの異なる2種類のタイプがありますが、このカメラでは、どちらのタイプも使用できます。また、ハードディスクタイプのものや2GB以上の大容量のCFカードも使用できます。

入れ方

1 カバーを開ける

- カバーを矢印の方向にスライドさせてから開きます。

おもて面

CFカード
取り出しボタン

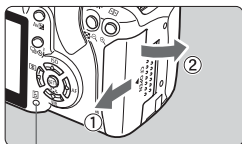
2 CFカードを入れる

- **図のように CF カードのおもてを手前にして、小さい穴が並んでいる方を奥にして差し込みます。**
  CFカードを入れる向きを間違えると、カメラが壊れます。
- ➡ CF カード取り出しボタンがせり上がります。

撮影可能枚数

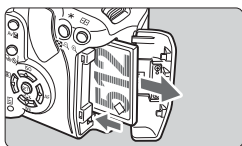
3 カバーを閉める

- カバーを閉じてから、矢印の方向に「カチッ」と音がするまでしっかりとスライドさせます。
- 電源スイッチを〈ON〉にすると、液晶モニターに撮影可能枚数が表示されます。

撮影可能枚数は、使用するCFカードの空き容量や、記録画質、設定したISO感度などにより変わります。

取り出し方

アクセスランプ

1 カバーを開ける

- 電源スイッチを〈OFF〉にします。
- 液晶モニターに「書き込み中」が表示されていないことを確認します。
- アクセスランプが消えていることを確認して、カバーを開きます。

2 CFカードを取り出す

- CF カード取り出しボタンを押し込みます。

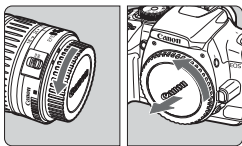
➡ CFカードが出てきます。

- カバーを閉じます

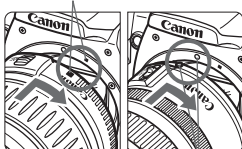
- **アクセスランプが点滅しているときは、CFカードへの記録／読み出し中や、消去中、データ転送中です。絶対に次のことを行わないでください。画像データが壊れます。また場合によってはCFカードが壊れたり、カメラ本体が損傷する原因となります。**
  - **・CFカードスロットカバーを開ける**
  - **・電池を取り出す**
  - **・カメラ本体に振動や衝撃を与える**
- 画像が記録されているCFカードを使用すると、画像番号0001から撮影されないことがあります。（p.94）
- CFカードの問題に関するエラーが表示されたときは、36ページを参照してください。
- ハードディスクタイプのカードは、CFカードに比べると振動や衝撃に弱いため、特に記録/再生中は、カメラに振動や衝撃を与えないよう、十分に注意してください。

メニュー［**1 カードなしレリーズ**］を［**しない**］に設定すると、CFカードを入れ忘れたまま撮影することを防止できます。（p.92）

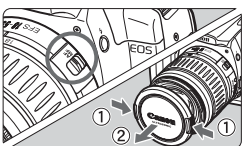
レンズを取り付ける／取り外す

取り付け方

1 キャップを外す

- レンズのダストキャップとボディキャップを矢印の方向に回して外します。

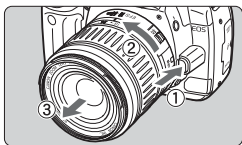
EF-Sレンズ取り付け指標

EFレンズ取り付け指標

2 レンズを取り付ける

- EF-Sレンズとカメラの、白いEF-Sレンズ取り付け指標を合わせ、レンズを矢印の方向に「カチッ」と音がするまで回します。
- EF-Sレンズ以外を取り付けるときは、赤いEFレンズ取り付け指標に合わせます。

3 レンズのフォーカスモードスイッチを〈AF〉（自動ピント合わせ）にする

- 〈MF〉（手動ピント合わせ）になっていると自動ピント合わせができません。

4 レンズキャップを外す

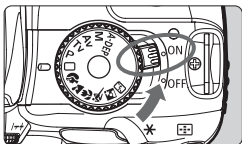
取り外し方

レンズロック解除ボタンを押しながら、レンズを矢印の方向に回す

- 回転が止まるまで回してから、取り外します。

レンズの取り付け／取り外しを行う際に、ゴミやホコリがマウント部からカメラ内部に入らないよう、十分に注意してください。

撮影の基本操作

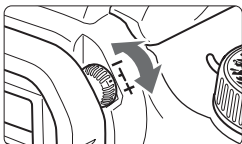
電源スイッチ

このカメラは電源スイッチを入れて初めて作動します。

〈ON〉：電源ランプが点灯して、カメラが作動します。

〈OFF〉：カメラは作動しません。カメラを使用しないときはこの位置にします。

- 電源の入／切で液晶モニターに表示される〈 〉は、撮像素子の自動清掃を行っている表示です。
- 電池の消耗を防ぐため、約 30 秒何も操作しないと自動的に電源が切れます。シャッターボタンを押すと再度電源が入ります。
- 電源が切れるまでの時間を、メニュー［**1 オートパワーオフ**］で変更することができます。(p.93)
- CFカードへの画像記録中に電源スイッチを〈OFF〉にすると、[**書き込み中**] が表示され、画像記録が終了してから電源が切れます。

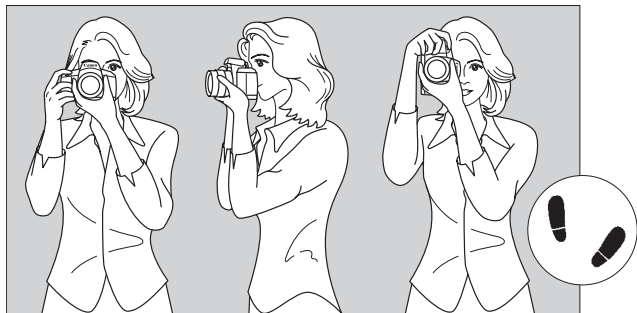
ファインダーが鮮明に見えるように調整する

メガネを使用している方でも、メガネをかけずにファインダー内がはっきり見えるよう調整することができます。

視度調整つまみを回す

- ファインダー内のAFフレーム（9つの四角い枠）がもっとも鮮明に見えるように、つまみを右または左に回します。

視度調整してもファインダーが鮮明に見えない方は、別売の視度補正レンズE（10種）の使用をおすすめします。

カメラの構え方

手ブレのない鮮明な写真を撮るために、カメラが動かないようしっかりと構えて撮影します。

横位置　縦位置

カメラの持ち方

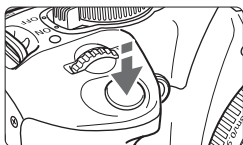
①右手でグリップを握ってカメラを持ちます。
②ドアノブを左手で下から握るように、レンズを下から握ります。
③右手人差し指の腹をシャッターボタンに軽くのせます。

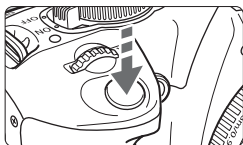
カメラの構え方

④脇をしっかり締め、両ひじを軽く体の前につけます。
⑤ファインダーにできるだけ目を近づけてのぞき込みます（液晶モニターが消灯します）。
⑥片足を少し踏み出して体を安定させます。

* 液晶モニターを、ファインダーの代わりとして見ながら撮影することはできません。

シャッターボタン

　シャッターボタンは二段階になっています。シャッターボタンを一段目まで押すことを「半押し」といいます。半押しからさらに二段目まで押すことを「全押し」といいます。

半押し

　自動ピント合わせと、自動露出機構によるシャッター速度と絞り数値の設定が行われます。
　露出値（シャッター速度と絞り数値）が、ファインダー内に表示されます。（☞4）

全押し

　シャッターが切れて撮影されます。

手ブレしにくい撮影のしかた

　手にしたカメラが撮影の瞬間に動くことを「手ブレ」といい、全体がぼやけたような写真になります。鮮明な写真を撮るために、次の点に注意してください。

・前ページの『カメラの構え方』のように、カメラが動かないようしっかり構える。
・シャッターボタンを半押ししてピントを合わせたあと、ゆっくりシャッターボタンを全押しする。

● シャッターボタンを一気に全押ししたり、半押し後すぐに全押しすると、一瞬の間を置いてから撮影されます。
● カメラがどんな状態（画像再生中、メニュー選択中、画像記録中など）にあっても、シャッターボタンを半押しすると、すぐに撮影準備状態に戻ります（ダイレクトプリントによる印刷中、ダイレクト画像転送画面表示中を除く）。

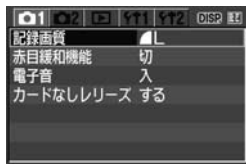
液晶モニターの表示切り換え

液晶モニターには、カメラの設定状態や、メニュー機能、撮影した画像などを表示させることができます。

カメラの設定状態

- 電源スイッチを入れると表示されます。
- ファインダーに目を近づけると、ディスプレイオフセンサーが働いて、まぶしくならないよう表示が消えます。ファインダーから目を離すと再表示します。
- 下記のメニュー機能や撮影した画像を表示しているときに、シャッターボタンを半押しすると、左のような表示に戻り、すぐに撮影することができます。
- 〈DISP.〉ボタンを押すと表示が消え、もう一度押すと表示されます。

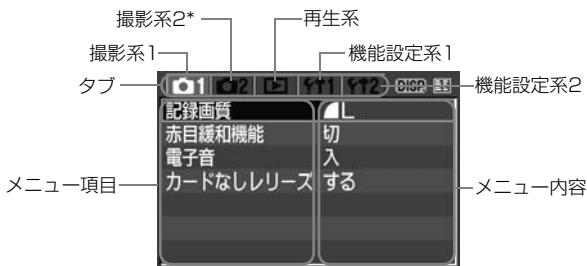
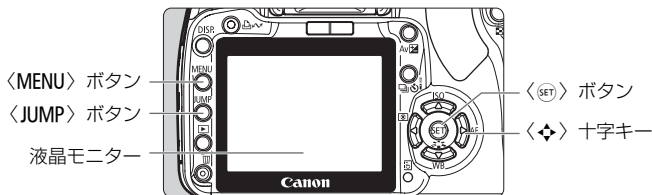
- サングラスをかけてファインダーをのぞくと、表示が自動消灯しないことがあります。その場合は、〈DISP.〉ボタンを押して表示を消してください。
- 蛍光灯が近くにあると、表示が消えることがあります。その場合は、カメラを蛍光灯から離してください。

メニュー機能

- 〈MENU〉ボタンを押すと表示され、もう一度押すとカメラの設定状態の表示に戻ります。

撮影した画像

- 〈▶〉ボタンを押すと表示され、もう一度押すとカメラの設定状態の表示に戻ります。

メニュー機能の操作と設定

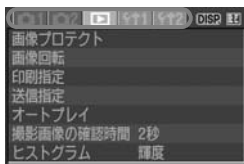
このカメラでは、記録画質や日付/時刻、液晶モニターの明るさ調整など、さまざまな設定をメニュー機能で行います。基本操作は、液晶モニターを見ながら、カメラ背面の〈MENU〉ボタン、〈✣〉十字キー、〈SET〉ボタンを使って行います。

* ［撮影2］タブは、全自動モードなどのかんたん撮影ゾーンでは表示されません。

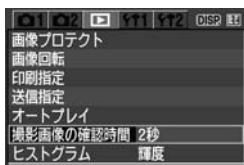
アイコン	色	系統	説明
撮影1／撮影2	赤	撮影系	撮影に関する項目
▶	青	再生系	撮影した画像の再生操作に関する項目
機能設定1／機能設定2	黄	機能設定系	カメラの基本機能に関する項目

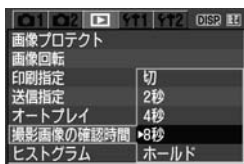
- 〈JUMP〉ボタンを押すと、タブが切り換わります。
- かんたん撮影ゾーンでは、表示されないメニュー項目があります。
- メニュー機能の選択操作や、再生関連操作を〈ダイヤル〉で行うこともできます。
- メニュー機能の一覧を154ページに記載しています。

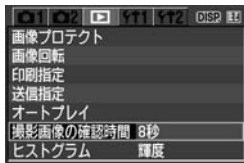
メニュー機能の設定操作

1 メニューを表示する

● 〈MENU〉ボタンを押すと表示されます。

2 タブを選ぶ

● 〈JUMP〉ボタンを押してタブ（系統）を選びます。
● タブが明るく表示されているときは、〈◀▶〉でも選ぶことができます。

3 メニュー項目を選ぶ

● 〈▲▼〉を押して項目を選び、〈SET〉を押します。

4 メニュー内容を選ぶ

● 〈▲▼〉または〈◀▶〉で内容を選びます。（〈▲▼〉で選ぶ内容と、〈◀▶〉で選ぶ内容があります）

5 内容を設定する

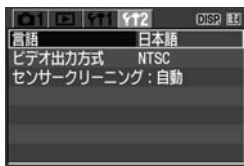
● 〈SET〉を押すと設定されます。

6 設定を終了する

● 〈MENU〉ボタンを押すと表示が消え、カメラの設定状態表示に戻ります。

この項以降のメニュー機能の説明は、〈MENU〉ボタンを押して、メニュー画面が表示されていることを前提に説明しています。

使い始める前の準備

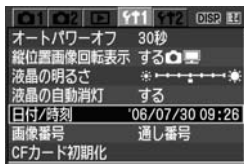
MENU 表示言語を選ぶ

1 ［言語］を選ぶ

- ［ŸT2］タブの［**言語**］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 言語設定画面になります。

2 言語を設定する

- 〈✣〉十字キーを押して希望する言語を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 表示言語が切り換わります。

MENU 日付／時刻を確認する

日付と時刻を確認し、あっていないときは、次の手順で設定します。

1 ［日付/時刻］を選ぶ

- ［ŸT1］タブの［**日付/時刻**］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 日付/時刻設定画面になります。

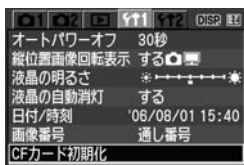
2 日付と時刻を設定する

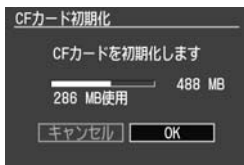
- 〈◀▶〉を押して項目を選びます。
- 〈▲▼〉を押して内容を設定します。
- 〈SET〉を押すと日付 / 時刻が設定されメニューに戻ります。

撮影した画像には、ここで設定した日付/時刻が一緒に記録されますので、正しく設定してください。

MENU CFカードを初期化する

新しく買ったCFカードや、ほかのカメラ、パソコンで初期化したCFカードは、このカメラで初期化（フォーマット）しなおしてください。

CFカードを初期化すると、CFカードに記録されている内容は、画像だけでなくすべて消去されます。プロテクトをかけた画像も消去されますので、記録内容を十分に確認してから初期化してください。必要な記録内容は、初期化する前に必ずパソコンなどに保存してください。

1 ［CFカード初期化］を選ぶ

- ［1］タブの［CFカード初期化］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 確認画面が表示されます。

2 初期化する

- ［OK］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ CFカードが初期化されます。
- ➡ 初期化が完了するとメニューに戻ります。

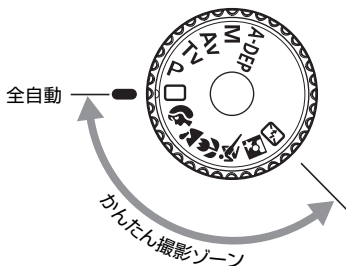
- カード内のデータは、初期化や削除をしても、ファイル管理情報が変更されるだけで、完全には消去されません。譲渡・廃棄するときは、ご注意ください。
- 廃棄するときは、カードを破壊するなどして個人情報の流出を防いでください。
- 液晶モニターにCFカードの問題に関するメッセージが表示されたときは、CFカードに何らかの障害が発生しています。CFカードの抜き差しで改善されない場合は、別のCFカードに交換してください。また、パソコンでCFカードの内容が読み取れる場合は、CFカード内のデータをすべてパソコンに保存したあとCFカードを初期化してください。正常な状態に戻る場合があります。

初期化の画面で表示されるCFカードの総容量は、CFカードに書かれている容量よりも少なくなることがあります。

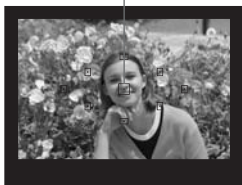
2

かんたん撮影と画像確認

この章では、モードダイヤルのかんたん撮影ゾーンを使って上手に撮影する方法と、撮影した画像の確認方法を説明しています。

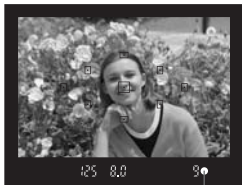
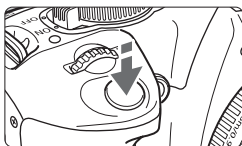
かんたん撮影ゾーンでは、シャッターボタンを押すだけでカメラまかせの撮影ができるよう、各種機能が自動設定されます。また、誤操作による失敗を未然に防ぐため、撮影機能の設定変更はできないようになっていますので、安心して撮影してください。なお、設定変更できない撮影機能（自動設定機能）は、灰色で表示されます。

□ 全自動で撮る

1 モードダイヤルを〈□〉にする

AFフレーム

2 被写体（写したいもの）にAFフレームを合わせる

● すべての AF フレームで被写体をとらえ、基本的に一番近くにあるものにピントを合わせます。
● 中央の AF フレームを被写体に重ね合わせるとピントが合いやすくなります。

3 ピントを合わせる

● シャッターボタンを半押しすると、レンズが動いてピントを合わせます。
➡ ピントが合うと、ピントを合わせた AF フレーム内の点が一瞬赤く光ります。同時に「ピピッ」と電子音が鳴り、ファインダー内に合焦マーク〈●〉が点灯します。
➡ 必要に応じて内蔵ストロボが自動的に上がります。

合焦マーク

4 撮影する

● シャッターボタンを全押しすると撮影されます。
➡ 液晶モニターに撮影した画像が約2秒間表示されます。
● 内蔵ストロボが上がっているときは、手で押し下げて収納します。

? こんなときは

● 合焦マーク〈●〉が点滅してピントが合わない

明暗差（コントラスト）のある部分にAFフレームを合わせてシャッターボタンを半押ししてください。（p.158）また、被写体に近づきすぎているときは、離れて撮影してください。

● 複数のAFフレームが同時に光る

赤く光ったすべての位置にピントが合っています。被写体に合わせたAFフレームも光っているときは、そのまま撮影してください。

● 電子音が小さく鳴り続ける（合焦マーク〈●〉もつかない）

動いている被写体に、カメラがピントを合わせ続けている状態です（合焦マーク〈●〉は点灯しません）。電子音が鳴っている状態でシャッターボタンを全押しすると、動いている被写体にピントの合った写真を撮ることができます。

● シャッターボタンを半押ししてもピント合わせをしない

レンズのフォーカスモードスイッチが〈**MF**〉（手動ピント合わせ）になっていると、ピント合わせを行いません。〈**AF**〉（自動ピント合わせ）にしてください。

● ピントを合わせたあとにズーム操作すると、ピントのあまい写真になる

レンズのズーム操作は、ピント合わせの前に行ってください。ピントを合わせたあとにズーム操作をすると、ピントがズレることがあります。

● 明るい日中なのにストロボ撮影になった

逆光状態の撮影では、被写体の影を和らげるためにストロボ撮影になることがあります。

● 暗い場所で内蔵ストロボが連続して光った

AFでピントを合わせやすくするため、シャッターボタンを半押しすると内蔵ストロボが連続的に光ることがあります。AF補助光といわれる機能で、有効距離は約4mです。

● ストロボが発光したのに暗い写真になった

写したいものから離れすぎています。5m以内を目安に撮影してください。

● ストロボ撮影したら、画面の下側が不自然に暗くなった

写したいものに近づきすぎて、レンズの影が写り込んでいます。1m以上離れて撮影してください。また、レンズ先端に別売のフードが付いているときは、外して撮影してください。

□ 全自動を使いこなす

構図を変えて撮影する

シーンによっては、被写体を左右どちらかに配置して、背景もバランスよく入れたほうが、奥行きのある写真に仕上がります。

〈□〉（全自動）では、止まっている被写体にピントを合わせると、シャッターボタンを半押ししている間、ピントが固定されます。そのまま構図を変え、シャッターボタンを全押しして撮影します。これをフォーカスロック撮影といいます。かんたん撮影ゾーンのほかのモードでもフォーカスロック撮影ができます（〈スポーツ〉を除く）。

動いているものを撮影する

〈□〉（全自動）では、ピントを合わせるときや、ピントを合わせたあとに被写体が動く（距離が変わる）と、被写体に対して連続的にピントを合わせ続ける機能（AIサーボAF）が働きます。被写体がAFフレームから外れないようにして、シャッターボタン半押しを続けるとピントを合わせ続けます。シャッターチャンスがきたらシャッターボタンを全押しします。

人物を写す

背景をぼかして人物を浮き立たせた写真を撮りたいときは、〈〉（ポートレート）を使用します。〈□〉（全自動）よりも肌や髪の毛の感じが柔らかな写真になります。

撮影のポイント

● **人物と背景ができるだけ離れている場所を選ぶ**

人物と背景が離れているほど、背景のボケ方が大きくなります。また、背景がすっきりしていて暗いほど人物が浮き立ちます。

● **望遠レンズを使用する**

ズームレンズのときは、レンズを望遠側にして、人物の上半身が画面いっぱいに入るよう人物に近づきます。

● **顔にピントを合わせる**

ピント合わせのときに、顔の位置にあるAFフレームが光ったことを確認して撮影します。

● シャッターボタンを押し続けると、連続撮影して表情やポーズの変化を写し続けます（1秒間に約3枚）。
● 必要に応じて内蔵ストロボが自動的に発光します。

風景を写す

広がりのある風景や夜景など、近くから遠くまでピントの合った写真を撮りたいときは、〈風景〉（風景）を使用します。〈□〉（全自動）よりも空や緑が鮮やかで、とてもクッキリした写真になります。

撮影のポイント

● **広角レンズを使用する**

ズームレンズのときは、レンズを広角側にすると、望遠側で撮影するよりも近くから遠くまでピントの合った写真を撮ることができます。また、風景の広がりも表現することができます。

● **夜景を撮影するときは**

〈風景〉はストロボが発光しませんので、夜景を写すこともできます。手持ち撮影では手ブレしますので、カメラを三脚に固定して撮影します。なお、人物と夜景の両方をきれいに写したいときは、モードダイヤルを〈夜景ポートレート〉に設定し、カメラを三脚に固定して撮影します。（p.45）

🌷 花や小物を大きく写す

花や趣味の小物などの写真を大きく写したいときは、〈🌷〉（クローズアップ）を使用します。別売のマクロレンズを使用すると、小さなものを驚くほど大きく写すことができます。

撮影のポイント

● **すっきりした背景を選ぶ**

背景がすっきりしているほど花や小物が浮き立ちます。

● **写したいものに、できるだけ近づく**

最も近づくことができる距離（最短撮影距離）は、使用しているレンズで確認してください。レンズによっては、〈🌷**0.28m/0.9ft**〉というように書かれているものもあります。なお、最短撮影距離は、カメラの左肩に刻印されている〈⊖〉（撮像面マーク）から被写体までの距離です。近づきすぎると合焦マーク〈●〉が点滅します。

暗い場所ではストロボが発光します。近づきすぎて画面の下側が不自然に暗くなる場合は、少し離れて撮りなおしてください。

● **ズームレンズは望遠側にする**

ズームレンズでは、望遠側にすると大きく写すことができます。

動きのあるものを写す

子どもの走っている姿から自動車レースまで、動いているものにピントの合った写真を撮りたいときは、〈 〉（スポーツ）を使用します。

撮影のポイント

● **望遠レンズを使用する**

遠くからでも撮影できるよう、できるだけ望遠レンズを使用します。

● **中央のAFフレームでピントを合わせる**

ファインダー中央のAFフレームを写したいものに合わせ、シャッターボタンを半押しすると、ピント合わせを開始します。ピント合わせを行っている間、電子音が小さく鳴り続け、ピントが合わないと合焦マーク〈●〉が点滅します。

シャッターチャンスがきたらシャッターボタンを全押しします。そのままシャッターボタンを押し続けると、ピントを合わせ続けながら連続撮影（1秒間に最高約3枚）して動きの変化を写し続けます。

手ブレしやすい暗い場所では、ファインダー左下の数値（シャッター速度）が点滅します。カメラが動かないようしっかり構えて撮影してください。

夜景と人物を明るく写す

人物と、その背景にある美しい夜の街並みや夜景を明るくきれいに写したいときは、〈 〉（夜景ポートレート）を使用します。

撮影のポイント

● **広角レンズと三脚を使用する**

ズームレンズのときは、レンズを広角側にセットすると、広い範囲の夜景を写すことができます。また、手持ち撮影では手ブレしますので、カメラを三脚に固定して撮影します。

● **人物との距離は5m以内**

暗い場所ではストロボが自動発光して人物をきれいに写します。人物との距離を5m以内にすると、ストロボ光が届きます。

● **〈□〉（全自動）でも撮影しておく**

ブレた写真になりやすいので、〈□〉（全自動）でも撮影しておくことをおすすめします。

セルフタイマー併用時は、撮影終了時にセルフタイマーランプが一瞬光ります。

ストロボが使えない場所で写す

美術館や水族館など、ストロボ撮影が禁止されている場所では、〈 〉（ストロボ発光禁止）を使用します。また、キャンドルライトなど、独特の明かりの雰囲気を効果的に写したいときにも使用します。

撮影のポイント

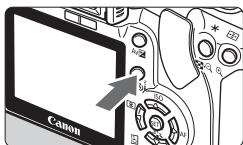
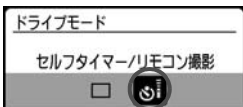
● **ファインダー内の数値が点滅したら手ブレに注意する**

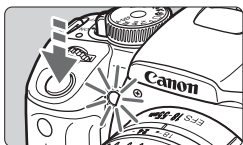
手ブレしやすい暗い場所では、ファインダー内の数値（シャッター速度）が点滅します。カメラが動かないようしっかり構えるか、三脚を使用してください。ズームレンズのときは、レンズを広角側にセットすると、手持ち撮影でも手ブレしにくくなります。

● **人物も写真に入れるときは**

暗い場所では、撮影が終わるまで写される人が動かないようにします。撮影中に動くと、人物が流れたような写真になります。

⏲セルフタイマー撮影

セルフタイマーは記念撮影などに使用します。どの撮影モードでも使用できます。

1 〈⊒ ⏲〉ボタンを押す

2 〈⏲〉を選ぶ

- 〈◀▶〉を押して、〈⏲〉を選びます。

3 撮影する

- ピントを合わせてシャッターボタンを全押しします。
- ➡ 電子音が鳴り、セルフタイマーランプが点滅を始め、約10秒後に撮影されます。撮影2秒前になると電子音が速く鳴り、セルフタイマーランプが点灯します。
- ➡ セルフタイマー作動中は、液晶モニターに撮影されるまでの秒数が減算で表示されます。

セルフタイマーの解除

〈⊒ ⏲〉ボタンを押して、〈◀▶〉で〈⏲〉以外を選びます。

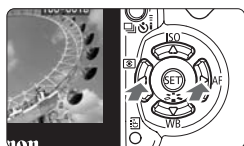
レンズの前に立ってシャッターボタンを押すと、ねらった被写体にピントが合わなくなります。

- セルフタイマー撮影するときは、三脚を使用してください。
- 自分一人だけをセルフタイマーで写すときは、自分が入る位置とほぼ同じ距離にあるものにフォーカスロック（p.40）して撮影します。
- セルフタイマー撮影を途中で中止するときは、〈⊒ ⏲〉ボタンを押します。

▶ 画像を再生する

ここでは、一番手軽に画像を再生する方法を説明します。再生方法に関する詳しい説明は、113ページを参照してください。

1 画像を再生する

- 〈▶〉ボタンを押すと、最後に撮影した画像が表示されます。

2 画像を選ぶ

- 〈◀〉を押すと、最後に撮影した画像から新しい順に画像が表示されます。〈▶〉を押すと、古い画像から順に新しい画像が表示されます。
- 〈DISP.〉ボタンを押すたびに、下記のように表示形式が切り換わります。

1枚表示
（簡易情報あり）

撮影情報表示

1枚表示
（撮影情報なし）

* 撮影情報に関する説明は、122、123ページを参照してください。

3 再生を終了する

- 〈▶〉ボタンを押すと再生が終了し、カメラの設定状態表示に戻ります。

3

一歩進んだ思いどおりの撮影

かんたん撮影ゾーンでは、失敗を防ぐため、いろいろな機能の変更ができないようになっていましたが、〈**P**〉（プログラムAE）では、さまざまな機能を組み合わせ、一歩進んだ思いどおりの撮影を行うことができます。

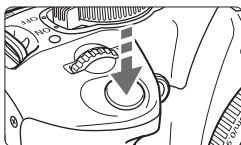
- 〈**P**〉（プログラム AE）では、標準露出になるようシャッター速度と絞り数値が自動的に設定されます。
- かんたん撮影ゾーンと〈**P**〉の撮影機能の組み合わせの違いについては、156ページの一覧表を参照してください。

＊〈**P**〉は、Program（プログラム）の略です。

＊ **AE**は、Auto Exposure（オートエクスポージャー）の略で自動露出のことです。

P: プログラムAE撮影

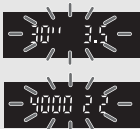
好ましい明るさの写真になるよう、被写体の明るさに応じてカメラが露出（シャッター速度と絞り数値）を自動的に設定します。これをプログラムAEといいます。

1 モードダイヤルを〈P〉にする

2 撮影する

● ピントを合わせてシャッターボタンを全押しします。

➡ 液晶モニターに撮影した画像が約2秒間表示されます。

撮影のポイント

● **ファインダー内のシャッター速度を確認する**

シャッターボタンを半押しすると、ファインダーの左下に30"～4000（30秒～1/4000秒）の数値（シャッター速度）が表示されます。暗くなるほど数値が小さくなり、遅いシャッター速度になって手ブレしやすくなります。

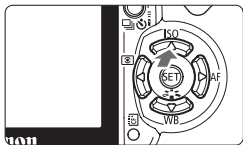
一般的な目安として、シャッター速度の数値が「撮影時のレンズ焦点距離×1.6」（焦点距離55mmのときは、80（1/80秒））よりも小さくなったときは、ISO感度を上げるか（p.51）、ストロボを使って撮影します（p.52）。

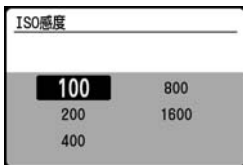
● **プログラムを変えることができる（プログラムシフト）**

シャッターボタン半押し後、〈 〉を回すと、シャッター速度と絞り数値の組み合わせ（プログラム）を変えて撮影することができます。

極端に暗い場所や明るい場所でシャッターボタンを半押しすると、図のように数値が点滅することがあります。暗い場所では、ISO感度（p.51）を上げるか、ストロボ（p.52）を使用してください。明るい場所では、ISO感度を下げてください。

ISO：明るさに応じてISO感度を変える 応用

ISO感度（撮像素子の感度）は、撮影する場所の明るさに応じて設定します。例えば、暗い場所でISO感度を上げる（数値を大きくする）と、手ブレしにくいシャッター速度で撮影することができます。また、ストロボ撮影の距離を伸ばすことができます。

1 〈▲ISO〉ボタンを押す

➡［ISO感度］が表示されます。

2 ISO感度を選ぶ

● 〈✥〉十字キーを押してISO感度を選び、シャッターボタンを半押しすると設定されます。

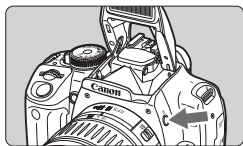
ISO感度を選ぶときの目安

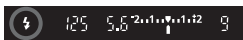
ISO感度	通常撮影（ストロボなし）	ストロボ撮影できる距離
100／200	晴天時の屋外	52ページ参照
400／800	曇り空、夕方	
1600	夜景、暗い屋内	

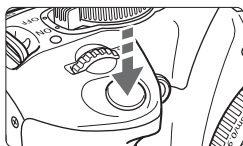
● ISO感度を高くしたり、高温下で撮影すると、画像のザラツキ感がやや多くなることがあります。
● 高温・高ISO感度・長時間露光の条件で撮影を行うと、画像に色ムラが発生することがあります。

● かんたん撮影ゾーンでは、撮影状況に応じてISO100～400の間で、ISO感度が自動設定されます。
● ISO800、1600 を選んで撮影すると、かんたん撮影ゾーンのときよりも手ブレしにくく、ストロボ光も遠くまで届きます。

内蔵ストロボを使う

室内や暗い場所、日中の逆光状態では、ストロボを上げてシャッターボタンを押すだけで、手軽にきれいな写真を撮ることができます。〈**P**〉では、手ブレしにくいシャッター速度（1/60〜1/200秒）が自動設定されます。

1 〈⚡〉ボタンを押す

- 応用撮影ゾーンでは〈⚡〉ボタンを押すと、いつでもストロボ撮影ができます。
- ストロボ充電中は、ファインダー内に「⚡**buSY**」、液晶モニター左上に［**BUSY⚡**］が表示されます。

2 シャッターボタンを半押しする

- ファインダーの左下に〈⚡〉が表示されていることを確認します。

3 撮影する

- ピントを合わせてシャッターボタンを全押しすると、常にストロボが発光します。

ストロボ撮影できる距離の目安 ［約・m］

ISO感度	EF-S18-55mm F3.5-5.6 II USM		EF-S17-85mm F4-5.6 IS USM	
	広角：18mm	望遠：55mm	広角：17mm	望遠：85mm
100	1〜3.7	1〜2.3	1〜3.3	1〜2.3
200	1〜5.3	1〜3.3	1〜4.6	1〜3.3
400	1〜7.4	1〜4.6	1〜6.5	1〜4.6
800	1〜10.5	1〜6.6	1〜9.2	1〜6.6
1600	1〜14.9	1〜9.3	1〜13.0	1〜9.3

内蔵ストロボを短時間の内に20回発光させると、発光部を保護するために、しばらくストロボ撮影ができなくなることがあります。シャッターボタンを半押ししたときに、ファインダー内の「⚡**buSY**」と、液晶モニターの［**BUSY⚡**］が消えたらストロボ撮影ができるようになります。

撮影のポイント

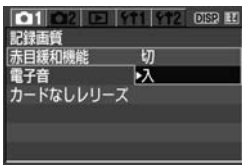
● **被写体が遠いときは、ISO感度を上げる**
ISO感度を高くすると、ストロボ撮影の距離を延ばすことができます。

● **明るい日中のストロボ撮影では、ISO感度を下げる**
明るい日中でファインダー内の数値が点滅するときは、ISO感度の数値を下げます。

● **レンズのフードを外し、被写体から1m以上離れる**
レンズ先端に別売のフードが付いていたり、被写体に近づきすぎると、写真の下側が暗くなることがあります。大切な撮影のときは、画像を再生して写真の下側が不自然に暗くなっていないか確認します。

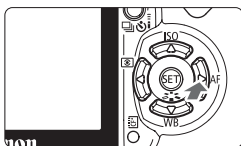
● **内蔵ストロボを使わないときは**
暗い場所では手ブレしやすくなりますので、カメラが動かないようしっかり構えるか、カメラを三脚に固定して撮影します。

赤目緩和機能を使う

ストロボ撮影する前に赤目緩和ランプを点灯させることで、目が赤く写る現象を緩和することができます。〈〉〈〉〈〉以外の撮影モードで機能します。

● [1] タブの [**赤目緩和**] を選んで〈SET〉を押し、[**入**] を選んで〈SET〉を押します。
● ストロボが発光するときは、シャッターボタン半押しで赤目緩和ランプが点灯し、全押しすると撮影されます。

● 赤目緩和は、「写される人がランプを注視する」、「室内を明るくする」、「近づいて撮影する」を行うと効果的です。
● シャッターボタンを半押しすると、ファインダー右下の表示が内側に向かって消灯していきます。この表示が消えてから撮影すると効果的です。
● 赤目緩和効果の度合いには、個人差があります。

AF: AFモード（ピント合わせの方法）を変える 応用

記念撮影や、動物の撮影、スポーツ撮影など、被写体や撮影目的にあわせてAFの機能を変えることができます。

1 〈▶AF〉ボタンを押す

➡［AFモード］が表示されます。

2 AFモードを選ぶ

● 〈◀▶〉を押してAFモードを選びます。

3 ピントを合わせる

● AF フレームを被写体に合わせ、シャッターボタンを半押しすると、設定したAFモードでピント合わせを行います。

AFモードを選ぶときの目安

● **ワンショットAF**

記念撮影やスナップ撮影など、止まっている被写体を撮影するときに選びます。シャッターボタンを半押しすると1回だけピント合わせを行います。シャッターボタンを半押ししている間、ピントが固定されますので、構図を変えて撮影することができます。

● **AIフォーカスAF**

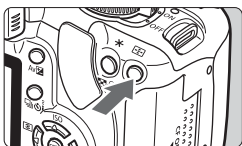
動きが予測できない動物などを撮影するときに選びます。シャッターボタンを半押しすると、ワンショットAFと同じピント合わせを行い、被写体が動き始めるとAIサーボAFに切り換わり、被写体にピントを合わせ続けます。

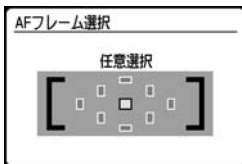
＊ AI は、Artificial Intelligence（アーティフィシャル インテリジェンス）の略で、人工知能のことです。

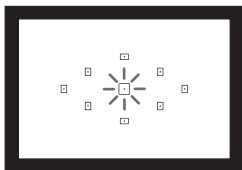
● **AIサーボAF**

スポーツ撮影など、動いている被写体を撮影するときに選びます。シャッターボタンを半押ししている間、被写体にピントと露出を合わせ続けます。

⊡ ピント合わせに使うAFフレームを選ぶ 応用

イメージゾーンでは、常にすべてのAFフレームを使い、自動選択で基本的に一番近くにあるものにピントを合わせるため、思ったところにピントが合わないことがあります。〈**P**〉（プログラムAE）だけでなく、〈**Tv**〉、〈**Av**〉、〈**M**〉では、ピント合わせに使うAFフレームを1つ選び、そのAFフレームを合わせたところだけにピントを合わせることができます。

1 〈⊡〉ボタンを押す（⏱6）

➡ AF フレームの選択状態が液晶モニターとファインダー内に表示されます。
- すべての AF フレームが点灯しているときは、自動選択になります。

2 AFフレームを選ぶ

- 〈✥〉十字キーを押してAFフレームを選びます。
- ファインダーをのぞきながら AF フレームを選ぶときは、〈ダイヤル〉を回して赤く光る点を移動させます。
- 〈SET〉を押すと、中央のAFフレームと自動選択が交互に切り換わります。

3 ピントを合わせる

- 選んだ AF フレームを被写体に合わせ、シャッターボタンを半押しするとピント合わせを行います。

撮影のポイント

● **人物をアップで撮影するときは、「ワンショット AF」で目にピントを合わせる**

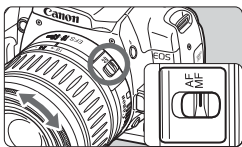
写される人の目にピントを合わせてから構図を決めると、生きいきとした表情が引き立った写真になります。

● **ピントが合いにくいときは、中央のAFフレームを選ぶ**

9点の中で、一番ピントの合いやすいAFフレームです。また、F1.0～F2.8の明るいレンズを使うと、さらに高精度なピント合わせを自動的に行います。

● **動いているものに楽にピントを合わせ続けたいときは、「自動選択」とAFモードの「AIサーボAF」を組み合わせる**

初めに中央のAFフレームでピントを合わせます。そのあとは、被写体が中央のAFフレームから外れても、ほかのAFフレームを使って自動的にピントを合わせ続けます。

手動でピントを合わせる（マニュアルフォーカス）

フォーカスリング

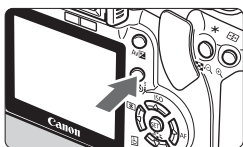
1 レンズのフォーカスモードスイッチを〈MF〉にする

2 ピントを合わせる

● ファインダー内の被写体がはっきり見えるまで、レンズのフォーカスリングを回します。

● シャッターボタンを半押ししながら手動ピント合わせをすると、ピントの合ったAFフレームが一瞬光り、合焦マーク〈●〉が点灯します。
● 〈**AF**〉はAuto Focus（オートフォーカス）の略で自動ピント合わせのことです。〈**MF**〉はManual Focus（マニュアルフォーカス）の略で手動ピント合わせのことです。

連続撮影する 応用

1秒間に最高約3枚の連続撮影を行うことができます。子どもが走ってくる様子や、表情の変化を写し続けたいときに効果的です。

1 〈 〉ボタンを押す

2 〈 〉を選ぶ

- 〈◀▶〉を押して連続撮影〈 〉を選びます。

3 撮影する

- シャッターボタンを全押ししている間、連続撮影します。

撮影のポイント

- **被写体の動きに応じてAFモードを組み合わせる**

  動いている被写体：

  「AIサーボAF」を組み合わせると、連続撮影しながら被写体にピントを合わせ続けることができます。

  止まっている被写体：

  「ワンショットAF」を組み合わせると、一度合わせたピントを変えずに連続撮影できます。

- **ストロボも併用できる**

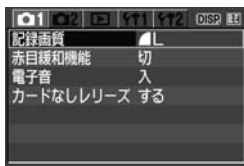
  ただし、充電に必要な時間分、連続撮影速度が遅くなります。

- **ファインダー内に「buSY」（処理中）が表示されたら数秒間待つ**

  カメラ内部のメモリーがいっぱいで撮影できない状態です。シャッターボタン半押しで、ファインダー内に「**buSY**」が表示されなくなると撮影できます。

AIサーボAF時には、連続撮影速度が被写体条件や使用レンズによって若干低下することがあります。

MENU 記録画質を設定する

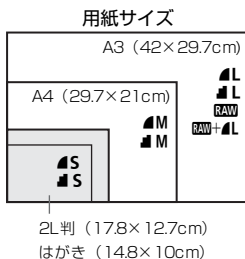
印刷する用紙のサイズや、画像の使用目的に応じて、記録画質を設定します。なお、記録画質の設定は、CFカードに記録できる写真の枚数にも影響しますので、使用するCFカードの容量も考慮に入れて選ぶことがポイントです。『記録画質を選ぶときの目安』と、次ページの『？こんなときは』を参考にしてください。

記録画質を選ぶ

● ［1］タブの［**記録画質**］を選んで〈SET〉を押し、［L］などの記録画質を選んで〈SET〉を押します。

➡ ［**記録画質**］が表示されます。

● 画面右上の数字（**** × ****）は、実際に記録される画素数（横×縦）です。

記録画質を選ぶときの目安

記録画質		記録画素数	撮影可能枚数
L	高画質	約1010万	128
L			248
M	中画質	約530万	215
M			409
S	低画質	約250万	374
S			708
RAW	高画質	約1010万	48
RAW＋L			26

* 512MBのCFカード使用時。
* RAW（ロウ）以外の記録画質では、一般的なデジタルカメラで使われているJPEG（ジェイペグ）タイプの画像として記録されます。

? こんなときは

● L、M、Sと◢、◢の違いは？

L、M、Sは画像の大きさを表しています。L：ラージ（大きい画像）、M：ミドル（中くらいの画像）、S：スモール（小さい画像）という意味です。◢（ファイン）、◢（ノーマル）は圧縮率による画質の違いを表しています。同じ記録画素数のときは、◢の方がきれいです。◢を選ぶと画質は少し落ちますが、◢よりもCFカードに多く記録できます。

● おすすめの記録画質は？

使用するCFカードの容量と印刷する用紙サイズ、一度に撮影する写真の枚数を目安に記録画質を選択してください。例えば、512MBのCFカードを使って100枚程度撮影するときは、手軽に扱えて最も高画質な◢Lを選択します。また、256MBのCFカードを使って80枚程度撮影するときは、印刷する用紙サイズによってA3サイズ以上は◢L、A4サイズは◢Mを選択します。

● かんたん撮影ゾーンでも選択できる？

RAWとRAW+◢L以外であれば、同じ操作方法で選択できます。記録画質は、かんたん撮影ゾーンと応用撮影ゾーンでそれぞれ設定してください。

● 512MB以外のCFカードを使ったときの撮影可能枚数は？

初期化されたCFカードをカメラに入れて、液晶モニターに表示される撮影可能枚数で確認してください。

● 表記されている撮影可能枚数よりも多く撮影できた

撮影条件によっては、表記の枚数よりも多く撮影できることがあります。逆に、撮影できる枚数が少なくなることもありますので、目安としてお考えください。

● 連続して撮影できる枚数は（バースト撮影枚数）？

◢L：27枚、RAW：10枚、RAW+◢L：8枚です。ほかの記録画質では、◢Lよりも多く連続撮影できます。なお、連続撮影できる枚数が、8枚以下になると、ファインダー右下の「9」の数値が小さくなります。なお、この数値はCFカードが入っていないときにも表示されますので、CFカードを入れないまま撮影しないよう注意してください。

● 1枚あたりの記録容量は？

164ページの『ファイルサイズ』でご確認ください。

● RAWはどういうときに使うの？

RAWはパソコンでの処理が必要な画像です。詳しくは、次ページの『RAWについて』と『RAW+◢Lについて』をお読みください。

RAWについて

RAWは、◢Lなどの画像を作り出す前の生データです。付属ソフトウェア Digital Photo Professional（デジタルフォトプロフェッショナル）などを使わないとパソコンで見ることができませんが、◢Lなどではできない幅広い画像調整を行うことができます。1枚の作品をじっくり創り上げたいときや、大切な撮影で使うと効果的です。

例えば、RAWで撮影した1つの画像は、次ページのピクチャースタイルを付属のソフトウェアで自由に変えて、「風景」の鮮やかな写真や「モノクロ」のセピア調の写真などを何枚でも創り出すことができます。また、第4章で説明するホワイトバランスの設定を間違えて撮影したときにも、画質を損なうことなく適切なホワイトバランスに変えることができます。

なお、RAWで撮影した画像は、ダイレクトプリントや印刷指定（DPOF）を行うことはできません。

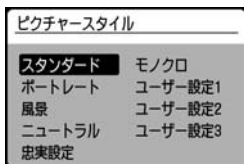
RAW＋◢Lについて

RAW＋◢Lは、1回の撮影でRAWと◢L、2つの画像をCFカードに記録します。画像として完成している◢Lも記録されますので、付属ソフトウェアの入っていないパソコンでも、見たり印刷したりすることができます。なお、RAW＋◢Lでは、同じ画像番号のものを同じフォルダに保存しますので、画像番号に付いている画像タイプ（拡張子）で判別してください。RAWの画像タイプは「CR2」、◢Lの画像タイプは「JPG」です。

MENU ピクチャースタイルを選ぶ 応用

　ピクチャースタイルは、写真表現や被写体にあわせて、用意された項目を選ぶだけで効果的な画像特性が得られる機能です。

ピクチャースタイル

スタンダード	モノクロ
ポートレート	ユーザー設定1
風景	ユーザー設定2
ニュートラル	ユーザー設定3
忠実設定	

1 **［ピクチャースタイル］を選ぶ**

- 〈SET〉を押すと［**ピクチャースタイル**］が表示されます。
- 〈▲▼〉を押してピクチャースタイルを選びます。

2 **撮影する**

- ピントを合わせてシャッターボタンを全押しすると、設定したピクチャースタイルで撮影されます。

各ピクチャースタイルの画像特性について

- **スタンダード**

　鮮やかで、くっきりした写真になります。通常はこの設定でほとんどのシーンに対応できます。

- **ポートレート**

　肌がきれいで、ややくっきりした写真になります。女性や子どもをアップで写すときに効果的です。モードダイヤルの〈ポートレート〉にも自動設定されます。

　77ページの［**色あい**］を変えると、肌色を調整することができます。

- **風景**

　青空や緑の色が鮮やかで、とてもくっきりした写真になります。印象的な風景を写すときに効果的です。モードダイヤルの〈風景〉にも自動設定されます。

- **ニュートラル**

　パソコンで画像処理するかた向けの設定です。自然な色あいで、メリハリの少ない控えめな写真になります。

● **忠実設定**

パソコンで画像処理するかた向けの設定です。5200K（色温度）程度の環境光下で撮影した写真が、測色的に被写体の色とほぼ同じになるよう色調整されます。メリハリの少ない控えめな写真になります。

● **モノクロ**

白黒写真になります。

RAW 以外の記録画質では、カラー写真に戻すことができません。[モノクロ] に設定したまま、カラー写真のつもりで撮り続けないよう注意してください。なお、[モノクロ] 設定時は、液晶モニターに〈B/W〉が表示されます。

● **ユーザー設定1～3**

［**ポートレート**］や［**風景**］などを登録し、好みに合わせて調整することができます。（p.79）登録されていないときは、スタンダードの初期設定と同じ特性で撮影されます。

4

さらに進んだ思いどおりの撮影

この章では、第3章の応用編として、さらに思いどおりの写真を撮るための方法を紹介します。

- 章の前半では、モードダイヤルの〈**Tv**〉〈**Av**〉〈**M**〉〈**A-DEP**〉を使った撮影方法を紹介しています。〈**A-DEP**〉以外の撮影モードでは、第３章で紹介した機能をすべて組み合わせて使用することができます。
- 章の後半の『測光モードを変える』からは、好ましい明るさの写真になるよう調整する方法や、ピクチャースタイルの調整方法などを紹介しています。なお、ここで紹介する機能は、第３章の〈**P**〉（プログラムAE）でもすべて組み合わせて使用することができます。

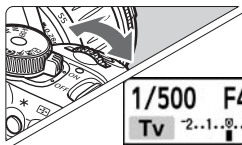
Tv: 被写体の動きを表現する

動きの速い被写体が止まっているような写真や、ブレているような写真、流れているような写真は、モードダイヤルの〈**Tv**〉（シャッター優先AE）を使って撮影します。

＊〈**Tv**〉は、Time value（タイムバリュー）の略で時間量のことです。

動きを止めた写真

流動感のある写真

1 モードダイヤルを〈Tv〉にする

2 シャッター速度を設定する

- 『撮影のポイント』を参考にしてシャッター速度を決めます。
- シャッター速度は、〈⚙〉を右に回すと速くなり、左に回すと遅くなります。

3 撮影する

- ピントを合わせてシャッターボタンを全押しすると、設定したシャッター速度で撮影されます。

シャッター速度の数値について
液晶モニターでは、シャッター速度を分数で表示していますが、ファインダー内では、その分母のみ表示しています。また、「**0"5**」は0.5秒を、「**15"**」は15秒を表しています。

撮影のポイント

● **動きの速い被写体が、止まっているような写真にするには**

動きの速さにもよりますが、シャッター速度の数値を1/500～1/4000に設定します。

● **子どもや動物が走る様子を、躍動感ある写真にするには**

シャッター速度の数値を1/60～1/250に設定し、被写体をファインダーで追い続けながらシャッターボタンを押します。望遠レンズを使うときは、手ブレしないようにカメラをしっかり構えてください。

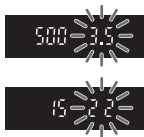
● **川の流れや噴水を、流動感ある写真にするには**

シャッター速度の数値を1/5～1/15に設定します。手持ち撮影では手ブレしますので、カメラを三脚に固定して撮影してください。

● **ファインダー内の絞り数値が点滅しないシャッター速度を設定する**

シャッターボタンを半押しして、絞り数値が表示されている状態でシャッター速度を変えると、露出（撮像素子に入る光の量）を一定にするために、絞り数値も一緒に変わります。このとき、絞り数値の調整範囲を超えると、標準露出にならないことを知らせるために絞り数値が点滅します。

500 3.5

15 22

写真が暗くなるときは、小さな絞り数値が点滅します。〈⌒〉を左に回してシャッター速度を遅くするか、ISO感度を上げます。

また、写真が明るくなるときは、大きな絞り数値が点滅します。〈⌒〉を右に回してシャッター速度を速くするか、ISO感度を下げます。

内蔵ストロボを使う

自動設定された絞り数値に対し、自動調光が行われます。なお、設定できるシャッター速度の範囲は、30秒～1/200秒に制限されます。

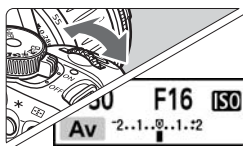
Av：ピントの合う奥行きを変える

　背景をぼかした写真や、手前から遠くまでピントの合った写真など、ピントの合う奥行きを調整した写真は、モードダイヤルの〈**Av**〉（絞り優先AE）を使って撮影します。

＊〈**Av**〉は、Aperture value（アパチャーバリュー）の略でレンズの中に入っている「絞り」の開口量のことです。

背景をぼかした写真

背景にもピントの合った写真

1 モードダイヤルを〈Av〉にする

2 絞り数値を設定する

● 数値が大きいほどピントの合う奥行きが深くなります。

3 撮影する

● ピントを合わせてシャッターボタンを全押しすると、設定した絞り数値で撮影されます。

絞り数値の表示について
数値が大きくなるほど、レンズの絞り径は小さくなります。表示される数値は使用するレンズによって異なります。カメラにレンズが付いていないときは、絞り数値「**00**」を表示します。

撮影のポイント

- **絞り数値を大きくしたときや、暗い場所では手ブレに注意する**

  絞り数値を大きくするほどシャッター速度が遅くなります。また、暗い場所ではシャッター速度が最長30秒になります。ISO感度を上げてカメラをしっかり構えて撮影するか、三脚に固定して撮影してください。

- **ピントの合う奥行きは、絞り数値だけでなく、使用するレンズと撮影する距離によっても変わる**

  広角レンズはピントの合う奥行きが広いので、絞り数値をあまり大きくしなくても手前から遠くまでピントの合った写真が撮影できます。逆に望遠レンズでは、ピントの合う奥行きが狭くなります。

  また、ピントの合う奥行きは、撮影する距離が近くなるほど狭くなり、撮影する距離が遠くなるほど広くなります。

- **ファインダー内のシャッター速度が点滅しない絞り数値を設定する**

  シャッターボタンを半押しして、シャッター速度が表示されている状態で絞り数値を変えると、露出（撮像素子に入る光の量）を一定にするために、シャッター速度も一緒に変わります。このとき、シャッター速度の調整範囲を超えると、標準露出にならないことを知らせるためにシャッター速度が点滅します。

  写真が暗くなるときは、30"（30秒）が点滅します。〈⚙〉を左に回して絞り数値を小さくするか、ISO感度を上げます。

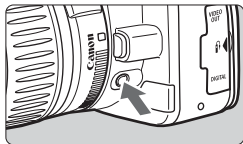
  また、写真が明るくなるときは、4000（1/4000秒）が点滅します。〈⚙〉を右に回して絞り数値を大きくするか、ISO感度を下げます。

内蔵ストロボを使う

設定した絞り数値に対し、自動調光が行われます。シャッター速度は、その場の明るさに応じて、30秒～1/200秒の範囲で自動設定されます。

暗いところでは、主被写体は自動調光で、背景は自動設定される低速シャッターの組み合わせで、ともに標準露出の雰囲気のある写真（自動スローシンクロ撮影）になります。手持ち撮影では手ブレに注意してください。手ブレを防ぐには三脚の使用をおすすめします。

なお、スローシンクロ撮影にならないようにするには、メニュー［**ΥΥ2 カスタム機能（C.Fn）**］の［**Avモード時のストロボ同調速度**］（p.102）を［**1/200秒固定**］に設定します。

ピントの合っている範囲を確認する 応用

絞り込みボタンを押すと、そのとき設定されている絞り数値で絞り込みが行われ、ピントの合う奥行き（被写界深度）をファインダーで確認できます。

被写界深度の効果がわかりにくいときは、少しピントが合っていない状態で一番小さい絞り数値を設定し、絞り込みボタンを押したまま、ファインダーをのぞいて〈電子ダイヤル〉を右に回してください。徐々に絞り込みが行われ、ピントの合う奥行きが深くなる様子が確認できます。

M: 露出値を固定して撮る

自分で設定したシャッター速度と絞り数値の組み合わせで撮影されます。ストロボを使うと、そのときの絞り数値に対し、自動調光が行われます。なお、ストロボ撮影時に設定できるシャッター速度の範囲は、バルブ、30秒〜1/200秒に制限されます。

＊〈**M**〉は、Manual （マニュアル）の略です。

1 モードダイヤルを〈M〉にする

2 シャッター速度と絞り数値を設定する

- シャッター速度は、〈メイン電子ダイヤル〉を回して設定します。
- 絞り数値は、〈Av±〉ボタンを押しながら〈メイン電子ダイヤル〉を回して設定します。

標準露出指標

200 6.3 -2..1..▼..1..+2 9●

露出レベルマーク

3 露出を決めて撮影する

- シャッターボタンを半押ししてピントを合わせます。
- ファインダー内の露出レベル表示では、標準露出指標を中心に±2段までの表示ができます。シャッター速度と絞り数値を変えながら露出レベルマークを動かし、標準露出に対してどの程度露出を変えるかを決めて撮影します。

長時間露光（バルブ）撮影

手順2で〈メイン電子ダイヤル〉を左に回して行くと、〈**BULB**〉（バルブ撮影）ができます。バルブ撮影は、シャッターボタンを押している間だけ露光を行う機能で、打ち上げ花火などの撮影に使用します。撮影中に〈DISP.〉ボタンを押すと、露光経過時間を表示します。

長時間露光では、画像に含まれるノイズが多くなるため、多少ザラついた画像になります。メニュー［**ƳƳ2 カスタム機能 (C.Fn)**］の［**長秒時露光のノイズ低減**］(p.101) を［**自動**］、または［**する**］に設定すると、ノイズを低減することができます。

A-DEP：近くから遠くまでピントが合った写真を撮る

自動的に近くから遠くまでピントの合った写真を撮ることができます。すべてのAFフレームで被写体を検出し、検出できた範囲（奥行き）にピントが合うよう絞り数値が自動設定されます。

＊〈A-DEP〉は、Auto-Depth of field（オートデプスオブフィールド）の略でピントの合う奥行きを自動設定するという意味です。

1 モードダイヤルを〈A-DEP〉にする

2 ピントを合わせる

- AF フレームを被写体に合わせ、シャッターボタンを半押しします。（⏱4）
- 一瞬赤く光ったAFフレームのすべてにピントが合います。

3 撮影する

? こんなときは

- **ファインダー内のシャッター速度が点滅する**

　「**30"**」が点滅するときは、被写体が暗すぎます。ISO感度を上げてください。また、「**4000**」が点滅するときは、被写体が明るすぎます。ISO感度を下げてください。

- **ファインダー内の絞り数値が点滅する**

　露出は合っていますが、希望したピントの奥行きが得られません。レンズを広角にするか、被写体から離れてやりなおしてください。

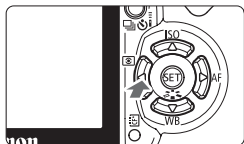
- **遅いシャッター速度が設定された**

　カメラを三脚に固定して撮影してください。

- **ストロボを使いたい**

　使用できますが、〈**P**〉のストロボ撮影と同じ結果になり、希望したピントの深さが得られません。

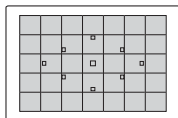
◉ 測光モードを変える 応用

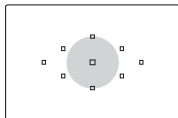
測光モードは、被写体の明るさを測る機能の特性のことです。かんたん撮影ゾーンに設定されている「評価測光」という測光モードで特に不満がない場合は、設定を変える必要はありません。

1 〈◀ ◉〉ボタンを押す

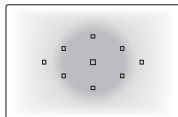
➡［**測光モード**］が表示されます。

2 測光モードを選ぶ

● 〈◀▶〉を押して希望する項目を選びます。

● シャッターボタンを半押しすると、液晶モニターに設定した測光モードが表示されます。

◉ 評価測光

逆光撮影を含む一般的な人物撮影に適しています。撮影シーンに応じてカメラが露出を自動補正します。

◎ 部分測光

逆光のときなど、被写体の周辺に強い光がある状況での撮影に適しています。左図の灰色部分が標準露出になるよう測光が行われます。

□ 中央部重点平均測光

逆光などの撮影シーンに応じて、適切に露出補正することを前提にした、経験豊富な上級者向けの測光モードです。

自分の好みに露出を補正する 応用

白や黒の被写体（服など）を撮影したときに、白や黒がやや灰色がかることがあります。見た目どおりの写真にするには、自分で露出補正を行って再度撮影します。また、この機能を使い、意図的に明るめ、あるいは暗めの写真にすることもできます。この機能は、〈**M**〉以外の応用撮影ゾーンで使用できます。設定した補正量は、電源スイッチを切っても自動的に解除されません。撮影が終わったら必ず設定をゼロに戻してください。

露出補正を使って撮影する

ストロボを使用しないときの撮影結果が、思いどおりの明るさになっていないときに使用します。

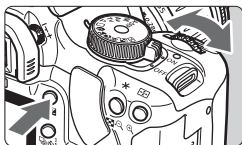
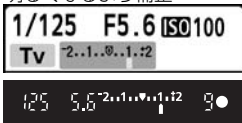
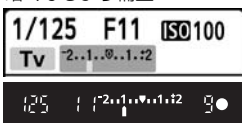
明るくなるよう補正

1/125　F5.6　ISO100
Tv　-2..1..0..1..+2

125　5.6　-2..1..▼..1..+2　9●

暗くなるよう補正

1/125　F11　ISO100
Tv　-2..1..0..1..+2

125　11　-2..1..▼..1..+2　9●

撮影結果が暗いとき：
〈Av±〉ボタンを押しながら〈⚙〉を右に回します。

撮影結果が明るいとき：
〈Av±〉ボタンを押しながら〈⚙〉を左に回します。

➡ 図のように、液晶モニターとファインダー内の露出レベル表示が動きます。

● 撮影が終わったら、〈Av±〉ボタンを押しながら〈⚙〉を回して、補正量をゼロに戻します。

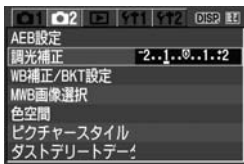
暗めの露出

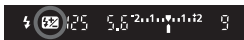
明るくなるようプラス補正

ストロボ調光補正を使って撮影する 応用

ストロボ撮影のときに、メインの被写体が思いどおりの明るさになっていないときに使用します。この機能は、外部ストロボのEXシリーズスピードライト使用時にも働きます。

1 ［調光補正］を選ぶ

- ［2］タブの［**調光補正**］を選び、〈SET〉を押します。

2 補正量を設定する

- 撮影結果が暗いときは、〈▶〉ボタンを押します。逆に撮影結果が明るいときは、〈◀〉ボタンを押します。
- 補正量を設定したら〈SET〉を押します。
- シャッターボタンを半押しすると、液晶モニターに〈〉と設定値が、ファインダー内には〈〉が表示されます。
- 撮影が終わったら手順2の操作で、補正量をゼロに戻します。

明るめの露出

暗くなるようマイナス補正

外部ストロボで調光補正を行うと、液晶モニターの〈〉表示が〈〉に変わります。外部ストロボの調光補正量は表示されません。

MENU 明るさを自動的に変えて撮影する 応用

露出補正の応用機能で、下記の作例のように段階露光で自動的に明るさの異なる写真を撮影し、あとで一番好ましい明るさの写真を選ぶことができます。この機能を使った撮影のことを、AEB（Auto Exposure Bracketing：オートエクスポージャーブラケティング）撮影といいます。

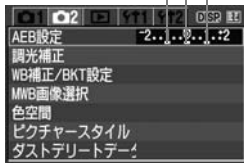
標準露出

暗くなるよう補正
（マイナス補正）

明るくなるよう補正
（プラス補正）

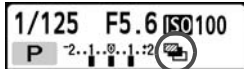
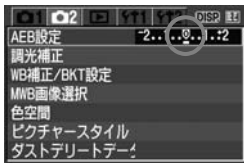
AEBレベル

1 ［AEB設定］を選ぶ

- ［2］タブの［AEB設定］を選び、〈SET〉を押します。

2 AEBレベルを設定する

- 〈◀▶〉を押してAEBレベルを設定し、〈SET〉を押します。
- シャッターボタンを半押しすると、液晶モニターに〈〉とAEBレベルが表示されます。

3 撮影する

- ピントを合わせてシャッターボタンを全押しすると、標準露出→マイナス補正→プラス補正の順に撮影されます。

AEB撮影の解除

- 手順1、2の操作でAEBレベルを〈-2..1..0..1..+2〉にします。
- 電源スイッチ〈OFF〉、レンズ交換、ストロボ充電完了、電池交換、CFカード交換で自動解除されます。

撮影のポイント

- **連続撮影と組み合わせる**

〈連続撮影〉（p.57）を設定してシャッターボタンを全押しすると、標準露出→マイナス補正→プラス補正の順に連続撮影して自動停止します。

- **ドライブモードが1枚撮影（□）のときは**

シャッターボタンを3回押して撮影してください。標準露出→マイナス補正→プラス補正の順に撮影されます。

- **露出補正と併用できる**

露出補正した明るさを中心にして、マイナス補正とプラス補正の撮影ができます。

- **セルフタイマーやリモコンと併用できる**

セルフタイマーやリモコンを使うと、1回の撮影操作で3枚連続撮影されます。

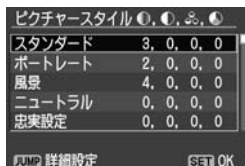
- **ストロボ撮影とは併用できない**

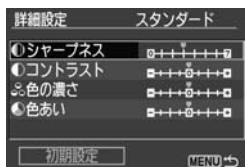
ストロボ撮影、およびバルブ撮影との併用はできません。

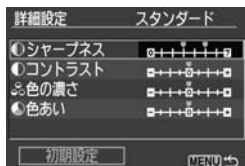
MENU ピクチャースタイルを調整する 応用

それぞれのピクチャースタイルは、好みに合わせて設定内容（[**シャープネス**]［**コントラスト**］など）を初期設定から変更（調整）することができます。効果については、試し撮りをかさねて確認してください。[**モノクロ**］の調整については、78ページを参照してください。

1 ［ピクチャースタイル］を選ぶ

- ［**2**］タブの［**ピクチャースタイル**］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ スタイル選択画面になります。

2 スタイルを選ぶ

- スタイルを選び、〈JUMP〉ボタンを押します。
- ➡ 詳細設定画面になります。

3 項目を選ぶ

- 〈▲▼〉を押して［**シャープネス**］などの項目を選び、〈SET〉を押します。

4 内容を設定する

- 〈◀▶〉を押して効果の度合いを設定し、〈SET〉を押します。
- 〈MENU〉ボタンを押すと、調整した内容が保存され、スタイル選択画面に戻ります。
- ➡ 初期設定から変更した数値が、青色で表示されます。

設定内容とその効果

シャープネス

被写体の鮮鋭度（シャープネス）の度合いが調整できます。

初期設定よりも被写体の鮮鋭度を弱くしたいときは、0 側に設定します。0 に近づけるほど柔らかい（ねむい）感じの写真になります。

逆に被写体の鮮鋭度を強くしたいときは、7 側に設定します。7 に近づけるほど硬い（シャープな）感じの写真になります。

コントラスト

写真の明るい部分と暗い部分の明暗差（コントラスト）や、色のメリハリの強さが調整できます。

初期設定よりもコントラストを弱くしたいときは、マイナス側に設定します。－に近づけるほど全体的におとなしい感じの写真になります。

逆にコントラストを強くしたいときは、プラス側に設定します。＋に近づけるほど全体的にくっきりした感じの写真になります。

色の濃さ

写真全体の色の濃さが調整できます。

初期設定よりも薄い発色にしたいときは、マイナス側に設定します。－に近づけるほど全体的に色の薄い写真になります。

逆に濃い発色にしたいときは、プラス側に設定します。＋に近づけるほど全体的に色の濃い写真になります。

色あい

肌の色あいが調整できます。

初期設定よりも肌色を赤めにしたいときは、マイナス側に設定します。－に近づけるほど肌の色あいが赤くなります。

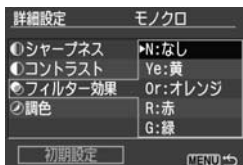
逆に肌の色あいを赤色寄りにしたくないときは、プラス側に設定します。＋に近づけるほど肌の色あいが黄色寄りになります。

- ［**初期設定**］を選ぶと、各ピクチャースタイルごとに設定した内容を初期状態に戻すことができます。
- 調整したスタイルで撮影するときは、手順2でスタイルを選び〈MENU〉ボタンを押すか、61ページの手順1でスタイルを選びます。

モノクロの調整

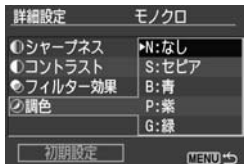
前のページで説明した［**シャープネス**］と［**コントラスト**］のほかに、［**フィルター効果**］、［**調色**］を設定することができます。

フィルター効果

フィルター効果を使うと、同じモノクロ写真でも、白い雲や木々の緑を強調した写真にすることができます。

フィルター	効果例
N：なし	フィルター効果なしの通常の白黒画像になります。
Ye：黄	青空がより自然に再現され、白い雲がはっきりと浮かび上がります。
Or：オレンジ	青空が少し暗くなります。夕日の輝きがいっそう増します。
R：赤	青空がかなり暗くなります。紅葉の葉がはっきりと明るくなります。
G：緑	人物の肌色や唇が落ち着いた感じになります。木々の緑の葉がはっきりと明るくなります。

［**コントラスト**］をプラス側に設定して撮影すると、フィルター効果がより強調されます。

調色

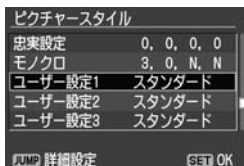
調色を設定して撮影すると、色のついたモノクロ写真にすることができます。より印象的な写真を撮影したいときに有効です。

［**N：なし**］［**S：セピア**］［**B：青**］［**P：紫**］［**G：緑**］から選ぶことができます。

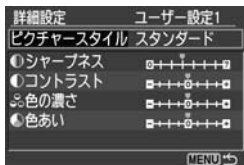
MENU ピクチャースタイルを登録する 応用

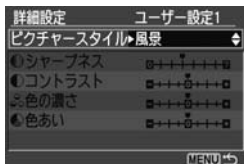
［**ポートレート**］や［**風景**］などの基本スタイルを選択し、好みに合わせて調整して、［**ユーザー設定1**］から［**ユーザー設定3**］に登録することができます。

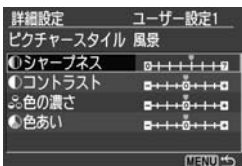
シャープネスやコントラストなどの設定が異なる、複数のスタイルを用意しておきたいときに使用します。また、付属のソフトウェアから設定したスタイルを選択するときにも使用します。

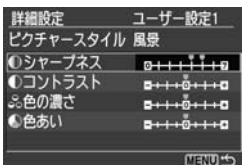
1 ［ピクチャースタイル］を選ぶ

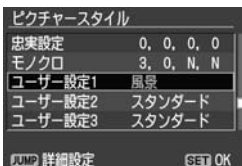
- ［**2**］タブの［**ピクチャースタイル**］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ スタイル選択画面になります。

2 ［ユーザー設定］を選ぶ

- 〈▲▼〉を押して［**ユーザー設定＊**］を選び、〈JUMP〉ボタンを押します。
- ➡ 詳細設定画面になります。

3 〈SET〉を押す

- ［**ピクチャースタイル**］が選ばれた状態で〈SET〉を押します。

4 基本にするスタイルを選ぶ

- 〈▲▼〉を押して基本にするスタイルを選び、〈SET〉を押します。
- 付属のソフトウェアから設定されたスタイルがあるときは、この操作で選択します。

5 項目を選ぶ

- 〈▲▼〉を押して［**シャープネス**］などの項目を選び、〈SET〉を押します。

6 内容を設定する

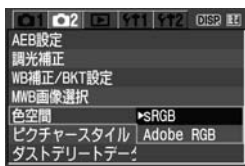
- 〈◀▶〉を押して効果の度合いを設定し、〈SET〉を押します。
  詳しくは、『ピクチャースタイルを調整する』（p.76～78）を参照してください。

- 〈MENU〉ボタンを押すと内容が登録され、スタイル選択画面に戻ります。
- ➡［**ユーザー設定＊**］の右に、基本にしたスタイルが表示されます。
- ➡［**ユーザー設定＊**］に登録されたピクチャースタイルの設定内容が初期設定から変更されている場合は、スタイル名が青色で表示されます。

- ［**ユーザー設定＊**］にピクチャースタイルがすでに登録されているときは、手順4で基本にするピクチャースタイルを変更すると、登録されているスタイルの設定が無効になります。
- 登録したスタイルで撮影するときは、手順2で［**ユーザー設定＊**］を選び〈MENU〉ボタンを押すか、61ページの手順1で［**ユーザー設定＊**］を選びます。

MENU 色空間を設定する 応用

　色空間とは、再現できる色の範囲（色域特性）のことです。このカメラでは、撮影する画像の色空間をsRGB（エスアールジービー）、Adobe RGB（アドビアールジービー）から選択することができます。なお、一般的な撮影には、sRGBをおすすめします。かんたん撮影ゾーンではsRGBに自動設定されます。

1 ［色空間］を選ぶ

- ［2］タブの［色空間］を選び、〈SET〉を押します。

2 色空間を設定する

- ［sRGB］または［Adobe RGB］を選び、〈SET〉を押します。

Adobe RGBについて

　おもに商用印刷などの業務用途で使用します。画像処理とAdobe RGB、DCF 2.0（Exif 2.21）についての知識がない方にはおすすめできません。sRGBのパソコン環境や、DCF 2.0（Exif 2.21）に対応していないプリンターでは、とても控えめな感じに仕上がるため、撮影後、パソコンのソフトウェアなどで画像処理を行う必要があります。

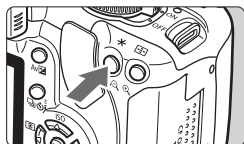
- 色空間をAdobe RGBに設定して撮影した画像は、画像名が「_MG_」（先頭文字がアンダーバー）になります。
- ICCプロファイルは付加されません。ICCプロファイルについては、ソフトウェア使用説明書（PDF）を参照してください。

✱ 露出を固定して撮る／AEロック撮影 応用

同じ露出で何枚も撮影したいときや、ピントと露出を別々に決めたいときに使用します。〈✱〉ボタンを押して露出を固定したあと、構図を変えて撮影します。これをAEロック撮影といいます。逆光下での撮影などに有効です。

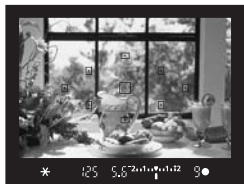
AEロック表示

1 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しします。
- ➡ 露出値が表示されます。

2 〈✱〉ボタンを押す（⏱4）

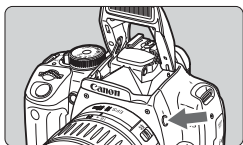
- ➡ ファインダー内に〈✱〉が表示され、露出が固定（AEロック）されます。
- 〈✱〉ボタンを押し直すたびに、そのときの露出値をAEロックします。

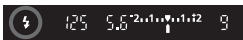
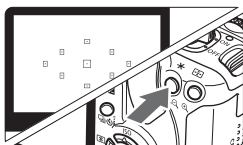
3 構図を決めて撮影する

- 連続して AE ロック撮影をするときは、〈✱〉ボタンを押したままシャッターボタンを押します。

AFフレームの選択と測光モードの組み合わせにより、AEロックの効果は変わります。詳しくは『AEロックの効果』（p.157）を参照してください。

✱ FEロック撮影 応用

FEロック撮影は、被写体の任意の部分に調光させるストロボ撮影です。この機能は、EXシリーズスピードライト使用時にも働きます。

＊FEは、Flash Exposure：フラッシュエクスポージャーの略です。

1 〈ϟ〉ボタンを押して内蔵ストロボを上げる

- シャッターボタンを半押しして、ファインダー内に〈ϟ〉が点灯していることを確認します。

2 ピントを合わせる

3 〈✱〉ボタンを押す（☞16）

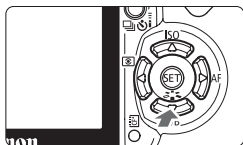
- ファインダーの中央に被写体をおいて、〈✱〉ボタンを押します。
- ➡ ストロボがプリ発光し、撮影に必要な発光量を記憶します。
- ➡ ファインダー内に一瞬「**FEL**」と表示され、〈ϟ＊〉が点灯します。
- 〈✱〉ボタンを押し直すたびにプリ発光し、撮影に必要な発光量を記憶します。

4 撮影する

- 構図を決めてシャッターボタンを全押しします。
- ➡ ストロボが発光し、撮影されます。

> 被写体までの距離が遠すぎて露出不足になるときは〈ϟ〉が点滅します。被写体に近づいて再度手順2～4の操作をします。

WB: ホワイトバランスの設定 応用

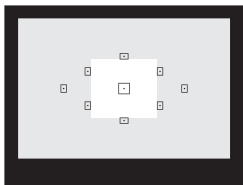
ホワイトバランス（WB）は白いものを白く写すための機能です。通常は〈AWB〉（オート）で適切なホワイトバランスが自動設定されます。〈AWB〉で自然な色あいにならないときは、光源別にホワイトバランスを選択したり、手動設定で調整します。かんたん撮影ゾーンでは〈AWB〉に自動設定されます。

1 〈▼ WB〉ボタンを押す

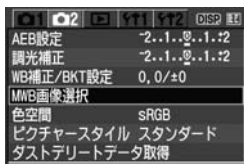
➡［ホワイトバランス］が表示されます。

2 ホワイトバランスを選ぶ

- 〈◀▶〉を押して希望する項目を選び、シャッターボタンを半押しすると設定されます。
- 〈☀〉〈🏠〉〈☁〉〈✳〉〈𝍖〉を選んだときに表示される「約****K」（K：ケルビン）は、設定される色温度です。

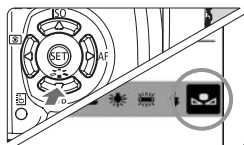
マニュアルホワイトバランス

マニュアルホワイトバランス（MWB）は、撮影場所の光源にあわせてホワイトバランスを厳密に設定するときに使用します。必ず撮影場所の光源下で一連の操作を行ってください。

1 白い被写体を撮影する

- ファインダーの中央に、白い無地の被写体がくるようにします。
- 手動でピントを合わせ、白い被写体が標準露出になるように撮影します。
- ホワイトバランスの設定は、どれでも構いません。

2 [MWB画像選択] を選ぶ

- [2] タブの [MWB 画像選択] を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 設定画面になります。

3 ホワイトバランスデータを取り込む

- 手順1で撮影した画像を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ データが取り込まれ、メッセージ画面が表示されてメニューに戻ります。

4 マニュアルWBを選ぶ

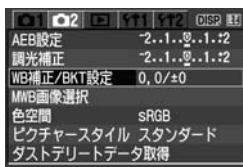
- 〈▼ WB〉ボタンを押します。
- 〈◀▶〉を押して〈〉を選び、シャッターボタンを半押しすると設定されます。

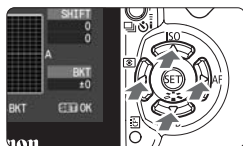
- 手順1で撮影した画像の露出が標準露出から大きく外れていると、正確なホワイトバランスが設定されないことがあります。
- ピクチャースタイルを [モノクロ] に設定して撮影した画像（p.62）は、手順3で選択できません。

白い被写体の代わりに 18%標準反射板（市販品）を撮影すると、より正確なホワイトバランスにすることができます。

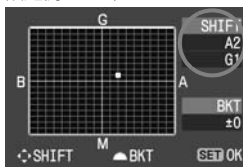
MENU ホワイトバランスを補正する 応用

設定しているホワイトバランスを補正することができます。この機能を使うと、市販品の色温度変換フィルターや、色補正用フィルターと同じような効果を得ることができます。補正幅は各色9段です。

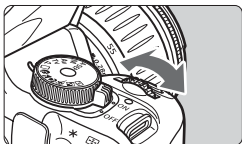
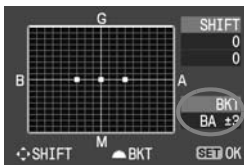
特に色温度変換フィルターや、色補正用フィルターの役割と効果を理解されている方におすすめします。

1 [WB補正/BKT設定] を選ぶ

- [**2**] タブの [**WB 補正 /BKT 設定**] を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ WB 補正 /WB ブラケティング設定画面になります。

設定例：A2, G1

2 ホワイトバランスを補正する

- 〈✣〉十字キーを押して、画面上の「■」を希望する位置に移動します。
- Bはブルー、Aはアンバー、Mはマゼンタ、Gはグリーンの意味です。移動方向寄りの色に補正されます。
- 画面右上の「**SHIFT**」に補正方向と、補正量が表示されます。
- ホワイトバランス補正を解除するときは、〈✣〉十字キーを操作して、「■」の位置を座標の中心（「**SHIFT**」を「**0, 0**」の表示）にします。
- 〈SET〉を押すと、設定が終了しメニューに戻ります。

- WB補正中は、ファインダー内と液晶モニターに〈WB+/-〉が表示されます。
- ブルー／アンバー方向の1段は、色温度変換フィルターの約5ミレッドに相当します。（ミレッド：色温度変換フィルターの濃度を表わすときに使用される単位）

ホワイトバランスを自動的に変えて撮る

1回の撮影で色あいの異なる3枚の画像を記録します。設定されているホワイトバランスの色温度を基準に、ブルーとアンバー寄りの色あい、またはマゼンタとグリーン寄りの色あいに補正した画像を記録します。これをホワイトバランスブラケティング撮影といいます。設定できる補正幅は、1段ステップ、±3段です。

B/A方向±3段のとき

補正幅を設定する

- ホワイトバランス補正の手順2で〈ダイヤル〉を回すと、画面上の「■」が「■ ■ ■」(3点)に変わります。〈ダイヤル〉を右に回すと、B/A方向、左に回すとM/G方向のブラケティングになります。

⇒ 画面右の「**BKT**」にブラケティング方向と、補正幅が表示されます。

- 〈SET〉を押すと、設定が終了しメニューに戻ります。
- 設定を解除するときは、「**BKT**」を「**±0**」(「■ ■ ■」を「■」(1点))にします。

記録される順番について

基準ホワイトバランス／ブルー寄り／アンバー寄り、または基準ホワイトバランス／マゼンタ寄り／グリーン寄りの順に画像を記録します。

記録画質が、RAW、RAW+◢Lに設定されているときは、WBブラケティング撮影できません。

- WBブラケティング撮影時は、連続撮影可能枚数が少なくなります。また、撮影可能枚数が約1/3になります。
- 1回の撮影で3枚の画像を記録するため、通常の撮影よりもCFカードへの画像記録時間が長くなります。
- 「**BKT**」は、Bracketing：ブラケティングの略です。

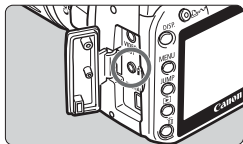
カメラブレを防止する

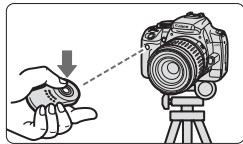
手ブレの防止には、カメラを三脚に固定することが効果的ですが、加えて、シャッターボタンを押すときにカメラブレしないよう（カメラが動かないよう）気をつける必要があります。ここでは、カメラを三脚に固定して撮影するときのカメラブレを防ぐ方法を紹介します。

リモコン撮影する

別売のリモートスイッチRS-60E3やリモートコントローラー RC-1、RC-5を使うと、カメラブレ防止に有効なリモコン撮影を行うことができます。

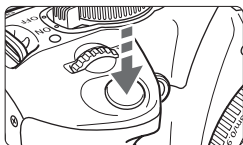
リモートスイッチRS-60E3

シャッターボタンの半押し／全押し機能を備えたコード長60cmのリモートスイッチです。カメラのリモコン端子につなぐだけで使用できます。

リモートコントローラー RC-1、RC-5

カメラから最大約5m離れて撮影できるリモコン送信機です。（p.151）RC-1は即レリーズと2秒後レリーズ、RC-5は2秒後レリーズができます。

RC-1

RC-5

ミラーアップ撮影する

リモコン撮影だけでもカメラブレ防止に十分な効果がありますが、さらに超望遠レンズを使用した撮影や近接（マクロ）撮影で、撮影時の機械的な振動（ミラーショック）が気になるときは、ミラーアップ撮影という方法を使います。ミラーアップ撮影は、メニュー［**ꝏ2 カスタム機能 (C.Fn)**］の［**ミラーアップ撮影**］(p.103）を［**1：する**］に設定するとできます。

- シャッターボタン全押しでミラーが上がります。
- 一呼吸置いて再度シャッターボタンを全押しすると撮影が行われ、ミラーが下がります。

撮影のポイント

- **レンズを太陽に向けない**

  太陽の熱でシャッター幕が焼けて損傷するおそれがあります。

- **セルフタイマーを使うと2秒後レリーズができる**

  シャッターボタンを1回全押しするとミラーが上がり、2秒後にセルフタイマー撮影されます。なお、バルブ撮影のときは、撮影が終わるまでシャッターボタンを全押しし続けてください。タイマー作動中の2秒のあいだに、シャッターボタンから指を離すと、シャッターが切れたような音がしますが、実際は撮影されていません。

- **リモコン撮影する**

  カメラに手を触れずに撮影できますので、ミラーアップ撮影と併用することで、より効果的にカメラブレを防止できます。リモートコントローラーRC-5では、送信ボタンを押すとミラーが上がり、2秒後に撮影されます。RC-1では、2秒後レリーズに設定して撮影します。

- 〈▭〉（連続撮影）にしていても、1枚撮影になります。
- ミラーアップしてから30秒経過すると、ミラーが自動的に下がります。再度シャッターボタンを全押しするとミラーアップします。

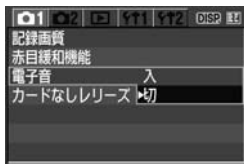
5

知っていると便利な機能

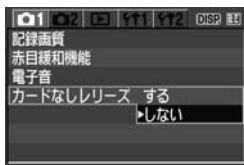
　電子音を鳴らなくする設定や、撮影するときのCFカード入れ忘れ防止など、普段使う上で便利な機能を紹介しています。
　また、カメラの機能を自分の好みに変更する方法や、カメラとパソコンをつないで直接パソコンに画像を転送する方法、写真にゴミが写り込まないようにする機能を紹介しています。

普段使う上で便利な機能

MENU 電子音が鳴らないようにする

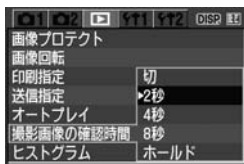
合焦音やセルフタイマーの電子音が鳴らないようにします。

［📷1］タブの［**電子音**］を選び、〈SET〉を押します。［**切**］を選び〈SET〉を押します。

MENU CFカードの入れ忘れを防止する

CFカードが入っていないときに、撮影できないようにします。

［📷1］タブの［**カードなしレリーズ**］を選び、〈SET〉を押します。［**しない**］を選び〈SET〉を押します。

CFカードを入れないでシャッターボタンを押すと、ファインダー内に「**no CF**」が表示されてシャッターが切れません。

MENU 撮影直後の画像表示時間を設定する

撮影直後に液晶モニターに表示される、画像の表示時間を設定します。［**切**］に設定すると、撮影直後の画像表示を行いません。［**ホールド**］に設定すると、［**オートパワーオフ**］の時間まで表示し続けます。なお、ファインダーに目を近づけたり、シャッターボタン半押しなどのカメラ操作を行うと表示を終了します。

［▶］タブの［**撮影画像の確認時間**］を選び、〈SET〉を押します。内容を選び〈SET〉を押します。

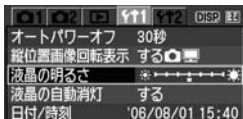
MENU 電源が切れるまでの時間を設定する

カメラを操作しない状態で放置したときに、節電のために電源が切れるまでの時間を設定します。この機能が働いて電源が切れたときは、シャッターボタンを半押しするか、〈MENU〉〈DISP.〉〈▶〉ボタンを押すと電源が入ります。

［切］の設定にしたときは、節電のために電源をこまめに切るか、〈DISP.〉ボタンを押してカメラの設定状態表示を消すことをおすすめします。なお、［切］の設定で使用しているときにカメラを30分間放置すると、液晶モニターが消灯します。再度液晶モニターを点灯させるときは、〈DISP.〉ボタンを押してください。

［ƳƳ1］タブの［**オートパワーオフ**］を選び、〈SET〉を押します。内容を選び〈SET〉を押します。

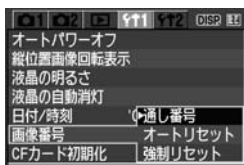
MENU 液晶モニターの明るさを調整する

液晶モニターが見やすいように、明るさを調整することができます。

［ƳƳ1］タブの［**液晶の明るさ**］を選び、〈SET〉を押します。調整画面で〈◀▶〉押して明るさを調整し、〈SET〉を押します。

露出の確認は、真ん中の目盛り位置でなるべく外光の影響を受けないようにして行ってください。

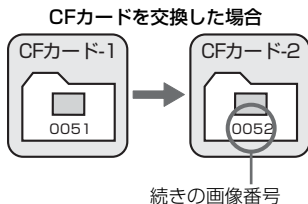
MENU 画像番号の付けかたを設定する

画像番号は、フィルムのコマ番号に相当するもので、撮影した順に0001～9999の画像番号が付いて、1つのフォルダに保存されます。画像番号は、用途に応じて番号の付けかたを変えることができます。

画像番号は、パソコンでは IMG_0001.JPG というような形で表示されます。

［ff1］タブの［**画像番号**］を選び、〈SET〉を押します。下記の説明を参考にして内容を選び、〈SET〉を押します。

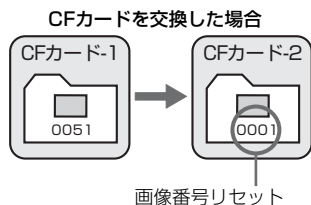
● **［通し番号］：CFカードを交換しても連番で保存したいとき**

CFカードを交換して撮影しても、画像番号9999の画像ができるまで、連続した番号を付けて保存します。複数のCFカードにまたがった0001～9999までの画像を、パソコンで1つのフォルダにまとめて保存したいときなどに有効です。

ただし、交換するCFカードにすでに画像が入っているときは、その画像に付けられた番号の続き番号になることがあります。画像を通し番号で保存したいときは、初期化されたCFカードをお使いください。

● **[オートリセット]：CFカードの交換で、画像番号を0001にしたいとき**

CFカードを交換して撮影すると、画像番号0001から順に番号を付けて保存します。CFカード単位で画像を分類したいときなどに有効です。

ただし、交換するCFカードにすでに画像が入っているときは、その画像に付けられた番号の続き番号になることがあります。画像番号0001の画像から順に保存したいときは、初期化されたCFカードをお使いください。

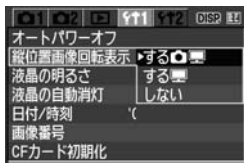
CFカードを交換した場合

● **[強制リセット]：任意に画像番号を 0001 にしたり、新しいフォルダに画像を保存したいとき**

この操作を行うと、自動的に新しいフォルダが作られ、そのフォルダに画像番号0001の画像から順に保存していきます。前の日に撮影した画像と、今日撮影する画像を別々のフォルダに保存したいときなどに有効です。操作を行ったあとは、通し番号、またはオートリセットの設定に戻ります。

フォルダ番号999のフォルダが作成されると、液晶モニターに［**フォルダ番号がいっぱいです**］と表示されます。そのフォルダに画像番号9999の画像が保存されると、CFカードに空き容量があっても撮影できなくなります。液晶モニターにCFカードの交換を促すメッセージが表示されますので、新しいCFカードに交換してください。

画像名は、JPEG画像、RAW画像ともに「IMG_ 」になります。拡張子は、JPEG画像が「 .JPG」、RAW画像が「 .CR2」になります。

MENU 縦位置撮影時の画像回転を設定する

　縦位置で撮影した画像は、カメラで再生するときやパソコンで見るときに、被写体が横向きで表示されないよう自動回転させて表示していますが、この設定を変えることができます。

　［1］タブの［**縦位置画像回転表示**］を選び、〈SET〉を押します。下記の説明を参考にして内容を選び、〈SET〉を押します。

- **［する］：カメラで再生するときと、パソコンで見るときに自動回転させたいとき**
- **［する］：パソコンで見るときだけ自動回転させたいとき**
- **［しない］：自動回転させたくないとき**

? こんなときは

- **撮影直後に表示される画像が回転表示されない**

  回転表示は、再生時に行われます。

- **［する］にして再生しても回転表示されない**

  ［**しない**］の設定で撮影した画像は回転表示されません。また、カメラを上や下に向けて撮影すると、正しく回転表示されないことがあります。この場合は、117ページの『回転させる』の操作をすると回転表示されます。

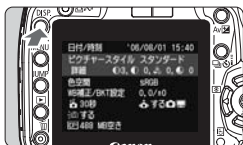
- **［する］で撮影した画像をカメラで回転表示させたい**

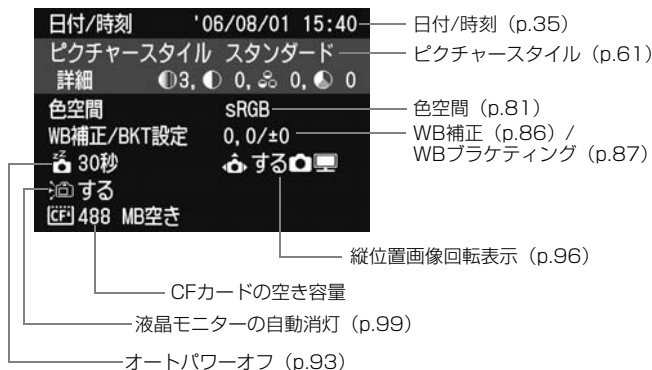
  ［**する**］の設定で再生すると、回転表示されます。

- **パソコンの画面で回転表示されない**

  回転表示に対応していないソフトウェアです。付属のソフトウェアを使って見てください。

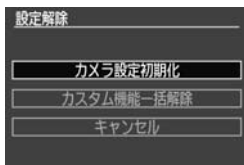
DISP. カメラの設定内容を確認する

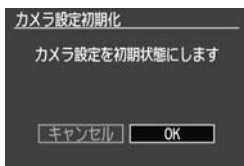
メニュー表示中に〈DISP.〉ボタンを押すと、現在カメラに設定されている主な機能の内容を確認することができます。

- メニュー画面を表示した状態で、〈DISP.〉ボタンを押すと表示されます。
- もう一度〈DISP.〉ボタンを押すとメニュー画面に戻ります。
- シャッターボタンを半押しすると、カメラの設定状態表示に戻ります。

設定内容表示

MENU カメラの設定状態を初期状態に戻す 応用

カメラの撮影機能やカスタム機能を、設定前の初期状態に戻したいときに使用します。〈P〉などの応用撮影ゾーンで操作できます。

1 [設定解除]を選ぶ

- [Ý2]タブの[設定解除]を選び、〈SET〉を押します。

2 項目を選ぶ

- 撮影機能を初期状態に戻すときは、[カメラ設定初期化]を選び、〈SET〉を押します。
- カスタム機能を初期状態に戻すときは、[カスタム機能一括解除]を選び、〈SET〉を押します。

3 [OK]を選ぶ

- [OK]を選び、〈SET〉を押すと初期状態になります。
- ➡ [カメラ設定初期化]を実行すると、カメラの主な撮影機能は、次の表のようになります。

撮影機能関係

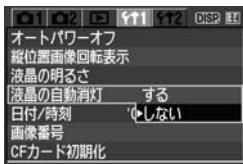
AFモード	ワンショットAF
AFフレームの選択	自動選択
測光モード	◉(評価測光)
ドライブモード	□(1枚撮影)
露出補正	0(ゼロ)
AEB	解除
ストロボ調光補正	0(ゼロ)

画像関係

記録画質	◢L
ISO感度	100
色空間	sRGB
ホワイトバランス	AWB(オートWB)
WB補正	解除
WBブラケティング	解除
ピクチャースタイル	スタンダード

* マニュアルホワイトバランスで取り込んだホワイトバランスデータ(p.84)と、ダスト デリート データ(p.110)は消去されます。

MENU 液晶モニターが自動消灯しないようにする

ファインダーに顔を近づけたときに、ディスプレイオフセンサーが働いてカメラの設定状態表示が自動消灯しないようにします。

[液晶の自動消灯] を選ぶ

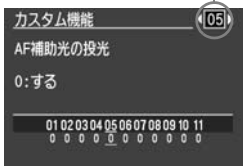
- [**Ƴ1**] タブの [**液晶の自動消灯**] を選び、〈SET〉を押します。[**しない**] を選び、〈SET〉を押します。

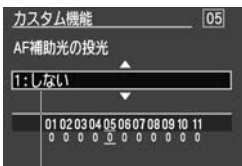
MENU カメラの機能を自分好みに変更する 応用

撮影スタイルに応じて、カメラの機能を細かく変更することができます。これをカスタム機能といいます。カスタム機能は、応用撮影ゾーンで設定／機能します。

MENU カスタム機能の設定方法 応用

1 [カスタム機能 (C.Fn)] を選ぶ

- [**Ƴ2**] タブの [**カスタム機能 (C.Fn)**] を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ カスタム機能設定画面になります。

2 カスタム機能番号を選ぶ

- 〈◀▶〉を押して設定する機能番号を選び、〈SET〉を押します。

設定内容

3 設定を変更する

- 〈▲▼〉を押して希望する設定内容（番号）を選び、〈SET〉を押します。
- 手順2、3を繰り返して、そのほかのカスタム機能を設定します。
- 画面の下に並んでいるカスタム機能番号で、設定状態を確認することができます。

4 設定を終了する

- 〈MENU〉ボタンを押すと、メニューに戻ります。
- シャッターボタンを半押しすると、カスタム機能が設定されていることを示すC.Fnが液晶モニターに表示されます。

カスタム機能の設定をすべて解除するときは

メニュー［**ƳƳ2 設定解除**］で［**カスタム機能一括解除**］を選ぶと、設定したカスタム機能がすべて解除されます。（p.98）

MENU カスタム機能で変更できる内容 応用

C.Fn-1　SETボタン/十字キー機能

よく使う機能を、SETボタンと十字キーに割り当てることができます。

0： SET：ピクチャースタイル

〈SET〉を押すと、液晶モニターにピクチャースタイル選択画面が表示されます。メニュー画面のときは、各種メニュー機能の設定に使用します。

1： SET：記録画質

〈SET〉を押すと、記録画質の設定画面が表示され、迅速に設定の変更を行うことができます。

2： SET：調光補正

〈SET〉を押すと、調光補正の設定画面が表示され、迅速に設定の変更を行うことができます。

3： SET：画像の再生

〈SET〉を押すと、CFカードに記録されている画像が再生されます。〈▶〉ボタンと同じになります。

4：十字キー：AFフレーム選択

シャッターボタンを半押ししたあとに（⏱4）、〈✥〉十字キーで直接AFフレームを選ぶことができます。なお、AFフレーム選択画面は表示されません。図のAFフレーム選択表示を見ながら選びます。

〈⊞〉ボタンを押すと自動選択になります。また、〈SET〉を押すと中央のAFフレームが選択されます。

〈✥〉十字キーに割り当てている ISO 感度などの設定を変えるときは、シャッター速度と絞り数値が表示されてないときにボタンを押します。シャッター速度と絞り数値表示中は、ボタンを押しても設定画面が表示されません。

C.Fn-2　長秒時露光のノイズ低減

シャッター速度1秒以上の撮影で、ノイズの少ないきれいな写真を撮りたいときに設定します。

0： しない

1： 自動

シャッター速度1秒以上で撮影された画像に対し、長秒時露光特有のノイズが検出された場合に自動低減処理を行います。通常は、この［**自動**］で十分な効果が得られます。

2： する

シャッター速度1秒以上で撮影された画像に対し、常に低減処理を行います。［**自動**］で検出／低減できないノイズがあったときに［**する**］で撮影すると、ノイズ低減できることがあります。

撮影後、低減処理のために露光時間と同じ時間が必要となります。この場合、低減処理が終わるまで次の撮影はできません。

C.Fn-3　Av（絞り優先AE）モード時のストロボ同調速度

0：自動

明るさに応じて、シャッター速度が30秒から1/200秒に自動設定されます。

1：1/200秒固定

手ブレを気にせず撮影することができます。

C.Fn-4　シャッターボタン/AEロックボタン

0：AF/AEロック

1：AEロック/AF

ピント合わせと露出決定を別々に行いたいときに有効です。〈✱〉ボタンでAF作動、シャッターボタン半押しでAEロック（露出を固定）することができます。

2：AF/AFロック（AEロックなし）

AIサーボAF中にカメラと主被写体の間を障害物が横切るとき、障害物にピントが合わないよう、〈✱〉ボタンでAFの作動を一時停止することができます。露出は撮影の瞬間に決まります。

3：AE/AF（AEロックなし）

移動／停止を繰り返す被写体の撮影などに有効です。AIサーボAFを設定しておくと、〈✱〉ボタンでAIサーボAFの作動／停止を繰り返すことができます。露出は撮影の瞬間に決まります。ピントと露出を常に最適な状態にして、シャッターチャンスを待つことができます。

C.Fn-5　AF補助光の投光

カメラのAF補助光とEOS用外部ストロボのAF補助光の投光を行うかどうかを設定することができます。

0：する

1：しない

撮影条件にかかわらず、AF補助光の投光を行いません。AF補助光の投光が、ほかの人の撮影を妨げるときなどに有効です。

2：外部ストロボ使用時のみ投光する

EOS用外部ストロボ使用時は、必要に応じて外部ストロボ側からAF補助光の投光を行います。

C.Fn-6　露出設定ステップ

0：1/3段

1：1/2段

　シャッター速度と絞り数値、および露出補正、AEBなどの設定ステップを1/2段ステップにすることができます。1/3段ステップの設定では細かすぎるというときに有効です。

ファインダー内と液晶モニターの露出レベル表示は図のようになります。

C.Fn-7　ミラーアップ撮影

0：しない

1：する

　超望遠レンズを使用した撮影や近接（マクロ）撮影で、ミラーの作動によるカメラブレを防止するのに有効です。

C.Fn-8　E-TTL II 調光方式

0：評価調光

　暗い場所から日中シンクロまでのストロボ撮影を、全自動で行うことができます。

1：平均調光

　外部調光ストロボのような制御を行う上級者向けの設定で、測光領域全体を平均的に調光します。カメラによる自動補正は行われませんので、状況に応じてストロボ調光補正を行ってください。

C.Fn-9　ストロボのシンクロタイミング

0： **先幕シンクロ**

撮影開始直後にストロボが発光します。

1： **後幕シンクロ**

撮影終了直前にストロボが発光します。車のライトなどの軌跡が自然な感じで写ります。

後幕シンクロに設定したときは、シャッターボタンを全押ししたときと、撮影が終了する直前の計2回ストロボが発光します。

C.Fn-10　拡大ズーム表示

0： **再生時のみ**（p.116）

1： **撮影直後と再生時**

撮影直後の画像表示中に拡大表示するときは、〈印刷/転送〉ボタンを押しながら〈拡大〉ボタンを押します。拡大表示になったあとは、〈拡大〉〈縮小〉ボタンだけで拡大／縮小表示ができます。〈▶〉ボタンで再生した画像を拡大表示するときは、〈拡大〉ボタンを押します。

C.Fn-11　電源スイッチ〈ON〉時の液晶点灯

0： **点灯**

電源を入れるとカメラの設定状態を表示します。

1： **電源〈OFF〉時の状態を保持**

〈DISP.〉ボタンを押して、液晶モニターが消えている状態で電源を切ると、次に電源を入れたときに液晶モニターが点灯しません。電池の消耗を少なくしたいときに有効です。なお、〈ISO〉や〈AF〉など、液晶モニターで機能を設定するボタンを押すと、その設定画面が表示されます。また、メニュー操作や再生操作は、通常どおり行うことができます。

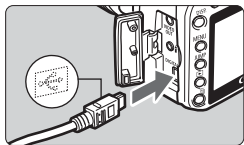
〈DISP.〉ボタンを押して、カメラの設定状態が表示されている状態で電源を切ると、次に電源を入れたときに液晶モニターが点灯します。

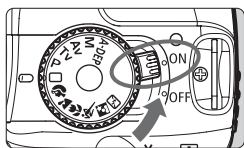
C.Fn-1-4を設定しているときは、ファインダー内の情報表示が消えていることを確認してから〈ISO〉〈AF〉などのボタン操作を行ってください。情報表示中は、ボタンを押しても設定画面が表示されません。

MENU パソコンに画像を送る

カメラとパソコンをつないで、カメラからの操作でCFカードに記録された画像をパソコンに送ることができます。これをダイレクト画像転送機能といいます。

カメラとパソコンをつなぐ前に、必ず付属ソフトウェア（EOS（イオス） Digital（デジタル） Solution（ソリューション） Disk（ディスク）／CD-ROM）をパソコンにインストールしてください。
付属ソフトウェアのインストール方法については、『ソフトウェアガイド』をご覧ください。

画像転送の準備

1 カメラとパソコンを接続する

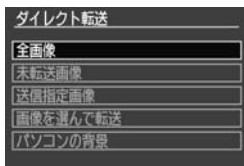
- カメラの電源を切った状態で接続します。
- 接続には、カメラに付属している USB インターフェースケーブルを使います。

2 カメラの電源スイッチを〈ON〉にする

- パソコンに、プログラムを選択する画面が表示されたときは、［**EOS Utility**］を選びます。また、カメラの機種を選択する画面が表示されたときは、このカメラの名称を選びます。
- ➡ パソコンに［**EOS Utility**］の画面が表示され、カメラの液晶モニターに［**ダイレクト転送**］画面が表示されます。

- ダイレクト画像転送画面表示中は、シャッターボタンを半押ししても、撮影準備状態に戻りません。
- ケーブルを取り外すときは、カメラの電源を切ってから、必ずプラグの側面を持って引いてください。

［**EOS Utility**］の画面が表示されないときは、「ソフトウェア使用説明書」（CD-ROM）の『カメラとパソコンを接続してEOS Utilityを起動する』を参照してください。

パソコンに画像を送る

パソコンに送られた画像は、［**マイピクチャ**］フォルダ（Windows）、または［**ピクチャ**］フォルダ（Macintosh）に、撮影日ごとのフォルダに分けられて保存されます。

CFカードに入っている、すべての画像をパソコンに送る

- ［**全画像**］を選んで〈凸〉ボタンを押します。
- ➡〈凸〉ボタンの青いランプが点滅して、画像転送が開始されます。
- ➡ 転送が終わると点灯します。

［**全画像**］以外の項目は、次のようになっています。〈凸〉ボタンを押すと画像転送が開始されます。

- **［未転送画像］**

  パソコンに転送されていない画像を、カメラが自動的に選んで転送します。

- **［送信指定画像］**

  パソコンに送る画像を指定して、まとめて転送します。画像の指定方法は、次のページを参照してください。

- **［画像を選んで転送］**

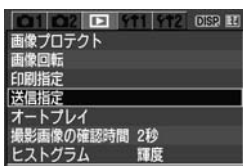
〈◀▶〉を押して、画像を一枚ずつ選んでパソコンに転送します。終了するときは〈MENU〉ボタンを押します。

● ［パソコンの背景］

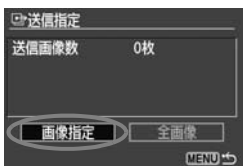
〈◀▶〉を押して画像を選び、転送するとパソコンのデスクトップの背景（壁紙）として表示されます。終了するときは〈MENU〉ボタンを押します。

〈⎙〉ボタンを押す代わりに〈SET〉を押すと、確認画面が表示されます。［OK］を選んで〈SET〉を押すと転送を開始します。

パソコンに送る画像を指定する

パソコンに送る画像を1枚ずつ指定します。

1 ［送信指定］を選ぶ

● ［▶］タブの［**送信指定**］を選び、〈SET〉を押します。

➡ 送信指定画面になります。

2 ［画像指定］を選ぶ

● ［**画像指定**］を選び、〈SET〉を押します。

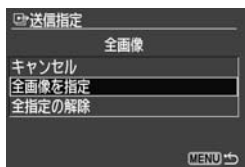
➡ 画像が表示されます。

3 送信指定する画像を選ぶ

● 〈◀▶〉を押して画像を選び、〈▲▼〉を押して画面左上に〈✓〉を表示させます。

● この手順を繰り返して送信する画像を指定します。最大998画像（枚）まで指定できます。

● 〈MENU〉ボタンを2回押すと、指定した内容がCFカードに保存され、メニューに戻ります。

[全画像] について

手順2で［**全画像**］を選ぶと、左の画面が表示されます。［**全画像を指定**］を選び、〈SET〉を押すと、最大998枚の画像を一括して指定します。

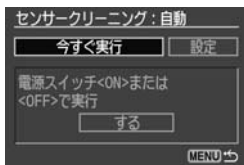
［**全指定の解除**］を選び、〈SET〉を押すと、送信指定がすべて解除されます。

ほかのカメラで送信指定した画像を、このカメラに入れて再度送信指定しないでください。送信指定されている内容が、意図せずにすべて書き換えられることがあります。また、画像の種類により、送信指定できないことがあります。

- 記録画質RAW+JPEGで撮影した画像を送信指定すると、"1枚"としてカウントされますが、RAW画像、JPEG画像ともにパソコンに転送されます。
- 手順3で〈▣·Q〉ボタンを押すと、3画像表示になります。〈Q〉ボタンを押すと、元の表示に戻ります。

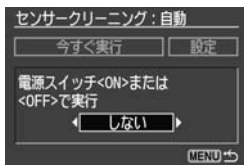
MENU 撮像素子の自動清掃

　このカメラは、電源スイッチを入／切すると、撮像素子前面に付いたゴミを自動的に取り除く、セルフ クリーニング センサー ユニットが働くようになっています。通常はこの機能を意識する必要はありませんが、電源スイッチ入／切以外にも働かせたいときや、このユニットを働かせたくないときは、以下のようにします。

自動清掃を任意に行う

［センサークリーニング：自動］を選ぶ

- ［ﾄ2］タブの［**センサークリーニング：自動**］を選び、〈SET〉を押します。
- ［**今すぐ実行**］が選ばれている状態で〈SET〉を押すと、約1秒間清掃を行いメニューに戻ります。

- 効果的なゴミ除去を行うために、カメラを正位置にして［**今すぐ実行**］を行ってください。
- ［**今すぐ実行**］が灰色の状態で選べないときは、しばらく待つと選ぶことができるようになります。

自動清掃を行わないようにする

- 上記の画面で〈◀▶〉を押して［**設定**］を選び、〈SET〉を押します。
- 〈◀▶〉を押して［**しない**］を選び、〈SET〉を押します。

ゴミやホコリについて、普段から以下のことに注意してください。

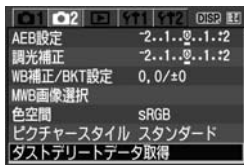
- レンズの交換は、ホコリの少ない場所で素早く行う。
- レンズを外してカメラを保管するときは、ボディキャップを必ず取り付ける。
- ボディキャップは、ゴミやホコリを落としてからカメラに取り付ける。

MENU ゴミ消し情報を付加する 応用

　通常は、セルフ クリーニング センサー ユニットで、写真に写り込む可能性があるほとんどのゴミを除去することができます。しかし、除去できなかったゴミがある場合に備え、ゴミを消すための情報（ダストデリートデータ）を画像に付加することができます。付加された情報は、付属ソフトウェアのDigital Photo Professionalで自動ゴミ消し処理を行うときに使われます。

事前準備

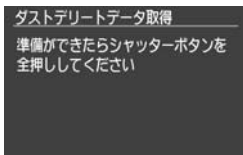
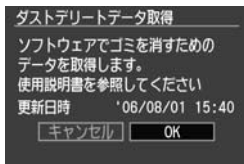
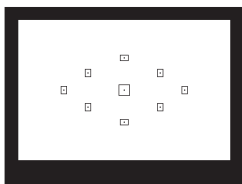
- 白い無地の被写体（白紙など）を用意する。
- レンズの焦点距離を50mm以上にする。
- レンズのフォーカスモードスイッチを〈MF〉にして無限遠（∞）に設定する。距離目盛のないレンズは、正面から見てフォーカスリングを時計方向に突き当たるまで回します。

ダストデリートデータを取得する

1 ［ダストデリートデータ取得］を選ぶ

- ［2］タブの［ダストデリートデータ取得］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ ダストデリートデータ取得画面になります。

ダストデリートデータ取得
ソフトウェアでゴミを消すためのデータを取得します。
使用説明書を参照してください
更新日時　'06/08/01 15:40
キャンセル　OK

2 ［OK］を選ぶ

- ［OK］選び〈SET〉を押すと、撮像素子の自動清掃を行ったあと、説明画面が表示されます。

3 白い無地の被写体を撮影する

- 20～30cmの距離で、白い無地の被写体を画面いっぱいに入れて撮影します。
- ➡ 絞り F22 の絞り優先 AE で撮影されます。
- 画像は保存されませんので、CF カードを入れていなくてもデータの取得ができます。
- ➡ 撮影が終わるとデータの取得を開始し、取得が完了すると、完了画面が表示されます。[OK] 選び〈SET〉を押すと、メニューに戻ります。

ダストデリートデータ取得
データの取得が完了しました
OK

ダストデリートデータについて

ダストデリートデータを取得すると、そのあとで撮影したJPEG、RAW画像すべてにそのデータが付加されます。かんたん撮影ゾーンで撮影した画像にもデータが付加されます。大切な撮影をするときは、撮影の直前にデータの再取得（更新）を行ってください。

なお、付属ソフトウェアによる自動ゴミ消し処理については、ソフトウェア使用説明書（CD-ROM）を参照してください。

画像に付加されるダストデリートデータの容量はごく小さなものですので、画像のファイルサイズにはほとんど影響しません。

MENU「センサークリーニング：手動」について 応用

メニュー［ƳƳ2］タブの［**センサークリーニング：手動**］は、撮像素子の自動清掃で取りきれないゴミやホコリがあったときに、弊社サービス部門などで撮像素子表面を直接清掃するための機能で、通常使う必要はありません。

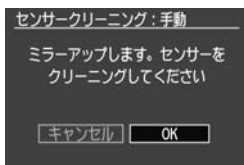
撮像素子は非常にデリケートな部品です。直接清掃が必要なときは、できるだけ別紙の修理受付窓口にお申し付けください。

なお、お客様自身で清掃を行うときは、以下の手順で撮像素子を清掃できる状態にします。

---

1 ［センサークリーニング：手動］を選ぶ

- ［ƳƳ2］タブの［**センサークリーニング：手動**］を選び、〈SET〉を押します。

センサークリーニング：手動
ミラーアップします。センサーをクリーニングしてください
キャンセル　OK

2 ［OK］を選ぶ

- ［OK］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 一瞬の間をおいたあと、ミラーが上がり、シャッターが開いて直接清掃できる状態になります。

3 清掃を終了する

- 電源スイッチを〈OFF〉にします。

- **清掃中は、絶対に次のことを行わないでください。電源が切れてシャッターが閉じ、シャッター幕や撮像素子が損傷するおそれがあります**
  - **・電源スイッチを〈OFF〉にする／CFカードスロットカバーを開ける／電池室ふたを開ける**
- 高圧空気やガスを吹き付けて清掃しないでください。
- 電源には、ACアダプターキット（p.152）の使用をおすすめします。電池を使うときは、必ずフル充電した電池を使ってください。

画像の確認方法

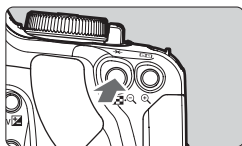
この章では、第2章の『かんたん撮影と画像確認』で説明した再生方法の応用的な使い方や、画像をテレビで見る方法、消去する方法など、撮影画像の再生に関連する内容について説明します。

他の機器で撮影・記録された画像データについて

このカメラ以外の機種で撮影した画像や、パソコンで加工した画像、画像名を変更した画像は、このカメラで再生できないことがあります。

▶ 見たい画像を素早く探す

⊞ 一度に9枚の画像を表示する（インデックス表示）

見たい画像を素早く見つけることができる、インデックス表示といわれる再生方法です。

1 インデックス表示にする

- 画像を再生した状態で、〈⊞·Q〉ボタンを押すとインデックス表示になります。
- ➡ 選択されている画像には、緑色の枠がつきます。

2 画像を選ぶ

- 〈✣〉十字キーを押すと、緑色の枠が上下左右に移動します。
- 〈⊕〉ボタンを押すと、選択した画像の1枚表示になります。

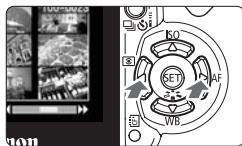
インデックス表示でさらに素早く画像を探す

インデックス表示中の画像を、9枚単位で送って見ることができます。

1 〈JUMP〉ボタンを押す

- ➡ 緑色の枠が9枚全体にかかります。

2 画像を送る

- 〈◀▶〉を押すと、9 枚単位で画像を送ります。

3 画像を選ぶ

- 〈JUMP〉ボタンを押すと緑色の枠が1枚の画像を選択した状態に戻り、〈✣〉十字キーで一枚ずつ選択できるようになります。

JUMP：画像をとばして表示する

CFカードの中に多くの画像があるときは、10枚、100枚単位で、あいだの画像をとばして画像送りをすることができます。また、撮影日の異なる画像があるときは、日付単位で画像送りをすることができます。この表示方法のことを、ジャンプ表示といいます。

1 ジャンプ表示にする

● 画像を再生して〈JUMP〉ボタンを押します。

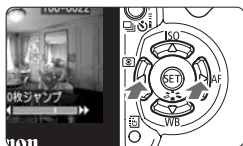
➡ 画面下にジャンプバーが表示されます。

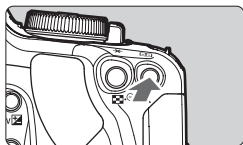
2 ジャンプ方法を選ぶ

● 〈▲▼〉を押して、液晶モニターに表示されるジャンプ方法（**10枚ジャンプ**／**100枚ジャンプ**／**日付ジャンプ**）を選びます。

3 ジャンプで画像送りをする

● 〈◀▶〉を押すと、選択したジャンプ方法で画像送りをします。

● 〈JUMP〉ボタンを押すとジャンプバーが消え、ジャンプが終了します。

〈⊕〉／〈⊖〉 拡大して見る

撮影した画像を約1.5倍～10倍に拡大して、確認を行うことができます。

拡大表示位置

1 画像を拡大する

- 画像を再生した状態で、〈⊕〉ボタンを押すと拡大します。
- 〈⊕〉ボタンを押し続けると、連続的に大きくなります。
- 〈▦·⊖〉ボタンを押すと、縮小表示になります。押し続けると、拡大する前の状態まで連続的に小さくなります。

2 表示位置を移動させる

- 〈✥〉十字キーを押すと、表示位置が上下左右に移動します。
- 〈▶〉ボタンを押すと、拡大表示が終了し、1枚表示になります。

拡大表示の応用機能

拡大表示のまま画像切り換えができる

- 〈ダイヤル〉を回すと、拡大したまま画像切り換えができます。
- 〈JUMP〉ボタンを押して〈◀▶〉を押すと、10 枚単位でジャンプ表示します。

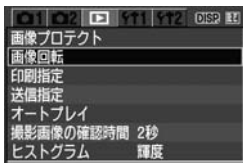
インデックス表示から拡大表示できる

- 〈⊕〉ボタンを押すと1枚表示になり、もう一度押すと拡大表示になります。

撮影直後の画像表示中にも拡大表示できる

- メニュー［**ff2 カスタム機能（C.Fn）**］の［**拡大ズーム表示**］（p.104）を［**1：撮影直後と再生時**］に設定すると、〈🖨∿〉＋〈⊕〉ボタンで拡大表示できるようになります。再生画像は〈⊕〉ボタンで拡大表示します。

MENU 回転させる

撮影したあとで、画像が表示される向きを変えたいときに使用します。

1 ［画像回転］を選ぶ

- ［▶］タブの［**画像回転**］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 画像が表示されます。

2 画像を選ぶ

- 〈◀▶〉を押して回転したい画像を選びます。
- インデックス表示にして画像を選ぶこともできます。

3 画像を回転する

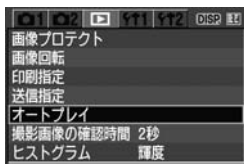
- 〈SET〉を押すたびに、時計方向に回転します。
- ほかに回転したい画像があるときは、手順2、3を繰り返します。
- 〈MENU〉ボタンを押すと、画像回転が終了しメニューに戻ります。

回転させた画像を、再生時に回転表示するには

96ページの［**縦位置画像回転表示**］の設定を、［**する**📷🖥］にすると再生時に回転表示されます。

メニュー［**ƒƒ1 縦位置画像回転表示**］を［**する**📷🖥］(p.96) に設定して撮影すると、この機能で画像を回転する必要がなくなります。

MENU 自動再生する

CFカードに記録されている画像を自動的に連続再生します。画像1枚の表示時間は約4秒です。

1 [オートプレイ] を選ぶ

- [▶] タブの [**オートプレイ**] を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ オートプレイ画面になります。

2 自動再生する

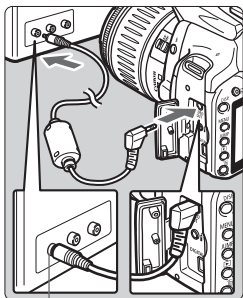
- ➡ [**画像読み込み中...**] が数秒間表示されたあと、自動再生が始まります。
- 自動再生を一時停止したいときは、〈SET〉を押します。
- 一時停止中は画像の左上に [Ⅱ] が表示されます。もう一度〈SET〉を押すと、自動再生を再開します。

3 自動再生を終了する

- 〈MENU〉ボタンを押すと、自動再生が終了しメニューに戻ります。

- 自動再生中に〈DISP.〉ボタンを押すと、画像の表示形式を切り換えることができます。
- 一時停止中に〈◀▶〉を押すと、画像が切り換わります。
- 自動再生中、オートパワーオフは機能しません。
- 画像により、表示時間が異なる場合があります。

テレビで見る

付属のビデオケーブルを使うと、カメラとテレビをつないで撮影した画像を見ることができます。接続するときは、カメラとテレビの電源を切った状態で行ってください。

ビデオ入力端子

1 カメラをテレビに接続する

- カメラの端子カバーを開きます。
- カメラの〈VIDEO OUT〉ビデオ出力端子と、テレビのビデオ入力端子を付属のビデオケーブルで接続します。
- ケーブルのプラグは、根元までしっかりと差し込んでください。

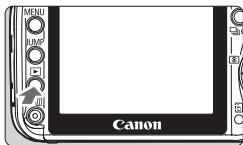
2 テレビの電源を入れ、テレビの入力切り換えをビデオ入力にする

3 カメラの電源スイッチを〈ON〉にする

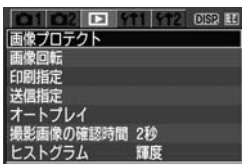
➡ カメラの設定状態がテレビに表示されます。

4 〈▶〉ボタンを押す

➡ 画像がテレビに表示されます（液晶モニターには何も表示されません）。

- 見終わったら、電源スイッチを〈OFF〉にして、テレビの電源を切ってから、ビデオケーブルを取り外します。

- テレビ方式と異なるビデオ出力方式を設定すると、画像が正しく表示されません。そのときは、メニュー［**YT2 ビデオ出力方式**］で方式を切り換えてください。
- カメラに付属しているビデオケーブル以外は使用しないでください。画像が表示されないことがあります。
- 使用するテレビ（モニター）によっては、表示内容の一部が欠けて表示されることがあります。

MENU 保護する（プロテクト）

大切な画像をカメラの消去機能で誤って消さないよう、プロテクトをかける（保護する）ことができます。

1 ［画像プロテクト］を選ぶ

- ［▶］タブの［**画像プロテクト**］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 画像が表示されます。

2 画像を選ぶ

- 〈◀▶〉を押してプロテクトをかける画像を選びます。
- インデックス表示にして画像を選ぶこともできます。

プロテクト表示

3 プロテクトをかける

- 〈SET〉を押すと画面の下に〈⊶〉が表示され、プロテクトがかかります。
- もう一度〈SET〉を押すと、プロテクトが解除され〈⊶〉が消えます。
- ほかにプロテクトをかけたい画像があるときは、手順2、3を繰り返します。
- 〈MENU〉ボタンを押すと、画像プロテクトが終了しメニューに戻ります。

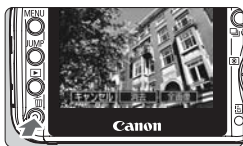
- プロテクトをかけた画像は、カメラの消去機能で消去できません。画像を消去するときは、プロテクトを解除してください。
- 必要な画像にプロテクトをかけてから全画像消去（p.121）を行うと、プロテクトをかけた画像以外はすべて消去されます。不要な画像を一度にまとめて消去するときに便利です。

㐭 消去する

不要な画像を1枚ずつ選んで消去したり、まとめて消去することができます。なお、プロテクト（p.120）をかけた画像は消去されません。

消去した画像は復元できません。十分に確認してから消去してください。また、大切な画像は、誤って消去しないようプロテクトをかけてください。

1 画像を再生する

- 1枚ずつ消去するときは、〈◀▶〉を押して消去する画像を選びます。

2 消去画面にする

- 〈㐭〉ボタンを押します。
- ➡ 画面の下にどのように消去するかが表示されます。

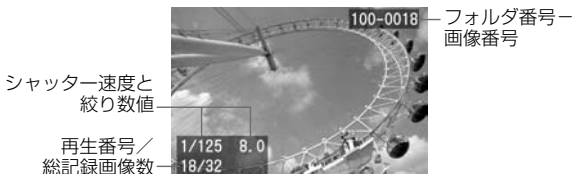
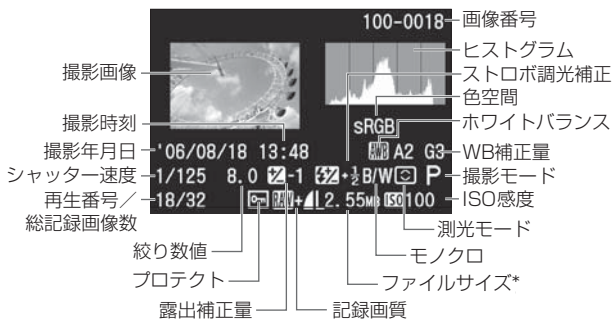
3 消去する

- ［**消去**］を選び〈SET〉を押すと、表示されている画像だけが消去されます。
- ［**全画像**］を選び〈SET〉を押すと、プロテクトされていない画像がすべて消去されます。
- ➡ 表示される確認画面で［**OK**］を選び、〈SET〉を押すと、画像が消去されます。

［**全画像**］の消去中に〈SET〉を押すと、消去作業が途中で中止されます。

撮影情報表示の内容

1枚表示で再生しているときに〈DISP.〉ボタンを押すと、撮影情報の表示を切り換えることができます。その内容は、以下のとおりです。

簡易情報表示

詳細情報表示

* RAW+JPEGのときは、JPEGのファイルサイズを表示します。

● **ハイライト警告表示について**

詳細情報表示にしたときに、白飛びした部分を点滅表示します。階調を再現させたい部分が点滅しているときは、露出をマイナス補正してもう一度撮影すると良い結果が得られます。

インデックス表示、拡大ズーム表示など、1枚表示以外の再生方法でも〈DISP.〉ボタンを押すと、簡易情報表示のあり／なしを切り換えることができます。

● **ヒストグラムについて**

ヒストグラムには、露出レベルの傾向と全体の階調を確認できる輝度表示と、色の飽和と階調を確認できるRGB表示があります。表示の切り換えは、メニュー［▶ **ヒストグラム**］で行います。

なお、ヒストグラムから画像の傾向を読み取り、再撮影に反映させるためには、豊富な知識と経験が必要ですので、ここでは簡単な説明にとどめます。

ヒストグラム例

暗い成分が多いとき

普通の明るさのとき

明るい成分が多いとき

［輝度］表示

このヒストグラムは、横軸に明るさ（左：暗、右：明）、縦軸に明るさごとの画素数を積み上げたグラフで、画像の輝度分布を表しています。

画面の中の「暗い成分」ほどグラフの左寄りに積み上げられ、「明るい成分」ほどグラフの右寄りに積み上げられて表示されます。

横軸の左端に積み上げられた成分は黒くつぶれ、右端に積み上げられた成分は白く飛びます（ハイライト）。そのほかの成分は階調が再現されます。

再生画像とそのヒストグラムを見ることで、露出レベルの傾向と全体の階調を確認することができます。

［RGB］表示

このヒストグラムは、横軸に色の明るさ（左：暗、右：明）、縦軸に色の明るさごとの画素数を積み上げたグラフで、R（赤）／G（緑）／B（青）別に色の輝度分布を表しています。画面の中の「暗く薄い色」ほどグラフの左寄りに積み上げられ、「明るく濃い色」ほどグラフの右寄りに積み上げられます。横軸の左端に積み上げられた成分は色の情報がなく、右端に積み上げられた色は飽和して階調がありません。

RGBのヒストグラムを見ることで、色の飽和と階調の状態や、ホワイトバランスの傾向を確認することができます。

7

カメラとプリンターをつないで印刷する

このカメラは、「PictBridge」対応プリンターのほか、「CPダイレクト」、「Bubble Jet」対応プリンターに直接つないで画像を印刷することができます。

また、印刷する画像をまとめて指定（DPOF）することもできます。（p.142）

DPOF（印刷指定）について

DPOF（Digital Print Order Format）は、印刷したい画像とその枚数などの印刷指定情報をCFカードに記録するための規格です。複数の画像をまとめて一度に印刷したいときや、指定した画像の印刷を写真店に注文する際に使います。

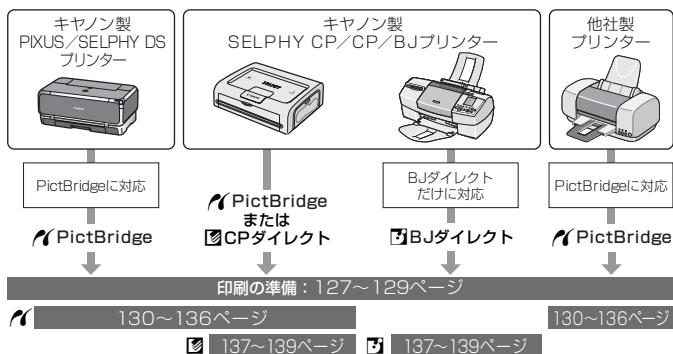
弊社PictBridgeホームページについて

キヤノン製のカメラとプリンターを接続したときに、どのような用紙が使用できるかなどを、下記の弊社ホームページで確認することができます。

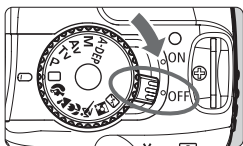
http://canon.jp/pictbridge/

本章の説明内容について

この章では、下の図で示すように、プリンターの種類別に説明内容を分けています。『印刷の準備をする』（次ページ）の操作を行うと、お使いのプリンターにあったダイレクトプリントの説明が何ページにあるか、より詳しくわかります。

なお本章では、Bubble JetダイレクトをBJダイレクトと表記しています。

印刷の準備をする

ダイレクトプリントの操作は、カメラの液晶モニターに表示される操作画面を見ながら、**すべてカメラ側で行います。**

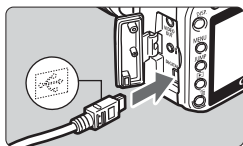
カメラとプリンターの接続

1 カメラの電源スイッチを〈OFF〉にする

2 プリンターの準備をする

● 詳しくは使用するプリンターの使用説明書を参照してください。

3 カメラとプリンターを接続する

● 表を参照して、使用するケーブルを選んでください。

接続するプリンター	使用するケーブル
PictBridgeだけに対応	**カメラに付属のインターフェースケーブル** 両方のプラグに〈USB〉マークが付いています
PictBridgeと**CPダイレクト**に対応	
PictBridgeと**BJダイレクト**に対応	
CPダイレクトだけに対応	**プリンターに付属のケーブル** 片方のプラグだけに〈USB〉マークが付いています
BJダイレクトだけに対応	

- カメラ側を接続するときはプラグの〈 〉マークが、カメラの前面に向くようにして、カメラの〈**DIGITAL**〉端子に差し込みます。
- プリンター側の接続方法については、プリンターの使用説明書を参照してください。

4 プリンターの電源を入れる

5 カメラの電源スイッチを〈ON〉にする

➡ プリンターの機種により、電子音が「ピピッ」と鳴ることがあります。

PictBridge

CPダイレクト

BJダイレクト

6 画像を再生する

- 〈▶〉ボタンを押します。

➡ 画像が表示され、画面左上にプリンターと接続されていることを示すマーク〈 〉、または〈 〉、〈 〉が表示されます。

➡ 〈 〉ボタンのランプが青色に点灯します。

- 表示されるマークによって、操作方法が異なります。表示されるマークに応じたページを参照してください。

マーク	参照ページ
(PictBridge)	130〜136、141
(CPダイレクト)	137〜139、141
(BJダイレクト)	

- RAW画像は、ダイレクトプリントできません。
- カメラの電源に電池を使用するときは、フル充電してから使用してください。フル充電で約4時間印刷できます。
- 手順5で電子音が「ピーピーピー」と長く鳴ったときは、PictBridge対応プリンターに問題が発生しています。どのような問題が発生しているかは、次の操作で確認できます。
  〈▶〉ボタンを押して画像を再生し、次の操作を行ってください。
  1.〈SET〉を押す
  2. 印刷設定画面で［**印刷**］を選ぶ
  液晶モニターにエラーメッセージが表示されます。(p.136)
- カメラとプリンターの接続には、専用のインターフェースケーブル以外は使用しないでください。
- 印刷開始後、〈⎙〜〉ボタンの青いランプが点滅している間はケーブルを抜かないでください。
- ケーブルを取り外すときは、カメラとプリンターの電源を切ってから、必ずプラグの側面を持って引いてください。

ダイレクトプリントを行うときは、カメラの電源にACアダプターキット ACK-DC20（別売）の使用をおすすめします。

PictBridgeで印刷

使用するプリンターによって設定できる内容が異なります。また、設定そのものができないことがあります。詳しくは、使用するプリンターの使用説明書を参照してください。

プリンター接続表示

1 印刷する画像を選ぶ

- 液晶モニターの左上に〈 〉が表示されていることを確認します。
- 〈◀▶〉を押して印刷する画像を選びます。

2 〈SET〉を押す

➡ 印刷設定画面になります。

印刷設定画面

- 印刷効果を設定します
- 日付や画像番号を入れて印刷するかどうかを設定します
- 何枚印刷するかを設定します
- 印刷範囲を設定します
- 用紙のサイズ、タイプとレイアウトを設定します
- 手順1の画面に戻ります
- 印刷を開始します

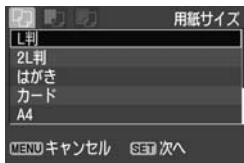
設定されている用紙のサイズ、タイプ、レイアウトの情報が表示されます

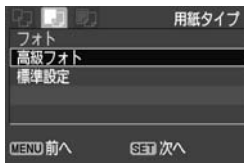
＊使用するプリンターの機種により、日付／画像番号印刷やトリミングなど、一部の設定項目が選択できないことがあります。

3 ［用紙設定］を選ぶ

- ［**用紙設定**］を選び、〈SET〉を押します。

➡ 用紙設定画面になります。

用紙サイズの設定

● プリンターにセットされている用紙のサイズを選び、〈SET〉を押します。
➡ 用紙タイプの設定画面になります。

用紙タイプの設定

● プリンターにセットされている用紙のタイプを選び、〈SET〉を押します。
➡ レイアウトの設定画面になります。

用紙タイプについて

　キヤノン製プリンターで、キヤノン純正用紙を使うときは、プリンターの使用説明書で使用できる用紙を確認してください。

レイアウトの設定

● 印刷レイアウトを選び、〈SET〉を押します。
➡ 印刷設定画面に戻ります。

フチなし	余白なしで用紙いっぱいに印刷します。「フチなし」印刷できないプリンターでは、「フチあり」で印刷されます。
フチあり	用紙のまわりに余白をつけて印刷します。
フチあり	Lサイズ以上の用紙の余白に撮影情報*を印刷します。
xx面配置	用紙1枚に画像を小さく、2/4/8/9/16/20画面印刷します。
20面配置 **35面配置**	DPOFで印刷指定した画像を20画像、または35画像単位で、A4サイズの用紙に縮小印刷します。 ［**20面配置**］では、画像の横に撮影情報*、画像の下に画像番号と日付**を印刷します。 ［**35面配置**］では、画像の下に画像番号、日付**を印刷します。
標準設定	キヤノン製プリンターでは、「フチなし」で印刷されます。

* Exif 情報の中から、カメラ名、レンズ名、撮影モード、シャッター速度、絞り数値、露出補正量、ISO感度、ホワイトバランスなどを印刷します。

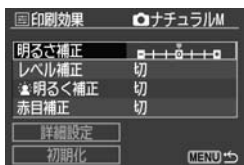
**手順5（p.135）の〈〉日付／画像番号印刷の設定によります。

4 印刷効果を設定する

- 必要に応じて設定します。設定しないときは、135ページの手順5に進みます。
- 画面右上の項目を選び、〈SET〉を押します。
- 続けて〈◀▶〉を押して印刷効果を選び、〈SET〉を押します。

切	印刷特性は「入」と同じです。自動補正は行われません。
入	プリンターの標準色で印刷されます。画像のExif情報を活用して、自動的に補正が行われます。
VIVID	海や空の青、植物の緑などが、いっそう色鮮やかに印刷されます。
B/W白黒	純黒調の白黒で印刷されます。
B/W冷黒調	クールな印象の青っぽい（冷黒調）白黒で印刷されます。
B/W温黒調	温かい印象の黄色っぽい（温黒調）白黒で印刷されます。
ナチュラル	自動色調整を行わず、画像の色やコントラストを生かした印刷が行われます。
ナチュラルM	印刷特性は「ナチュラル」と同じです。「ナチュラル」よりも細かい印刷調整を行うことができます。

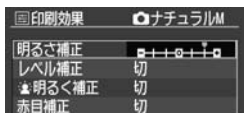
プリンターの機種により表示されない項目があります。

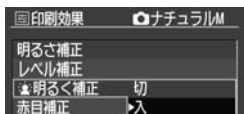
印刷効果の調整

- 手順4で項目を選び、左図の JUMP が表示されている状態で〈JUMP〉ボタンを押すと、細かい印刷調整を行うことができます。
  選択した印刷効果で調整できる内容は下表の通りです。
- 調整する項目を選び、〈SET〉を押します。

（○：調整可能）

<table>
<tr><th colspan="2">項目</th><th>切/入/VIVID/ナチュラル</th><th>ナチュラルM</th><th>白黒/冷黒調/温黒調</th></tr>
<tr><td colspan="2">明るさ補正</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr>
<tr><td colspan="2">レベル補正</td><td>—</td><td>○</td><td>○</td></tr>
<tr><td colspan="2">（顔）明るく補正</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr>
<tr><td colspan="2">赤目補正</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td></tr>
<tr><td rowspan="4">詳細設定</td><td>コントラスト</td><td rowspan="4">—</td><td>○</td><td>○</td></tr>
<tr><td>色の濃さ</td><td>○</td><td rowspan="3">—</td></tr>
<tr><td>色あい</td><td>○</td></tr>
<tr><td>カラーバランス</td><td>○</td></tr>
</table>

印刷効果の細かい調整を行ったあと、もう一度手順４で印刷効果の設定を変更すると、調整を行った内容がすべて初期化され、調整なしの状態になります。

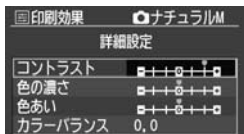
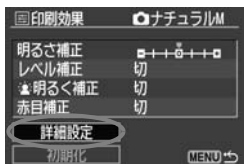
［**標準設定**］を選択したときは調整できません。

[明るさ補正]

- 〈◀▶〉を押して補正量を設定し、〈SET〉を押します。

[レベル補正]

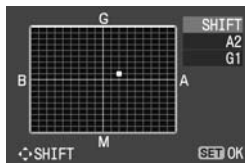
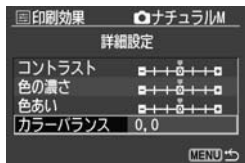
- 項目を選び、〈SET〉を押します。
- [**手動**] を選び、〈SET〉を押すと、レベル補正画面になります。
- 〈◀▶〉を押してシャドウ（黒）のレベル（0～127）を設定します。
- 〈JUMP〉ボタンを押します。
- 〈◀▶〉を押してハイライト（白）のレベル（128～255）を設定します。
- 〈SET〉を押すと設定が終了し、1 つ前の画面に戻ります。

[明るく補正] [赤目補正]

- [**切**] または [**入**] を選び、〈SET〉を押します。

印刷効果の細かい設定

- [**詳細設定**] を選び、〈SET〉を押すと、詳細設定画面になります。
- 設定する項目を選び、〈SET〉を押します。

[コントラスト] [色の濃さ] [色あい]

- 〈◀▶〉を押してレベルを設定し、〈SET〉を押します。

[カラーバランス]

- 〈✣〉十字キーを上下左右方向に操作して、画面上の「■」を希望する位置に移動します。
- Bはブルー、Aはアンバー、Mはマゼンタ、Gはグリーンの意味です。移動方向寄りの色に補正されます。
- 画面右上の「**SHIFT**」に補正方向と、補正量が表示されます。
- 〈SET〉を押すと設定が終了し、1 つ前の画面に戻ります。

- 印刷効果の設定が終了したら、〈MENU〉ボタンを押して手順5に進みます。

5 日付／画像番号印刷を設定する

- 必要に応じて設定します。
- 〈⊙〉を選びます。
- 〈◀▶〉を押して印刷内容を選びます。

6 印刷枚数を設定する

- 必要に応じて設定します。
- 〈⧉〉を選びます。
- 〈◀▶〉を押して印刷枚数を選びます。

- トリミングについては、140 ページを参照してください。

7 印刷する

- ［**印刷**］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡〈ボタン〉ボタンの青いランプが点滅して、印刷が開始されます。
- 印刷が終了すると、手順1の状態に戻ります。
- 印刷を中止するときは、［**中止**］が表示されている間に〈SET〉を押し、［**OK**］を選んで〈SET〉を押します。

プリンターエラー発生時の操作について

プリンターに関するエラー（インク切れ、用紙切れなど）を解決したあと、［**続行**］を選んでも印刷が再開されないときは、プリンター側を操作して印刷を再開してください。印刷の再開方法については、プリンターの使用説明書を参照してください。

エラーメッセージについて

印刷中に問題が発生したときは、カメラの液晶モニターにエラーメッセージが表示されます。〈SET〉を押して印刷を中止し、問題を解決してから再度印刷してください。プリンターの問題解決方法については、プリンターの使用説明書を参照してください。

用紙エラー

プリンターの用紙が正しくセットされているかどうか確認してください。

インクエラー

プリンターのインク残量や、インク吸収体の状態を確認してください。

ハードウェアエラー

用紙、インク以外の問題がプリンターに発生していないか確認してください。

ファイルエラー

選択した画像はPictBridgeで印刷できません。別のカメラで撮影した画像や、パソコンに取り込んで加工した画像は、印刷できないことがあります。

- 印刷する画像のファイルサイズや記録画質により、［**印刷**］を選んでから実際に印刷が始まるまで、しばらく時間がかかることがあります。
- 印刷効果などの選択肢にある［**標準設定**］は、プリンターメーカーが独自に設定する印刷内容のことです。［**標準設定**］の内容については、プリンターの使用説明書を参照してください。

〈〉/〈〉 CP、BJダイレクトで印刷

プリンター接続表示

1 **印刷する画像を選ぶ**

- 液晶モニターの左上に〈〉、または〈〉が表示されていることを確認します。
- 〈◀▶〉を押して印刷する画像を選びます。

2 **〈SET〉を押す**

➡ 印刷設定画面になります。

印刷設定画面

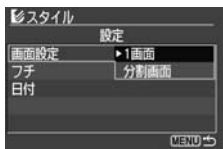
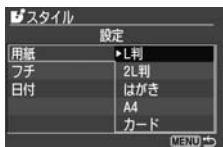
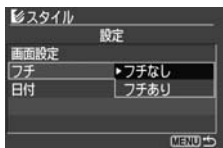
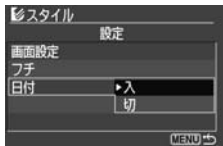
何枚印刷するかを設定します
印刷範囲を設定します
印刷スタイル（様式）を設定します
手順1の画面に戻ります
印刷を開始します

設定されている印刷スタイルが表示されます。
〈〉は日付のマークです

3 **［スタイル］を選ぶ**

- ［**スタイル**］を選び、〈SET〉を押します。

➡ スタイル設定画面になります。

［画面設定］（CPダイレクト）

［用紙］（BJダイレクト）

［フチ］

［日付］

4 項目の内容を設定する

- 項目を選び、〈SET〉を押します。
- 続けて内容を選び、〈SET〉を押します。
- ［**画面設定**］（CPダイレクト）は、カードサイズの用紙使用時に選択できるようになります。［**分割画面**］を選ぶと、用紙1枚に同じ画像を小さく8画面印刷します。
- ［**用紙**］（BJダイレクト）は、プリンターにセットされている用紙のサイズを選びます。

- ［**フチ**］［**日付**］は、設定状態を確認し、必要に応じて設定します。
- 設定が終わったら、〈MENU〉ボタンを押して印刷設定画面に戻ります。

5 印刷枚数を設定する

- 必要に応じて設定します。
- 〈⎙〉を選びます。
- 続けて〈◀▶〉を押して印刷枚数を設定し、〈SET〉を押します。
- 1～99枚まで設定できます。

6 トリミングの設定をする

- 必要に応じて設定します。
- トリミングについては、140 ページを参照してください。

7 印刷する

- ［**印刷**］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡〈〉ボタンの青いランプが点滅して、印刷が開始されます。
- 印刷が終了すると、手順1の状態に戻ります。
- 印刷を中止するときは、［**中止**］が表示されている間に〈SET〉を押し、［**OK**］を選んで〈SET〉を押します。

- CPダイレクトでは、日付の背景が明るいときや、背景がフチのときは、日付が薄く印刷されることがあります。
- CPダイレクトでは、［**分割画面**］を選ぶと、［**フチ**］［**日付**］の設定はできません。［**フチなし**］、［**日付**］は［**切**］で印刷されます。また、画像の上下左右がカットされて印刷されます。
- BJ ダイレクトでは、［**フチあり**］にすると、プリンターの機種により、日付がフチにかかることがあります。

- CPダイレクトでは、印刷中に［**中止**］を選んだ場合、印刷枚数が1枚のときは印刷を中止できません。2枚以上のときは次の印刷から中止されます。
- 印刷中に問題が発生したときは、カメラの液晶モニターにエラーメッセージが表示されます。

トリミング（印刷範囲）の設定

画面を部分的に拡大したり、構図を変えたような感じで印刷することができます。

トリミングの設定は、印刷する直前に行ってください。トリミングを行ったあとで印刷設定の内容を変更すると、トリミングの再設定が必要になることがあります。

1 ［トリミング］を選ぶ

- ［**トリミング**］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ トリミング画面になります。

2 トリミングする

- トリミング枠の内側が印刷される範囲です。
- 操作案内表示は、トリミング操作中は表示されません。操作をやめて約5秒経過すると再表示します。

枠の大きさを変える

- 〈⊕〉、〈▣・⊖〉ボタンを押すと、トリミング枠の大きさが変わります。枠を小さくするほど拡大して印刷されます。

枠を移動する

- 〈✥〉十字キーを操作するとトリミング枠が上下左右に移動します。好みの構図になるように枠を移動します。

枠を回転する

- 〈DISP.〉ボタンを押すと、押すたびにトリミング枠が縦長、横長に変わります。横位置で撮影した画像を、縦位置で撮影したように印刷することもできます。

3 設定を終了する

- 〈SET〉を押します。
- ➡ 印刷設定画面に戻ります。
- ➡ 画面左上で印刷範囲を確認することができます。

- プリンターの機種により、トリミング枠のとおりに印刷されないことがあります。
- トリミング枠を小さくするほど印刷の画質が粗くなります。印刷の画質が粗くなるときに、トリミング枠が赤く表示されます。
- トリミングは、カメラの液晶モニターを見ながら行ってください。画像をテレビに表示しながらトリミングすると、トリミング枠が正しく表示されないことがあります。

トリミング枠の形状は、［**用紙設定**］、［**画面設定**］／［**用紙**］、［**レイアウト**］／［**フチ**］の設定で変わります。

かんたん印刷

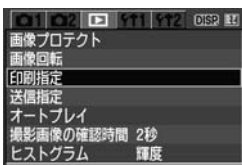
お使いのプリンターでダイレクトプリントを行うと、その設定がカメラに記憶されます。同じ設定で印刷するときは、以下の手順で「かんたん印刷」を行うことができます。

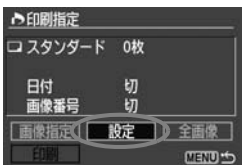
- 画像を選んで、青いランプが点灯した〈プリント/シェア〉ボタンを押します。
- 印刷が開始されます。

- 1回の操作で1枚ずつしか印刷できません。
- トリミングの設定は反映されません。

MENU 画像を印刷指定する

印刷内容の設定

印刷タイプや日付、画像番号の入／切といった印刷内容の設定を行います。この設定は、印刷指定したすべての画像に対して、一律に適用されます（1画像ごとに別々の設定はできません）。

1 ［印刷指定］を選ぶ

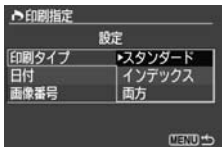
- ［▶］タブの［**印刷指定**］を選び、〈SET〉を押します。

➡ 印刷指定画面になります。

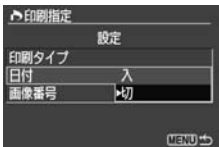
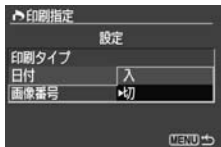
2 ［設定］を選ぶ

- 〈◀▶〉を押して［**設定**］を選び、〈SET〉を押します。

➡ 印刷設定画面になります。

3 項目の内容を設定する

- ［**印刷タイプ**］［**日付**］［**画像番号**］の内容を設定します。
- 項目を選び、〈SET〉を押します。
- 続けて内容を選び、〈SET〉を押します。

［**印刷タイプ**］

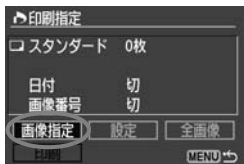
［**日付**］

［**画像番号**］

<table>
<tr><td rowspan="3">印刷タイプ</td><td>●</td><td>スタンダード</td><td colspan="2">用紙1枚に1画像を印刷します。</td></tr>
<tr><td>●</td><td>インデックス</td><td colspan="2">用紙1枚に縮小画像を複数印刷します。</td></tr>
<tr><td>●
●</td><td>両方</td><td colspan="2">スタンダードとインデックスの両方を印刷します。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">日付</td><td colspan="2">入</td><td colspan="2" rowspan="2">［入］にすると、画像に記録されている日付情報を入れて印刷します。</td></tr>
<tr><td colspan="2">切</td></tr>
<tr><td rowspan="2">画像番号</td><td colspan="2">入</td><td colspan="2" rowspan="2">［入］にすると、画像番号を付けて印刷します。</td></tr>
<tr><td colspan="2">切</td></tr>
</table>

4 設定を終了する

- 〈MENU〉ボタンを押します。
- ➡ 印刷指定画面に戻ります。

- 次に印刷指定画面の［**画像指定**］［**全画像**］で、印刷する画像を指定します。

- RAW画像は印刷指定できません。
- ［**日付**］［**画像番号**］を［**入**］にしても、印刷タイプの設定や、プリンターの機種により、印刷されないことがあります。
- ［**インデックス**］では、［**日付**］と［**画像番号**］を同時に［**入**］にできません。
- 印刷するときは、印刷指定を行ったCFカードを使用してください。画像データだけをCFカードから抜き出して印刷すると、指定した内容で印刷できません。
- DPOF 対応プリンターの機種や、写真店の機器により、指定内容が反映されないことがあります。プリンターの場合は、プリンターの使用説明書を参照してください。写真店の場合は、事前にお店に確認してください。
- ほかのカメラで印刷指定した画像を、このカメラに入れて再度印刷指定しないでください。印刷指定されている内容が、意図せずにすべて書き換えられることがあります。また、画像の種類により、印刷指定できないことがあります。

1画像ずつ指定

1 ［画像指定］を選ぶ

- 〈◀▶〉を押して［**画像指定**］を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 画像指定画面になります。

2 印刷指定する画像を選ぶ

- 〈◀▶〉を押して画像を選びます。
- 〈⊡·Q〉ボタンを押すと、3画像表示になります。〈⊕〉ボタンを押すと、元の表示に戻ります。

3画像表示

3 印刷の指定をする

- ［**印刷タイプ**］（p.142）の設定状態によって、指定の内容が変わります。

［スタンダード］［両方］の場合

- 画像ごとにスタンダードタイプの印刷枚数を最大99枚まで設定できます。
- 〈▲▼〉を押して印刷枚数を選びます。

[インデックス]

[インデックス] の場合

- インデックス印刷に加える(〈✓〉表示)／加えない(〈✓〉なし)を設定します。
- 〈▲▼〉を押すたびに〈✓〉がついたり消えたりします。
- ほかに指定したい画像があるときは、手順2、3を繰り返します。
- 合計998画像まで指定できます。

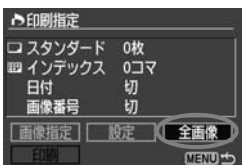
4 設定を終了する

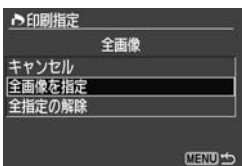
- 〈MENU〉ボタンを押します。
- ➡ 印刷指定画面に戻ります。

- もう一度〈MENU〉ボタンを押すと、指定した内容がCFカードに保存され、メニューに戻ります。

全画像指定

CFカードに記録されている全画像の印刷指定と解除ができます。スタンダードタイプの印刷枚数は、すべて1画像1枚になります。

「1画像ずつ指定」の操作をしたあとで「全画像指定」の操作を行うと、全画像指定の設定に変わりますので、注意してください。

1 [全画像] を選ぶ

- 〈◀▶〉を押して [**全画像**] を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 全画像指定画面になります。

2 [全画像を指定] を選ぶ

- [**全画像を指定**] を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ すべての画像が1枚ずつ印刷指定され、印刷指定画面に戻ります。
- [**全指定の解除**] を選ぶと、印刷指定を行った内容がすべて解除されます。

3 設定を終了する

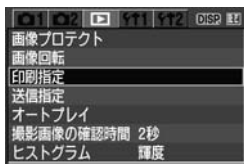
- 印刷指定画面で〈MENU〉ボタンを押します。
- ➡ 指定した内容がCFカードに保存され、メニューに戻ります。

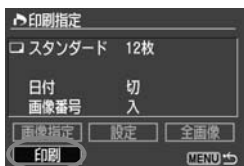
- 全画像指定をしても、RAW画像は印刷指定されません。
- PictBridgeで印刷するときは、一度に印刷指定する画像の数を、400画像以下にしてください。それ以上指定すると、すべての画像を印刷できないことがあります。

MENU 印刷指定画像のダイレクトプリント

DPOFで印刷指定した画像を、ダイレクトプリント対応のプリンターで簡単に印刷することができます。

1 印刷の準備をする

● 127, 128ページを参照してください。『カメラとプリンターの接続』の手順5まで行います。

2 ［印刷指定］を選ぶ

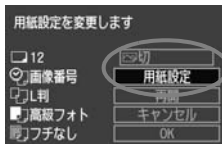
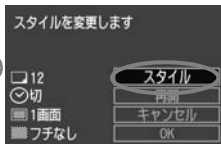
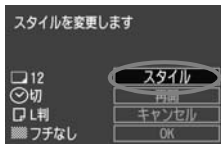
● ［▶］タブの［**印刷指定**］を選び、〈SET〉を押します。

➡ 印刷指定画面になります。

3 ［印刷］を選ぶ

● 〈✥〉十字キーを押して［**印刷**］を選び、〈SET〉を押します。

● ［**印刷**］は、カメラとプリンターが接続され、印刷できる状態になっていないと表示されません。

➡ 印刷設定画面になります。

4 印刷内容を設定する

CPダイレクト　　BJダイレクト

PictBridge

● ［**用紙設定**］と必要に応じて印刷効果を設定します。（p.130、132）

CP ダイレクト／ BJ ダイレクト

● ［スタイル］を設定します。（p.137）

5 印刷する

● ［OK］を選び、〈SET〉を押します。

➡ 印刷が開始されます。

● 印刷を中止するときは、［中止］が表示されている間に〈SET〉を押し、［OK］を選んで〈SET〉を押します。

● PictBridge、BJダイレクトで印刷するときは、必ず用紙サイズの設定を行ってください。
● PictBridgeでは、プリンターの機種により、画像番号が印刷できないことがあります。
● ［フチあり］にすると、プリンターの機種により、日付がフチにかかることがあります。
● 日付の背景が明るいときや、背景がフチのときは、プリンターの機種により、日付が薄く印刷されることがあります。
● ［レベル補正］の［手動］（p.134）は選択できません。

● CPダイレクトで［印刷タイプ］が［インデックス］のとき、用紙 1 枚に印刷される画像数は以下のとおりです。
　・クレジットカードサイズ：20画像　　・L サイズ：42画像
　・ポストカードサイズ：63画像
　BJダイレクトで印刷したときの画像数については、BJプリンターの使用説明書を参照してください。
● 印刷を中止したあとに、残りの画像を印刷するときは、［再開］を選びます。ただし次のときは、印刷の再開はできません。
　・再開する前に印刷指定を変更した場合
　・再開する前に印刷指定した画像を削除した場合
　・CP ダイレクトでインデックス設定時、再開する前に用紙カセットを変更した場合
　・PictBridgeでインデックス設定時、再開する前に用紙設定を変更した場合
　・印刷を中断したときに、CFカードの空き容量が少なかった場合
● 印刷中に問題が発生したときは、PictBridge：136ページ、CPダイレクト：139ページ、BJダイレクト：139ページを参照してください。

8

資料

撮影の参考になるカメラの機能情報、システムアクセサリーの紹介などを行っています。また、章の最後には索引を設け、知りたいことが見つけやすいようにしています。

外部ストロボの使用について

EOS用EXシリーズスピードライト

基本操作は内蔵ストロボ撮影同様、簡単です。

EXシリーズスピードライトをこのカメラに装着したとき、ストロボ撮影の自動調光制御のほぼすべては、このカメラによって行われます。つまり、「内蔵ストロボの代わりに大光量ストロボが外付けされたもの」とお考えください。操作方法については、EXシリーズスピードライトの使用説明書を参照してください。なお、このカメラは、EXシリーズスピードライトの全機能が使用できるAタイプカメラに属しています。

クリップオンタイプストロボ

マクロストロボ

EXシリーズ以外のキヤノン製スピードライト

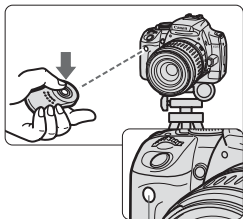
EZ/E/EG/ML/TLスピードライトを、TTLまたはA-TTL自動調光モードに設定して撮影すると発光しません。マニュアル発光機能を持つスピードライトは、マニュアル発光モードで撮影してください。

キヤノン製以外のスピードライト

小型の汎用ストロボは1/200秒以下のシャッター速度で同調します。あらかじめストロボが正しく同調するかどうかテスト撮影してから使用してください。

- 他社製の特定のカメラ専用のストロボ、およびストロボ用付属品を使用すると、カメラが正常な機能を発揮しないばかりでなく、故障の原因となります。
- 高圧ストロボをアクセサリーシューに取り付けて使用しないでください。発光しないことがあります。

ワイヤレスリモコン撮影

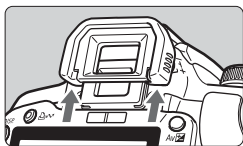
リモートコントローラー RC-1／RC-5（別売）を使用すると、カメラの正面から約5m離れて撮影することができます。あらかじめセルフタイマー撮影の手順1、2（p.47）の操作を行っておきます。

リモコン受信部

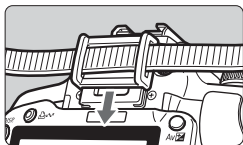
撮影する

- リモコンの送信部をカメラのリモコン受信部に向けて送信ボタンを押します。
- ⇒ AFによるピント合わせが行われます。
- ⇒ ピントが合うと、セルフタイマーランプが点灯して撮影されます。

蛍光灯が近くにあると、蛍光灯の影響でカメラが誤作動することがあります。できるだけカメラを蛍光灯から離してください。

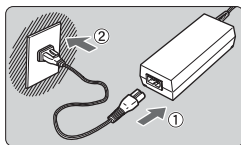
アイピースカバーを併用する

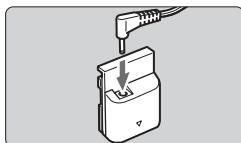
ファインダーをのぞかずに撮影すると、ファインダーから入った光の影響で暗い写真になることがあります。このようなときは、ストラップに付いているアイピースカバーを使います。

1 アイカップを取り外す

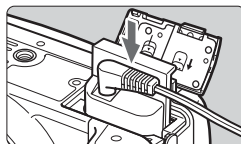
- アイカップの下側を押して取り外します。

2 アイピースカバーを取り付ける

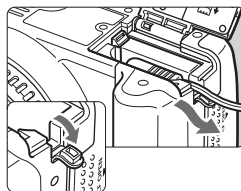
- ファインダー接眼部の溝に沿って、アイピースカバーを取り付けます。

家庭用電源を使用する

ACアダプターキットACK-DC20（別売）を使うと、家庭用電源を使用して電池の残量を気にせずにカメラを使うことができます。

1 電源コードを接続する

- 電源コードを図のように差し込みます。
- 使い終わったら、プラグをコンセントから抜いてください。

2 DCカプラーDR-700を接続する

- DCカプラーDR-700にコードのプラグを差し込みます。
- DCカプラーDR-20は、このカメラでは使用できません。

3 DCカプラーを入れる

- ふたを開け、DCカプラーをロック位置までしっかりと入れます。

4 DCコードを通す

- DC コード通し部のカバーを開き、図のようにコードを通します。
- ふたを閉じます。

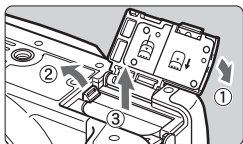
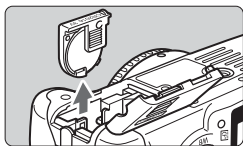
カメラの電源スイッチを〈ON〉にしたまま、電源コードの抜き差しを行わないでください。

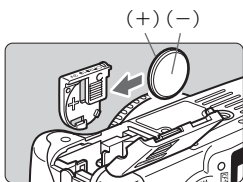
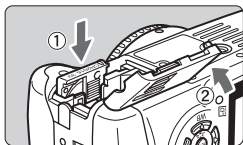
日付／時計機能用電池を交換する

日付/時計機能用電池（バックアップ電池）の電池寿命は約5年です。電池を交換したときに、日付/時刻のメッセージが表示されるようになったら、次の手順で新しいCR2016リチウム電池に交換してください。

日付/時刻が初期化されますので、必ず再設定してください。

1 電源スイッチを〈OFF〉にする

2 ふたを開けて電池を取り出す

3 電池ホルダーを取り外す

4 電池を入れ換える

● ＋－を正しく合わせて入れます。

5 ホルダーを入れてふたを閉める

日付/時計機能用電池は、必ずCR2016リチウム電池を使用してください。

メニュー機能一覧

〈1〉撮影系1（赤） 参照頁

記録画質	L／L／M／M／S／S／RAW+L／RAW	58
赤目緩和機能	切／入	53
電子音	入／切	92
カードなしレリーズ	する／しない	92

〈2〉撮影系2（赤）

AEB設定	1/3段ステップ、±2段	74
調光補正	1/3段ステップ、±2段	73
WB補正/BKT設定	WB補正：B/A/M/G寄り各色9段 WB-BKT：B/A、M/G方向1段ステップ±3段	86 87
MWB画像選択	ホワイトバランスの手動設定	84
色空間	sRGB／Adobe RGB	81
ピクチャースタイル	スタンダード／ポートレート／風景 ニュートラル／忠実設定／モノクロ ユーザー設定1～3	61 76 79
ダストデリートデータ取得	付属ソフトウェアでゴミ消し処理するためのデータを取得	110

〈▶〉再生系（青）

画像プロテクト	画像の保護	120
画像回転	画像の縦横回転	117
印刷指定	印刷する画像を指定（DPOF）	142 147
送信指定	パソコンに送信する画像を指定	105
オートプレイ	画像の自動再生	118
撮影画像の確認時間	切／2秒／4秒／8秒／ホールド	92
ヒストグラム	輝度／RGB	123

- 〈2〉撮影系2の画面（タブ）は、かんたん撮影ゾーンでは表示されません。
- ［　］の項目は、かんたん撮影ゾーンでは表示されません。
- かんたん撮影ゾーンでは、記録画質RAW＋L、RAWは表示されません。

〈1〉機能設定系1（黄）

		参照頁
オートパワーオフ	30秒／1分／2分／4分／8分／15分／切	93
縦位置画像回転表示	する／する／しない	96
液晶の明るさ	液晶モニターの明るさ調整	93
液晶の自動消灯	しない／する	99
日付/時刻	日付/時刻の設定	35
画像番号	通し番号／オートリセット／強制リセット	94
CFカード初期化	記録内容を初期化して消去	36

〈2〉機能設定系2（黄）

言語	15言語 （英語／ドイツ語／フランス語／オランダ語／デンマーク語／フィンランド語／イタリア語／ノルウェー語／スウェーデン語／スペイン語／ロシア語／簡体中国語／繁体中国語／韓国語／日本語）	35
ビデオ出力方式	NTSC／PAL	119
カスタム機能(C.Fn)	カメラの機能を細かく設定する	99
設定解除	カメラ設定初期化 （カメラ設定を初期状態にする） カスタム機能一括解除 （カスタム機能をすべて解除する）	98
センサークリーニング：自動	今すぐ実行／電源スイッチ〈ON〉または〈OFF〉で実行（する／しない）	109
センサークリーニング：手動	マウント部からの手動清掃	112
ファームウェア Ver.	ファームウェア変更時に選択	－

撮影機能の組み合わせ一覧

●：自動設定　○：選択可能　□：選択不可

モードダイヤル		かんたん撮影ゾーン							応用撮影ゾーン				
									P	Tv	Av	M	A-DEP
記録画質	JPEG	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	RAW								○	○	○	○	○
	RAW+JPEG								○	○	○	○	○
ISO感度	自動設定	●	●	●	●	●	●	●					
	手動設定								○	○	○	○	○
ピクチャースタイル	スタンダード	●			●	●	●	●	○	○	○	○	○
	ポートレート		●						○	○	○	○	○
	風景			●					○	○	○	○	○
	ニュートラル								○	○	○	○	○
	忠実設定								○	○	○	○	○
	モノクロ								○	○	○	○	○
	ユーザー設定								○	○	○	○	○
ホワイトバランス	オートWB	●	●	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○
	プリセットWB								○	○	○	○	○
	マニュアルWB								○	○	○	○	○
	WB補正								○	○	○	○	○
	WBブラケティング								○	○	○	○	○
AF	ワンショット		●	●	●		●		○	○	○	○	●
	AIサーボ					●			○	○	○	○	
	AIフォーカス	●						●	○	○	○	○	
	AFフレーム選択 自動	●	●	●	●	●	●	●	○	○	○	○	●
	AFフレーム選択 任意								○	○	○	○	
	AF補助光	●	●		●		●		○	○	○	○	○
ドライブ	1枚撮影	●		●	●		●	●	○	○	○	○	○
	連続撮影		●			●			○	○	○	○	○
	セルフタイマー	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

モードダイヤル		かんたん撮影ゾーン							応用撮影ゾーン				
		□							P	Tv	Av	M	A-DEP
測光方式	評価測光	●	●	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○
	部分測光								○	○	○	○	○
	中央部重点平均測光								○	○	○	○	○
露出	プログラムシフト								○				
	露出補正								○	○	○		○
	AEB								○	○	○	○	○
	AEロック								○	○	○		○
	被写界深度確認								○	○	○	○	○
内蔵ストロボ	自動発光	●	●		●		●						
	手動発光								○	○	○	○	○
	発光禁止			●		●		●					
	赤目緩和	○	○		○		○		○	○	○	○	○
	FEロック								○	○	○	○	○
	ストロボ調光補正								○	○	○	○	○
色空間	sRGB	●	●	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○
	Adobe RGB								○	○	○	○	○

AEロックの効果

（撮影モードが応用撮影ゾーンのとき）

測光モード	AFフレーム選択	
	自動選択	任意選択
評価測光*	ピントを合わせたAFフレームを中心にした露出値でAEロック	選択されているAFフレームを中心にした露出値でAEロック
部分測光	中央のAFフレームを中心にした露出値でAEロック	
中央部重点平均測光		

* レンズのフォーカスモードスイッチが〈MF〉のときは、中央のAFフレームを中心にした露出値でAEロックします。

AFの苦手な被写体

　次のような特殊な被写体に対してはピント合わせができないことがあります。

- 明暗差（コントラスト）が極端に低い被写体
  例：青空、単色の平面など
- 非常に暗い場所にある被写体
- 極端な逆光状態にあり、かつ光の反射が強い被写体
  例：反射光の強い車のボディ
- 被写体が遠いところと近いところに共存する状態
  例：おりの中の動物
- 繰り返し模様の被写体
  例：ビルの窓やパソコンのキーボードなど

　これらの場合は次のいずれかの方法でピントを合わせます。

（1）ワンショットAFでは、被写体とほぼ同じ距離にあるものにフォーカスロックし、構図を決めなおして撮影する。（p.40）

（2）レンズのフォーカスモードスイッチを〈MF〉にして手動ピント合わせを行う。

エクステンダー（別売）を併用したときに、開放絞り数値がF5.6よりも大きいレンズでは、AF撮影できません。詳しくは、エクステンダーの使用説明書を参照してください。

故障かな？と考える前に

「カメラが故障したのかな？」と考える前に、下記の例を参考にしてカメラをチェックしてください。なお、チェックしても状態が改善しないときは、別紙の修理受付窓口にご相談ください。

電源

電源スイッチを〈ON〉にしてもカメラが作動しない

- 電池がカメラに入っているか確認してください。（p.24）
- 電源ランプが点灯しないときは、電池を充電してください。（p.22）
- 電池室ふたが閉じているか確認してください。（p.24）
- CFカードスロットカバーが閉じているか確認してください。（p.26）

電源スイッチを〈OFF〉にしてもアクセスランプが点滅する

- CFカードへの画像記録中に電源を切ると、数秒間はアクセスランプが点灯／点滅します。CFカードへの画像記録が終了すると、自動的に電源が切れます。

電池の消耗が早い

- フル充電した電池を使ってください。（p.22）
- 何度も繰り返し使用した電池で消耗が早いときは、新しい電池をお買い求めください。

電源が勝手に切れる

- シャッターボタンの半押しで電源が入るときは、オートパワーオフ機能が働いています。自動的に電源が切れないようにしたいときは、メニュー［**ƒ1 オートパワーオフ**］を［**切**］にしてください。
- ［**ƒ1 オートパワーオフ**］を［**切**］に設定していても、カメラを30分放置すると、液晶モニターが消灯して電源が切れたように見えます。〈DISP.〉ボタンを押すと液晶モニターが点灯します。

撮影

撮影・記録ができない

- CFカードが正しくセットされているか確認してください。（p.26）
- CFカードがいっぱいになってるときは、新しいCFカードに入れ換えるか、不要な画像を消去してください。（p.26、121）
- ワンショット AF でピントを合わせしたときに、ファインダー内の合焦マーク〈●〉が点滅すると撮影できません。もう一度シャッターボタンを半押ししてピントを合わせなおすか、手動でピントを合わせてください。（p.31、56）

液晶モニターの表示・画像が不鮮明になる

- 液晶モニターにゴミやほこりがついているときは、眼鏡ふきや、やわらかい布などでふいてください。
- 低温下、または高温化では、液晶の特性上、表示反応が遅くなったり、表示が黒くなったりすることがありますが、常温に戻れば正常に表示されるようになります。

画像がボケて写っている

- レンズのフォーカスモードスイッチを〈**AF**〉にしてください。（p.28）
- 手ブレを起こさないように、シャッターボタンを静かに押してください。（p.30、31）

CFカードが使えない

- CFカードの問題に関するメッセージが表示されたときは、36ページ、または161ページを参照してください。

カメラを振ると音がする

- 内蔵ストロボを上げるための機構がわずかに動くためで、故障ではありません。

画像の確認・操作

画像を消去できない

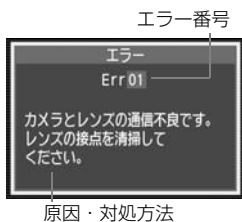
- 画像にプロテクトがかかっていると消去できません。（p.120）

撮影年月日／時刻が正しく表示されない

- 日付/時刻が正しく設定されているか確認してください。（p.35）

テレビに画像が表示されない

- ビデオケーブルのプラグが根元までしっかりと差し込まれているか確認してください。（p.119）
- ビデオ出力方式（NTSC/PAL）をテレビと同じ方式に設定ください。（p.155）
- カメラに付属のビデオケーブルを使用してください。（p.119）

エラー表示

カメラに異常が発生すると、エラー画面が表示されますので、表示される内容に従って対応してください。エラー状態から復帰させるときは、電源スイッチの〈OFF〉→〈ON〉、または電池の出し入れを行ってください。

エラー 02（CFカードの問題）が表示されたときは、CFカードの抜き差し、または初期化で正常に戻ることがあります。

頻繁にエラー画面が表示されるときは故障ですので、エラー番号を控えて別紙の修理受付窓口にご相談ください。

撮影直後にエラー画面が表示されたときは、撮影されていない場合があります。エラー状態から復帰させたあと、〈▶〉ボタンを押して画像を確認してください。

システムマップ

アイピースエクステンダー
EP-EX15
ラバーフレームEf
視度補正レンズE
アイカップEf
アングルファインダーC
セミハードケース
EH18-L
バッテリーグリップ
BG-E3
NB-2LH用
バッテリーマガジン
BGM-E3L
単3形電池用
バッテリーマガジン
BGM-E3A
ST-E2
220EX
430EX
580EX
マクロリングライト
MR-14EX
マクロツインライト
MT-24EX
付属品
* レンズ付きキットには
EF-S18-55mmレンズが付属
ワイドストラップ
EW-100DBII
バッテリーパック
NB-2LH
日付／時計機能用
CR2016
リチウム電池
バッテリーチャージャー
CB-2LW
カーバッテリー
チャージャー
CBC-NB2
ACアダプターキット
ACK-DC20
DCカプラー
DR-700
コンパクト
パワーアダプター
CA-PS700

CFカード
CFカードリーダー
PCMCIAアダプター
コンピューター
Windows XP
(Home Edition / Professional)
Windows 2000 Professional
Windows ME
Windows 98 Second Edition
Mac OS X 10.2~10.4
PCカードスロット
USBポート
(2.0/1.1)
·EOS DIGITAL Solution Disk
·ソフトウェア使用説明書（PDF）
インターフェースケーブル
IFC-400PCU
PictBridge対応プリンター
ビデオケーブル
VC-100
CPプリンター
Bubble Jetダイレクト
対応 プリンター
リモートスイッチ
RS-60E3
EF-S
レンズ
EFレンズ
リモート
コントローラー
RC-1
リモート
コントローラー
RC-5
テレビ／ビデオ

主な仕様

■型式

型式.................................... ストロボ内蔵、デジタル一眼レフレックスAF・AEカメラ
記録媒体............................ CFカード（タイプI、II準拠）
　　* マイクロドライブ、2GB以上のCFカード使用可
撮像画面サイズ................ 22.2×14.8mm
使用レンズ........................ キヤノンEFレンズ群（EF-Sレンズを含む）
　　（有効撮影画角は、表記焦点距離の約1.6倍に相当）
レンズマウント................ キヤノンEFマウント

■撮像素子

形式.................................... 高感度・高解像度大型単板CMOSセンサー
画素数................................ カメラ部有効画素：約1010万画素
　　総画素：約1050万画素
アスペクト比.................... 3：2
カラーフィルター方式...... RGB原色フィルター
ローパスフィルター.......... 固定式、撮像素子前面に配置
ダスト除去機能................ (1)センサークリーニング：自動
　　(2)センサークリーニング：手動
　　(3)撮影データへのダストデリートデータ付加

■記録形式

記録フォーマット............ DCF2.0
画像タイプ........................ JPEG、RAW（12bit）
RAW+JPEG同時記録..... 可能
ファイルサイズ................ (1)ラージ／ファイン　：約3.8MB（3888×2592画素）
　　(2)ラージ／ノーマル　：約2.0MB（3888×2592画素）
　　(3)ミドル／ファイン　：約2.3MB（2816×1880画素）
　　(4)ミドル／ノーマル　：約1.2MB（2816×1880画素）
　　(5)スモール／ファイン：約1.3MB（1936×1288画素）
　　(6)スモール／ノーマル：約0.7MB（1936×1288画素）
　　(7)RAW（ロウ）　　　：約9.8MB（3888×2592画素）
　　* ファイルサイズは、被写体条件、ISO感度、ピクチャースタイルなどにより異なる
画像番号............................ 通し番号、オートリセット、強制リセット
色空間................................ sRGB、Adobe RGB
ピクチャースタイル.......... スタンダード、ポートレート、風景、ニュートラル、忠実設定、モノクロ、ユーザー設定1～3
インターフェース............ USB端子（USB 2.0 Hi-Speed）：パソコン通信／ダイレクトプリント用
　　ビデオ出力端子（NTSC／PAL選択可能）

■ホワイトバランス

種類……オート、太陽光、日陰、くもり、白熱電球、白色蛍光灯、ストロボ、マニュアル
オートホワイトバランス……撮像素子を用いたオートホワイトバランス
色温度補正……ホワイトバランス補正：1段ステップ±9段
ホワイトバランスブラケティング：1段ステップ±3段
* ブルー／アンバー方向、マゼンタ／グリーン方向に補正可能
色温度情報通信……対応

■ファインダー

方式……ペンタダハミラー使用、アイレベル式
視野率……上下左右とも約95%
倍率……約0.8倍（50mmレンズ・∞・－1dpt）
アイポイント……約20mm
視度調整範囲……－3.0～＋1.0dpt
フォーカシングスクリーン……固定式、プレシジョンマット
ミラー……クイックリターン式全面ハーフミラー（透過：反射=40：60、ミラー切れ：EF600mm F4 L IS USMまでなし）
ファインダー情報……AF情報（AFフレーム、合焦マーク）、露出情報（シャッター速度、絞り数値、AEロック、露出レベル表示、露出警告）、ストロボ情報（充電完了、ハイスピードシンクロ、FEロック、調光補正）、ホワイトバランス補正、連続撮影可能枚数、CFカード情報
被写界深度確認……絞り込みボタンによる

■オートフォーカス

方式……TTL二次結像位相差検出方式
測距点……9点測距
輝度範囲……EV－0.5～18（常温・ISO100相当）
フォーカスモード……ワンショットAF、AIサーボAF、AIフォーカスAF、手動（MF）
AFフレーム選択……自動選択、任意選択
AFフレーム選択表示……ファインダー内スーパーインポーズと液晶モニターによる
AF補助光……内蔵ストロボ間欠発光方式
有効距離：中央部約4m／周辺部約3.5m

■露出制御

測光方式............................ 35分割TTL開放測光
・評価測光（すべてのAFフレームに対応）
・部分測光（中央部・ファインダー画面の約9%）
・中央部重点平均測光
測光範囲............................ EV1～20（常温・EF50mm F1.4 USM使用・ISO100相当）
露出制御方式..................... プログラムAE（全自動、ポートレート、風景、クローズアップ、スポーツ、夜景ポートレート、ストロボ発光禁止、プログラム）、シャッター優先AE、絞り優先AE、自動深度優先AE、マニュアル露出、E-TTL II自動調光
ISO感度............................ かんたん撮影ゾーン：ISO 100～400相当自動設定
応用撮影ゾーン：ISO 100～1600相当（1段ステップ）
露出補正............................ 手動 ：1/3、1/2段ステップ±2段（AEB併用可能）
AEB ：1/3、1/2段ステップ±2段
AEロック.......................... 自動 ：ワンショットAF・評価測光時、合焦と同時にAEロック
手動 ：AEロックボタン押しによる

■シャッター

形式.................................... 電子制御式、フォーカルプレーンシャッター
シャッター速度................ 1/4000～30秒（1/3、1/2段ステップ）、バルブ、X=1/200秒
レリーズ方式..................... ソフトタッチ電磁レリーズ
セルフタイマー................ 10秒後撮影
リモコン............................ リモートスイッチRS-60E3
リモートコントローラー RC-5／RC-1対応

■内蔵ストロボ

形式.................................... リトラクタブル式、オートポップアップストロボ
調光方式............................ E-TTL II自動調光
ガイドナンバー................ 13（ISO 100・m）
充電時間............................ 約3秒
充電完了表示..................... ファインダー内ストロボ充電完了マーク点灯
照射角................................ 焦点距離17mm相当の画角に対応
FEロック.......................... 可能
ストロボ調光補正............. 1/3、1/2段ステップ±2段

■外部ストロボ

EOS用ストロボ................EXシリーズスピードライト使用時、E-TTL II自動調光
画面サイズ対応ズーム......対応

■ドライブ関係

ドライブモード.................1枚撮影、連続撮影、セルフタイマー
連続撮影速度.....................最高約3コマ/秒
連続撮影可能枚数.............JPEG（ラージ／ファイン）：約27枚、RAW：約10枚
RAW+JPEG（ラージ／ファイン）：約8枚
* 当社試験基準512MBCFカード使用時
* 被写体条件、ISO感度、ピクチャースタイルなどにより異なる

■液晶モニター

形式....................................TFT式カラー液晶モニター
画面サイズ........................2.5型
画素数................................約23万画素
視野率................................約100%
輝度調整............................7段階に調整可能
表示言語............................15言語

■再生機能

画像表示形式.....................1枚、撮影情報、9枚インデックス、拡大ズーム（約1.5倍〜10倍）、オートプレイ、および画像回転、ジャンプ（10枚/100枚/日付）
ハイライト表示..................撮影情報表示のとき、ハイライト部分を点滅表示
ヒストグラム表示.............輝度、RGB

■記録画像のプロテクト／消去

プロテクト........................1枚単位でプロテクト、解除
消去....................................1枚、またはCFカード内全画像の単位で消去
（プロテクト画像を除く）

■ダイレクトプリント機能

対応プリンター.................PictBridge、CPダイレクト、Bubble Jet Direct対応プリンター
印刷対応画像.....................JPEG画像（DPOF指定画像の印刷も可能）
簡単印刷機能.....................あり

■印刷指定機能

DPOF................................バージョン1.1準拠

■ダイレクト画像転送機能
転送対応画像.....................JPEG画像、RAW画像
* パソコン画面の背景として転送する場合はJPEG画像のみ

■カスタマイズ機能
カスタム機能....................11種29項目

■電源
使用電池............................バッテリーパックNB-2LH、1個使用
* ACアダプターキットACK-DC20使用により、AC駆動可能
* バッテリーグリップBG-E3装着時、単3形電池使用可能

撮影可能枚数.....................[約・枚]

温度	撮影条件	
	ストロボ撮影なし	50%ストロボ撮影
常温（+23℃）	500	360
低温（0℃）	370	280

* フル充電のバッテリーパックNB-2LH使用時
* CIPA（カメラ映像機器工業会）の試験基準による

電池チェック....................自動
節電機能............................あり、設定時間（30秒/1/2/4/8/15分）経過で電源切
日付/時計機能用電池.......CR2016リチウム電池、1個使用
起動時間............................約0.2秒

■大きさ・質量
大きさ................................126.5（幅）×94.2（高さ）×65（奥行）mm
質量....................................約510g（本体のみ）

■動作環境
使用可能温度.....................0℃～＋40℃
使用可能湿度.....................85%以下

■バッテリーパックNB-2LH
形式....................................リチウムイオン電池
公称電圧............................DC7.4V
容量....................................720mAh
大きさ................................33.3（幅）×16.2（高さ）×45.2（奥行）mm
質量....................................約43g

■バッテリーチャージャー CB-2LW

充電可能電池 バッテリーパックNB-2LH
充電時間............................約90分
定格入力............................AC100～240V（50/60Hz）
定格出力............................DC8.4V
使用可能温度 ....0℃～＋40℃
使用可能湿度 85%以下
大きさ................................91（幅）×56（高さ）×22.5（奥行）mm
質量....................................約68g

■EF-S18-55mm F3.5-5.6 II USM

画角....................................対角線：74°20′～27°50′
水平：64°30′～23°20′
垂直：45°30′～15°40′
構成枚数............................9群11枚
最小絞り............................F22-36
最短撮影距離 0.28m
最大撮影倍率と画界.........18mm：0.1倍（248×161mm）
55mm：0.28倍（81×54mm）
フィルター径 58mm
対応フード........................EW-60C
最大径×長さ ....68.5×66mm
質量....................................約190g
対応ケース LP814

- 記載データはすべて当社試験基準によります。
- 製品の仕様および外観の一部を予告なく変更することがあります。
- 他社製のレンズを使用して不具合が生じた場合は、そのレンズメーカーへお問い合わせください。

撮影画角について

撮影画面は、35mm判カメラの撮影画面より小さいため、装着したレンズの有効撮影画角は、「表記焦点距離×約1.6倍」相当になります。

索　引

英数字

あ

か

さ

ま

や

ら

わ

Canon

キヤノン株式会社
キヤノンマーケティングジャパン株式会社
〒108-8011 東京都港区港南2-16-6

お客様相談窓口

製品の取り扱い方法、修理については、機種名をご確認のうえ、お買い上げの販売店、または別紙のお客様ご相談窓口、修理受付窓口にお問い合わせください。

アフターサービスについて

1. 保証期間経過後の修理は原則として有料となります。なお、運賃諸掛かりはお客様にてご負担願います。
2. 本製品の補修用性能部品（製品の機能を維持するために不可欠な部品）は、日本国内において、製造打ち切り後7年間を目安に保有しています。したがって期間中は原則として修理をお受けいたします。なお、故障の原因や内容によっては、期間中でも修理が困難な場合と、期間後でも修理が可能な場合がありますので、その判定につきましてはお買い上げ店、または別紙の修理受付窓口にお問い合わせください。
3. 修理品をご送付の場合は、見本の撮影データやプリントを添付するなど、修理箇所を明確にご指示のうえ、十分な梱包でお送りください。

キヤノンカメラサイトのご案内

キヤノンデジタルカメラのホームページを開設しています。インターネットをご利用の方は、お気軽にお立ち寄りください。

キヤノン株式会社／キヤノンマーケティングジャパン株式会社
canon.jp/eos-d

この使用説明書は、2006年8月に作成したものです。それ以降に発売されたアクセサリー、レンズとの組み合わせにつきましては、別紙のお客様相談センターにお問い合わせください。

リチウムイオン電池のリサイクルにご協力ください。

CT1 - 5213 - 001

PRINTED IN JAPAN
0000Ni0.0